

EPSON
EXCEED YOUR VISION

取扱説明書

Offirio
オフイリオ プロジェクター

EB-1775W

EB-1770W

EB-1760W

EB-1750

マニュアル中の表示の意味

• 安全に関する表示

取扱説明書および製品には、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよくご理解いただいた上で本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

• 一般情報に関する表示

注意	本機の故障や損傷の原因になるおそれがある内容を記載しています。
	関連する情報や知っておくと便利な情報を記載しています。
	関連事項や、より詳しい説明を記載しているページを示しています。
	マークの前のアンダーラインの引かれた用語は、用語解説で説明しています。「付録 用語解説」をご覧ください。  「用語解説」 p.125
【表記名】	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：【戻る】ボタン
[メニュー名]	環境設定メニューの項目を示しています。 例： [画質調整]から[明るさ]を選びます。 [画質調整] - [明るさ]

マニュアル中の表示の意味 2

はじめに

本機の特長 8

機種別機能一覧	8
かんたん、楽に設置・投写・片付け	8
USBケーブルを接続して投写（USBディスプレイ）	8
手軽に映像補正	8
ボタンを押すだけでスクリーンに合わせて自動補正-かんたんセットアップ-（EB-1775Wのみ）	8
本体の動きを検知して自動的にゆがみを補正	9
プレゼンテーションの幅を広げる便利な機能	9
ワイド（WXGA）スクリーンで投写情報量をアップ（EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ）	9
無線LANに接続してコンピューターの画面を投写（EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ）	9
簡単に無線LANと接続できるクイックワイヤレス（EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ）	9
リモコンの便利な機能	9

各部の名称と働き 10

前面/上面	10
背面	11
底面	12
操作パネル	13
リモコン	14
リモコンの電池交換	17
リモコンの操作可能範囲	17

準備

設置する 19

いろいろな設置方法	19
設置方法	19

スクリーンサイズと投写距離の目安	20
------------------	----

接続する 21

コンピューターの接続	21
映像機器の接続	22
USB機器の接続	23

基本的な使い方

投写する 26

設置から投写までの流れ	26
入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）	27
リモコンで目的の映像に切り替える	28
USBディスプレイで投写する	28
動作環境	28
初めて接続したとき	29
アンインストール	30

投写映像を調整する 31

スクリーン枠に合わせて自動補正する-かんたんセットアップ-（EB-1775Wのみ）	31
台形ゆがみを補正する	33
自動で補正する-自動タテヨコ補正-（EB-1775Wのみ）	33
自動で補正する-自動タテ補正-（EB-1770W/EB-1760W/EB-1750のみ）	34
手で補正する-手動タテヨコ補正-	34
手で補正する-Quick Corner-	34
映像のサイズを調整する	36
映像の高さを調整する	37
水平傾斜を調整する	37
ピントのズレを補正する	37
音量を調整する	38
映り具合を選ぶ（カラーモードの選択）	38
オートアイリス（自動絞り）を設定する	39
アスペクト比を切り替える	40
切り替え方法	40
ビデオ機器の映像のアスペクト比を切り替える	40
コンピューター映像のアスペクト比を切り替える	42

便利な機能

投写機能	45
コンピューターを使わずに投写する (スライドショー)	45
スライドショーで投写できるファイルの仕様	45
スライドショーの利用例	45
スライドショーの操作方法	46
選択した画像を投写する	48
フォルダー内の画像ファイルを連続投写する (スライドショー)	49
シナリオを再生する	49
シナリオ再生中の操作方法	49
画像ファイルの表示設定とスライドショーの動作設定	50
映像と音声を一時的に消す (AVミュート)	51
映像を停止させる (静止)	52
説明箇所を指し示す (ポインター)	52
映像を部分的に拡大する (Eズーム)	53
リモコンでマウスポインターを操作する (ワイヤレスマウス)	54
IDを設定してリモコンを使用する	55
プロジェクターのIDを設定する	56
リモコンのIDを設定する	57
複数台のプロジェクターを投写した時の色差補正	58
補正手順の概要	58
補正方法	58
ユーザーロゴの登録	59
セキュリティ機能	62
利用者を管理する (パスワードプロテクト)	62
パスワードプロテクトの種類	62
パスワードプロテクトの設定方法	62
パスワードの認証	63
操作を制限する (操作ボタンロック)	64
盗難防止用ロック	65

環境設定メニュー

環境設定メニューの操作	67
機能一覧	68
環境設定メニュー一覧	68
ネットワークメニュー (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)	69
画質調整メニュー	70
映像メニュー	71
設定メニュー	73
拡張設定メニュー	74
ネットワークメニュー (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)	76
ネットワークメニュー操作上のご注意	76
ソフトキーボードの操作	77
基本設定メニュー	78
無線LANメニュー	79
セキュリティーメニュー	80
メールメニュー	82
その他メニュー	82
初期化メニュー	83
情報メニュー (表示のみ)	84
初期化メニュー	84

困ったときに

ヘルプの見方	87
故障かなと思ったら	88
インジケータの見方	88
インジケータを見てもわからないとき	91
映像に関するトラブル	92
映像が表示されない	92
動画が表示されない (動画の部分だけが黒くなる)	93
自動的に投写が消える	93
「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される	93
「映像信号が入力されていません。」と表示される	93

ぼやける、ピントが合わない、ゆがむ	94
ノイズが入る、乱れる	95
映像が切れる（大きい）、小さい、アスペクトが合っていない	95
色合いが違う	96
暗い	97
投写開始時のトラブル	97
電源が入らない	97
その他のトラブル	98
音が出ない・小さすぎる	98
リモコンで操作できない	98
メッセージやメニューの言語を変更したい	99
プロジェクターに異常が起きててもメール通知されない（EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ）	99

メンテナンス

各部の掃除 101

本機の掃除	101
レンズの掃除	101
エアフィルターの掃除	101

消耗品の交換方法 102

ランプの交換	102
ランプの交換時期	102
ランプの交換方法	103
ランプ点灯時間の初期化	105
エアフィルターの交換	105
エアフィルターの交換時期	105
エアフィルターの交換方法	105

付録

便利なソフトウェア 108

EasyMP Network Projection（EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ）	108
EasyMP Slide Converter	108
EasyMP Monitor（EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ）	108

オプション・消耗品一覧 109

オプション	109
消耗品	109

監視と制御（EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ） 110

Webブラウザを使って設定を変更する（Web制御）	110
本機の設定	110
Web制御画面を表示する	110
Web Remote画面を表示する	111
メール通知機能で異常を通知する	112
異常通知メールの見方	112
SNMPを使って管理する	113
ESC/VP21コマンド	113
始める前に	113
コマンドリスト	113
通信プロトコル	114

Event IDについて（EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ） 115

PJLinkについて（EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ） 116

スクリーンサイズと投写距離 117

EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wの投写距離表	117
EB-1750の投写距離表	118

対応解像度一覧 120

対応解像度	120
コンピューター映像（アナログRGB）	120
コンポーネントビデオ	120
コンポジットビデオ	120
HDMI入力端子からの入力信号（EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ）	120

仕様一覧 122

本機仕様	122
------	-----

外形寸法図	124
用語解説	125
一般のご注意	127
表記について	127
商標について	128
索引	146



はじめに

ここでは、本機の特長と各部の名称について説明しています。

機種別機能一覧

お使いの機種により使用できる機能が異なります。機種ごとの対応機能は下図を参照してください。

機能	EB-1775W	EB-1770W	EB-1760W	EB-1750
USBディスプレイ	✓	✓	✓	✓
HDMI接続	✓	✓	✓	-
かんたんセットアップ	✓	-	-	-
自動タテヨコ補正	✓	-	-	-
自動タテ補正	-	✓	✓	✓
無線LAN接続	✓	✓※1	✓※1	-
WXGA対応解像度	✓	✓	✓	-
クイックワイヤレス	✓※2	✓※2	✓※2	-
ネットワークメニュー	✓	✓	✓	-
スライドショー	✓	✓	✓	✓

※1 無線LANユニットはオプション対応です。

※2 クイックワイヤレス用USBキーはオプション対応です。

かんたん、楽に設置・投写・片付け

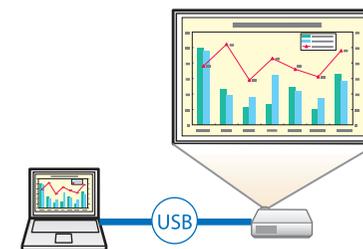
- 持ち運びしやすい小型軽量タイプで、外出先の会議やプレゼンテーションに活用
- コンセントの抜き差しで本機の電源をオン/オフ

- 大きなスクリーンにも短距離で投写可能
- レバー1つで簡単に高さを調整
- クールダウン不要ですばやく片付け

USBケーブルを接続して投写(USBディスプレイ)

コンピューターケーブルがなくても、同梱のUSBケーブルを接続してコンピューターの画面を投写できます。

☛ 「USBディスプレイで投写する」 p.28

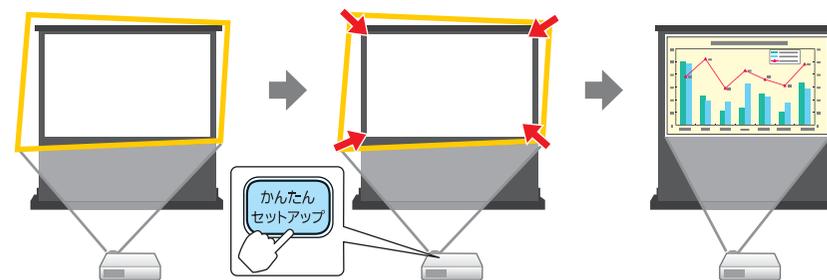


手軽に映像補正

ボタンを押すだけでスクリーンに合わせて自動補正-かんたんセットアップ-(EB-1775Wのみ)

スクリーンの枠に合わせて、自動的に映像のゆがみを補正して投写します。

☛ 「スクリーン枠に合わせて自動補正する-かんたんセットアップ-(EB-1775Wのみ)」 p.31



本体の動きを検知して自動的にゆがみを補正

プロジェクターを移動・設置したときに生じる投写映像の台形ゆがみやピントのズレを、自動的に補正して投写します。

EB-1775Wの場合

タテおよびヨコ方向の台形ゆがみを自動的に補正します。

☛ 「自動で補正する-自動タテヨコ補正- (EB-1775Wのみ)」 p.33

EB-1770W/EB-1760W/EB-1750の場合

タテ方向の台形ゆがみを自動的に補正します。

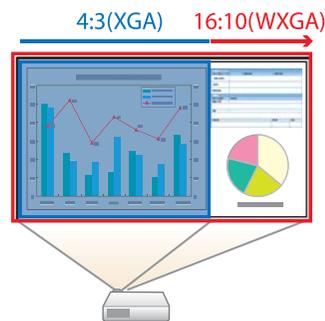
☛ 「自動で補正する-自動タテ補正- (EB-1770W/EB-1760W/EB-1750のみ)」 p.34

プレゼンテーションの幅を広げる便利な機能

ワイド(WXGA)スクリーンで投写情報量をアップ(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)

より多くの画像や文字をまとめて表示して、プレゼンテーションの提案力や伝達力を高めます。

☛ 「アスペクト比を切り替える」 p.40



無線LANに接続してコンピューターの画面を投写(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)

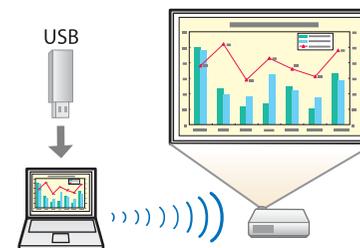
同梱またはオプションの無線LANユニットとEasyMP Network Projectionを使うと、ワイヤレスでコンピューターの画面を投写できます。

☛ 『EasyMP Network Projection操作ガイド』



簡単に無線LANと接続できるクイックワイヤレス(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)

オプションのクイックワイヤレス用USBキーをコンピューターに接続するだけで、プロジェクターをネットワークに接続して投写できます。



リモコンの便利な機能

投写映像の部分拡大など、リモコンを使って遠隔操作ができます。その他にも、プレゼンテーション中に便利なポインターや、コンピューター用のマウスとしてリモコンを利用できます。

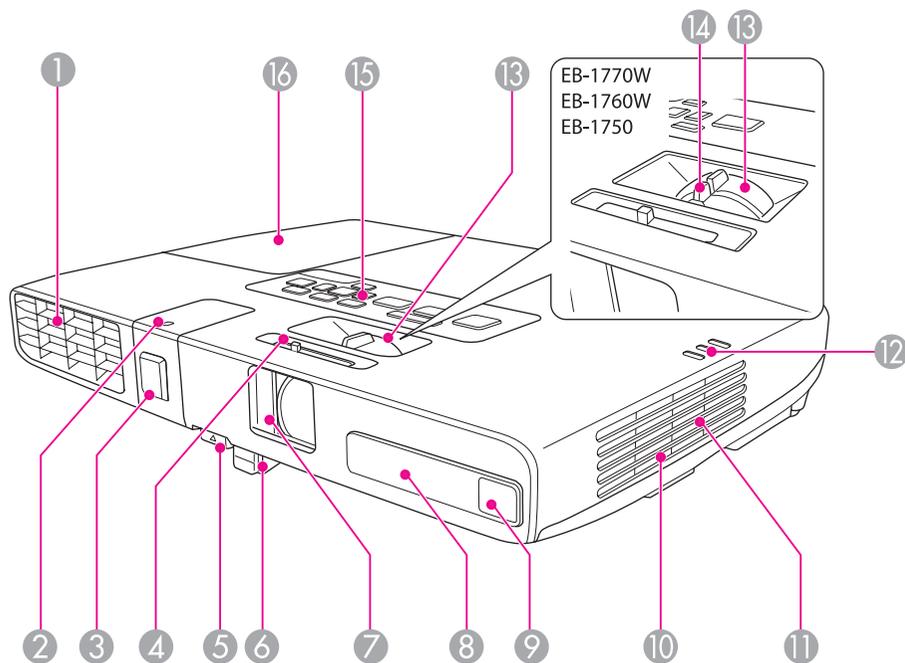
☛ 「説明箇所を指し示す (ポインター)」 p.52

☛ 「映像を部分的に拡大する (Eズーム)」 p.53

☛ 「リモコンでマウスポインターを操作する (ワイヤレスマウス)」 p.54

本書では断りがない限りEB-1775Wのイラストを用いて説明しています。

前面/上面

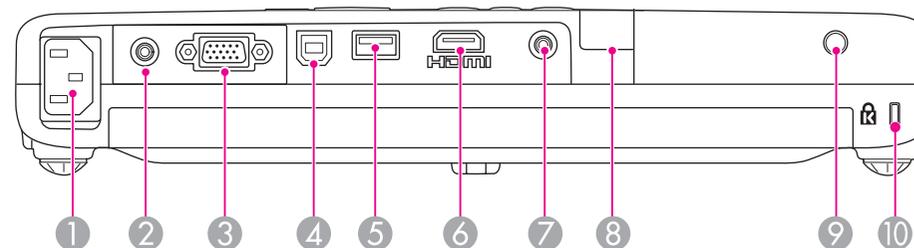


名称	働き
① 排気口	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。 注意 投写中は手や顔を排気口に近づけたり、変形など、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。

名称	働き
② 無線LANインジケータ (EB-1775W/EB-1770W/ EB-1760Wのみ)	同梱またはオプションの無線LANユニットのアクセス状況をお知らせします。
③ 無線LANユニットカバー (EB-1775W/EB-1770W/ EB-1760Wのみ)	本機とコンピューターを無線で接続するときに、このカバーをはずして同梱またはオプションの無線LANユニットを装着します。
④ スライド式レンズカバー操作部	ツマミをスライドさせてレンズカバーの開閉をします。
⑤ フットレバー	フットレバーを押して、フロントフットを伸縮させます。 ☛「映像の高さを調整する」 p.37
⑥ フロントフット	机上設置時に、フットを伸ばして映像の高さを調整します。 ☛「映像の高さを調整する」 p.37
⑦ スライド式レンズカバー	本機を使用しないときに閉じて、投写レンズを保護します。投写中に閉めると映像と音声を消すことができます。 ☛「映像と音声を一時的に消す (AVミュート)」 p.51
⑧ リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
⑨ センサー (EB-1775Wのみ)	投写映像を自動補正するときに、計測を行うセンサーです。
⑩ 吸気口 (エアフィルター)	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。 ☛「エアフィルターの掃除」 p.101
⑪ スピーカー	音声を再生します。
⑫ インジケータ	本機の状態を確認します。 ☛「インジケータの見方」 p.88
⑬ ズームリング	映像のサイズを調整します。 ☛「映像のサイズを調整する」 p.36

名称	働き
⑭ フォーカスリング (EB-1770W/EB-1760W/ EB-1750のみ)	映像のピントを合わせます。 ☛「ピントのズレを補正する」p.37
⑮ 操作パネル	本機の操作をします。 ☛「操作パネル」p.13
⑯ ランプカバー	ランプ交換時に、このカバーを開けて中のランプを交換します。 ☛「ランプの交換」p.102

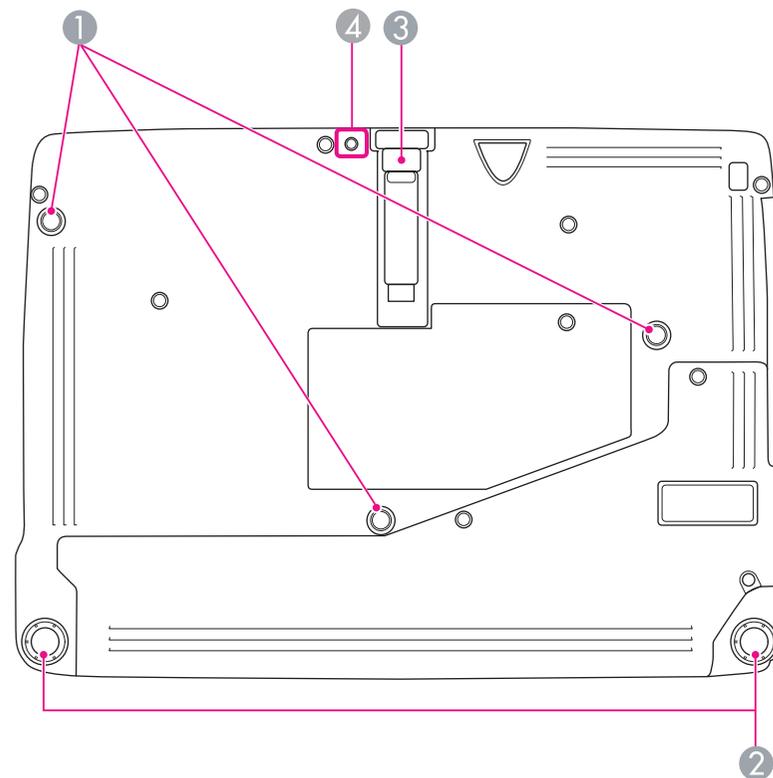
背面



名称	働き
① 電源端子	電源ケーブルを接続します。 ☛「設置から投写までの流れ」p.26
② ビデオ入力端子	ビデオ機器のコンポジットビデオ信号を入力します。
③ コンピューター入力端子	コンピューター映像信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。
④ USB(TypeB)端子	<ul style="list-style-type: none"> 同梱のUSBケーブルでコンピューターと接続して、コンピューターの映像を投写します。 ☛「USBディスプレイで投写する」p.28 ワイヤレスマウス機能を使うときに、同梱のUSBケーブルでコンピューターと接続します。 ☛「リモコンでマウスポインターを操作する（ワイヤレスマウス）」p.54
⑤ USB(Type A)端子	<ul style="list-style-type: none"> USBメモリーやデジタルカメラを接続し、画像やEasyMP Slide Converterで変換したファイル(.FSE, .SIT)をスライドショーで投写します。 ☛「コンピューターを使わずに投写する（スライドショー）」p.45 オプションの書画カメラ(ELPDC06)を接続します。
⑥ HDMI入力端子 (EB-1775W/EB-1770W/ EB-1760Wのみ)	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。本機はHDCP▶▶に対応しています。 ☛「接続する」p.21

名称	働き
⑦ 音声入力端子	音声ケーブルを接続し、本機のスピーカーから音声を出します。
⑧ リモコン受光部	リモコン信号を受信します。 ☛「リモコンの操作可能範囲」p.17
⑨ ランプカバー固定ネジ	ランプカバーを固定するネジです。
⑩ セキュリティースロット	Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応したセキュリティースロットです。 ☛「盗難防止用ロック」p.65

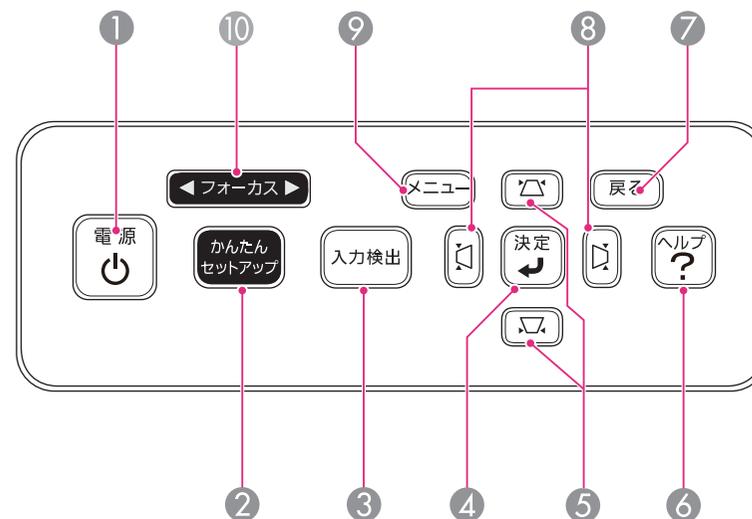
底面



名称	働き
① 天吊り固定部(3箇所)	天井から吊り下げて使うときに、オプションのアタッチメントプレートを取り付けます。 ☛「設置する」p.19 ☛「オプション」p.109
② リアフット	机上設置時に、フットを伸縮させて水平方向の傾きを調整します。 ☛「水平傾斜を調整する」p.37

名称	働き
③ フロントフット	机設置時に、フットを伸ばして映像の高さを調整します。 ☛「映像の高さを調整する」p.37
④ 無線LANユニットカバー固定用ネジ穴 (EB-1775W/EB-1770W/ EB-1760Wのみ)	無線LANユニットカバーを固定するネジ止め用の穴です。

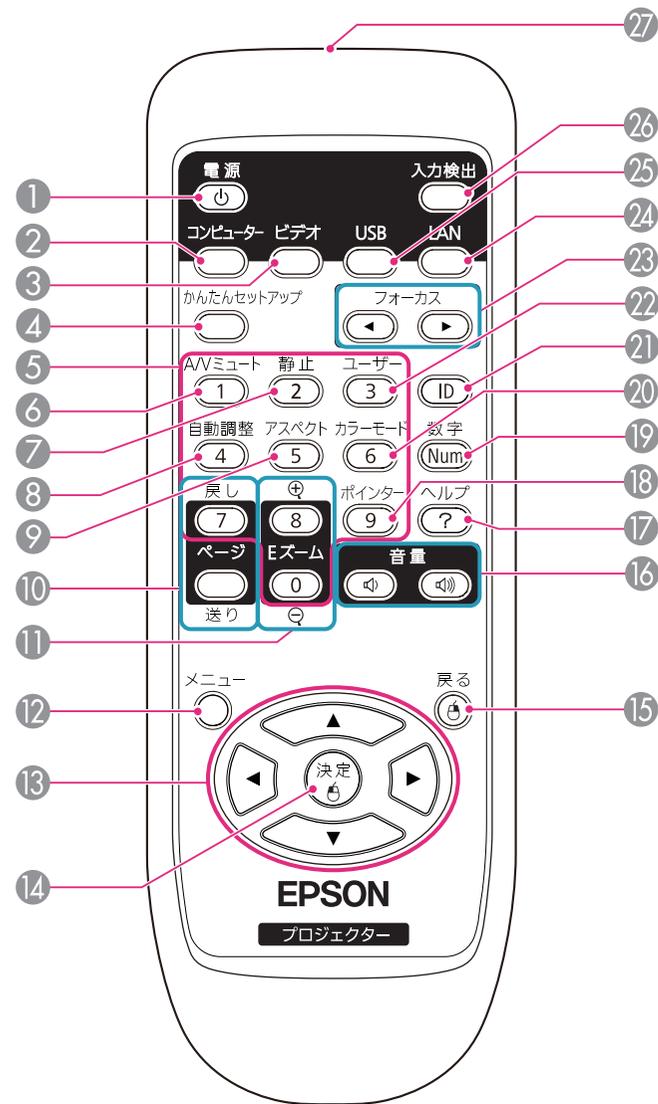
操作パネル



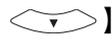
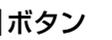
名称	働き
① 【 電源 】ボタン	電源をオン/オフします。 ☛「設置から投写までの流れ」p.26
② 【 かんたんセットアップ 】ボタン (EB-1775Wのみ)	スクリーンの枠に合うように投写映像を補正します。 ☛「スクリーン枠に合わせて自動補正する-かんたんセットアップ- (EB-1775Wのみ)」p.31 天吊り使用時はボタンを押しても機能しません。
③ 【 入力検出 】ボタン	映像信号が入力されている入力端子からの映像に切り替えます。 ☛「入力信号を自動検出して切り替える (入力検出)」p.27
④ 【 決定 】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。 コンピューター映像信号を投写中に押すと、[トラッキング]・[同期]・[表示位置]を最適な状態に自動調整します。

名称	働き
⑤ 【△】【▽】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> タテ方向の台形補正をします。 ☞「タテ方向の台形補正」 p.34 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値を選択します。 ☞「環境設定メニューの操作」 p.67 ☞「ヘルプの見方」 p.87
⑥ 【ヘルプ】ボタン	<p>トラブルの対処方法を示すヘルプを表示/終了します。</p> <p>☞「ヘルプの見方」 p.87</p>
⑦ 【戻る】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> 実行中の機能を終了します。 環境設定メニュー表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。 ☞「環境設定メニューの操作」 p.67
⑧ 【◀】【▶】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ヨコ方向の台形補正をします。 ☞「ヨコ方向の台形補正」 p.34 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値を選択します。 ☞「環境設定メニューの操作」 p.67 ☞「ヘルプの見方」 p.87
⑨ 【メニュー】ボタン	<p>環境設定メニューを表示/終了します。</p> <p>☞「環境設定メニューの操作」 p.67</p>
⑩ 【フォーカス】ボタン (EB-1775Wのみ)	<p>映像のピントを調整します。</p> <p>☞「ピントのズレを補正する」 p.37</p>

リモコン



名称	働き
① 【 ⏻]ボタン	本機の電源をオン/オフします。 ☛「設置から投写までの流れ」 p.26
② 【 コンピューター]ボタン	コンピューター入力端子からの映像に切り替えます。
③ 【 ビデオ]ボタン	押すたびに、ビデオ入力端子、HDMI入力端子 (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)からの映像に切り替えます。
④ 【 かんたんセットアップ]ボタン	スクリーンの枠に合うように投写映像を補正します。(EB-1775Wのみ) ☛「スクリーン枠に合わせて自動補正する-かんたんセットアップ- (EB-1775Wのみ)」 p.31 天吊り使用時やEB-1770W/EB-1760W/EB-1750使用時は、ボタンを押しても何も機能しません。
⑤ テンキー ボタン	<ul style="list-style-type: none"> パスワードの入力や、リモコンIDの設定をします。 ☛「リモコンのIDを設定する」p.57 ☛「パスワードプロテクトの設定方法」p.62 環境設定メニューの[ネットワーク]で数字を入力します。(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)
⑥ 【 AVミュート]ボタン	映像と音声を一時的に遮断/解除します。 ☛「映像と音声を一時的に消す (AVミュート)」 p.51
⑦ 【 静止]ボタン	映像を一時停止/解除します。 ☛「映像を停止させる (静止)」 p.52
⑧ 【 自動調整]ボタン	コンピューター映像信号を投写中に押すと、[トラッキング]・[同期]・[表示位置]を最適な状態に自動調整します。
⑨ 【 アスペクト]ボタン	押すたびに、アスペクト比が切り替わります。 ☛「アスペクト比を切り替える」 p.40

名称	働き
⑩ 【 ページ]ボタン 【 送り]【 戻し]	以下のときに、PowerPointファイルなどのページを送り/戻しします。 <ul style="list-style-type: none"> ワイヤレスマウス機能時 ☛「リモコンでマウスポインターを操作する (ワイヤレスマウス)」p.54 USBディスプレイ時 ☛「USBディスプレイで投写する」p.28 ネットワーク接続時 (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ) スライドショーで投写しているときは、画像またはシナリオを送り/戻しします。
⑪ 【 Eズーム]ボタン 【 +]【 -]	投写サイズを変えずに映像を拡大/縮小します。 ☛「映像を部分的に拡大する (Eズーム)」 p.53
⑫ 【 メニュー]ボタン	環境設定メニューを表示/終了します。 ☛「環境設定メニューの操作」 p.67
⑬ 【  】【  】 【  】【  】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値の選択を行います。 ☛「環境設定メニューの操作」p.67 スライドショーで投写しているときは、画像ファイルの送り/戻し、回転などをします。 ☛「スライドショーの操作方法」p.46 ワイヤレスマウス機能時は、ボタンを押すと、押した方向にマウスポインターが移動します。 ☛「リモコンでマウスポインターを操作する (ワイヤレスマウス)」p.54
⑭ 【 決定]ボタン	<ul style="list-style-type: none"> 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。 ☛「環境設定メニューの操作」p.67 ワイヤレスマウス機能時は、マウスの左ボタンとして機能します。 ☛「リモコンでマウスポインターを操作する (ワイヤレスマウス)」p.54

名称	働き
15 【戻る】ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ● 実行中の機能を終了します。 ● 環境設定メニューを表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。 ☛ 「環境設定メニューの操作」 p.67 ● ワイヤレスマウス機能時は、マウスの右ボタンとして機能します。 ☛ 「リモコンでマウスポインターを操作する（ワイヤレスマウス）」 p.54
16 【音量】ボタン 【◀】【▶】	<p>【◀】音量を下げます。 【▶】音量を上げます。 ☛ 「音量を調整する」 p.38</p>
17 【ヘルプ】ボタン	<p>トラブルの対処方法を示すヘルプを表示/終了します。 ☛ 「ヘルプの見方」 p.87</p>
18 【ポインター】ボタン	<p>投写中の映像にポインターが表示されます。 ☛ 「説明箇所を指し示す（ポインター）」 p.52</p>
19 【数字】ボタン	<p>パスワードや数字を入力するときに、このボタンを押しながらテンキーボタンを押します。 ☛ 「パスワードプロテクトの設定方法」 p.62</p>
20 【カラーモード】ボタン	<p>押すたびにカラーモードが切り替わります。 ☛ 「映り具合を選ぶ（カラーモードの選択）」 p.38</p>
21 【ID】ボタン	<p>リモコンのIDを設定するときに、このボタンを押しながらテンキーボタンを押します。 ☛ 「リモコンのIDを設定する」 p.57</p>
22 【ユーザー】ボタン	<p>環境設定メニューの項目のうちよく使われる5項目から任意に項目を選択して、このボタンに割り当てることができます。ボタンを押すと割り当てたメニュー項目の選択/調整画面が直接表示されるのでワンタッチで設定/調整の変更が行えます。 ☛ 「設定メニュー」 p.73 初期設定では「明るさ切替」が割り当てられています。</p>

名称	働き
23 【フォーカス】ボタン 【<】【>】	<p>映像のピントを調整します。（EB-1775Wのみ） EB-1770W/EB-1760W/EB-1750をお使いのときは、ボタンを押しても何も機能しません。 ☛ 「ピントのズレを補正する」 p.37</p>
24 【LAN】ボタン	<p>EasyMP Network Projectionで投写している映像に切り替えます。オプションのクイックワイヤレス用USBキーを使って投写しているときは、その映像に切り替えます。（EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ）</p>
25 【USB】ボタン	<p>押すたびに、以下の映像に切り替えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● USBディスプレイ ● USB(TypeA)端子に接続した機器からの映像
26 【入力検出】ボタン	<p>映像信号が入力されている入力端子からの映像に切り替えます。 ☛ 「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」 p.27</p>
27 リモコン発光部	<p>リモコン信号を出力します。</p>

リモコンの電池交換

使い続けているうちに、リモコンの反応が遅くなったり、操作できなくなったときは電池の寿命が考えられます。新しい電池と交換してください。交換用の電池は単3形マンガンあるいはアルカリ乾電池2本を用意してください。単3形マンガンあるいはアルカリ乾電池以外の電池は使用しないでください。

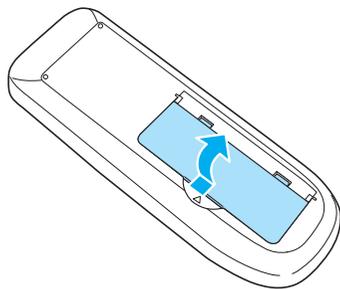
注意

電池を取り扱う前に、以下のマニュアルを必ずお読みください。

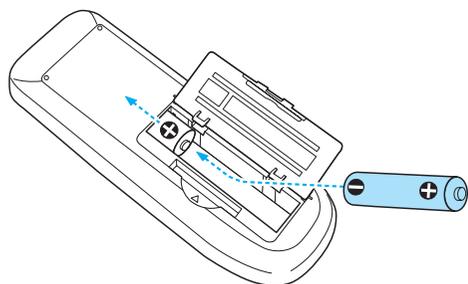
☛ 『安全にお使いいただくために』

1 電池カバーを外します。

電池カバーのツメを押さえながら、上へ持ち上げます。



2 新しい電池と交換します。

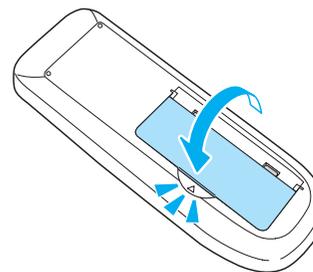


⚠ 注意

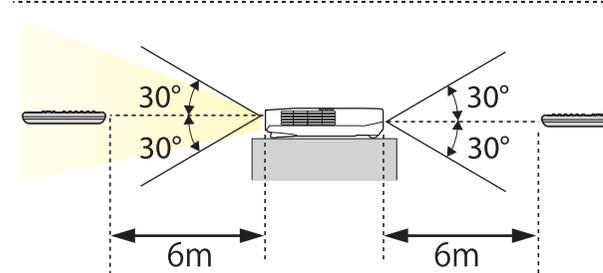
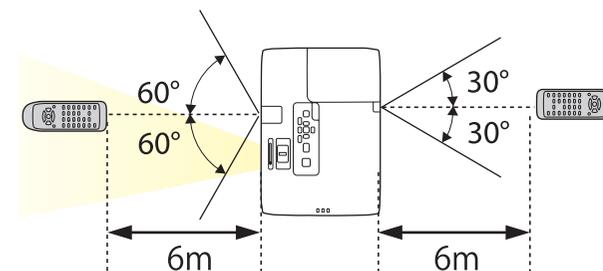
電池ホルダー内の表示を確認し、(+)(-)を正しく入れてください。

3 電池カバーを取り付けます。

カチッと音がするまでカバーを押し込みます。



リモコンの操作可能範囲





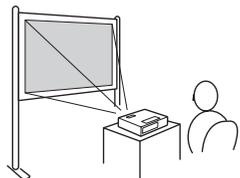
準備

ここでは、本機の設置方法と投写機器の接続方法について説明します。

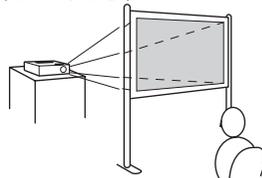
いろいろな設置方法

本機の投写方法は、次の4種類があります。設置場所の条件に合わせて設置してください。

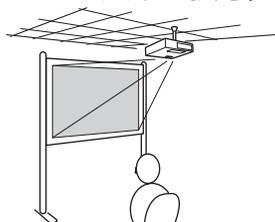
- 正面から投写する(フロント投写)



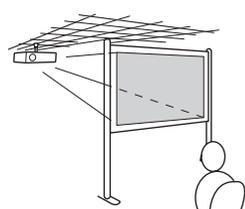
- リアスクリーンへ裏側から投写する(リア投写)



- 天吊りして正面から投写する(フロント・天吊り投写)



- 天吊りしてリアスクリーンへ裏側から投写する(リア・天吊り投写)



警告

- 天井への取り付け(天吊り設置)工事は、特別な技術が必要となります。正しく工事が行われないと、落下によりけがや事故の原因となります。
- プロジェクターの天吊り固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などが付着するとケースが割れ、プロジェクターが落下し事故やけがの原因となります。
天吊り設置や天吊り金具の調整に際しては、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。

注意

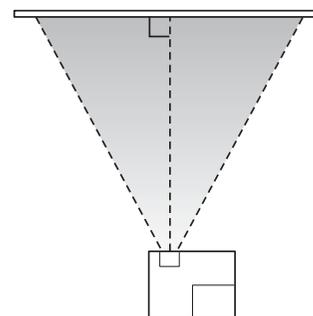
- 本機を縦置き状態にして投写しないでください。故障の原因となります。
- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



- 天吊りするには、オプションの天吊り金具とアタッチメントプレートが必要です。
☛ 「オプション」 p.109
- リモコンの【AVミュート】ボタンを約5秒間押し続けると、次のように設定を切り替えることができます。
[フロント] ↔ [フロント・天吊り]
[リア]、[リア・天吊り]に設定するには環境設定メニューで行います。
☛ [拡張設定]-[設置モード] p.74

設置方法

スクリーンに対してプロジェクターが平行になるように設置します。



スクリーンに対して本機を斜めに設置すると、投写映像が台形にゆがみます。台形ゆがみの補正方法につきましては、以下をご覧ください。

- ☛ 「スクリーン枠に合わせて自動補正する-かんたんセットアップ-(EB-1775Wのみ)」 p.31

☛ 「台形ゆがみを補正する」 p.33



本機は水平に置いてください。投写映像が水平に傾くときは以下を参照してください。

☛ 「水平傾斜を調整する」 p.37

スクリーンサイズと投写距離の目安

本機からスクリーンまでの距離により投写サイズが決まります。下図を参照して、適切なサイズで投写できる位置に本機を設置してください。下図は、ズームを最大にしたときの最短投写距離の目安です。投写距離の詳細は以下を参照してください。

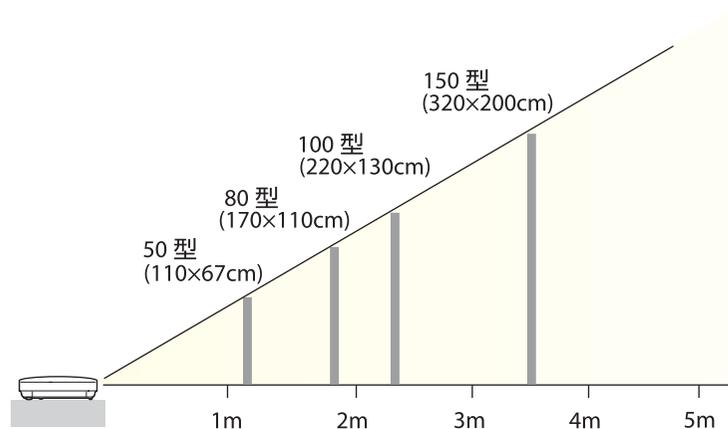
☛ 「スクリーンサイズと投写距離」 p.117



台形ゆがみを補正すると、投写映像のサイズが小さくなります。

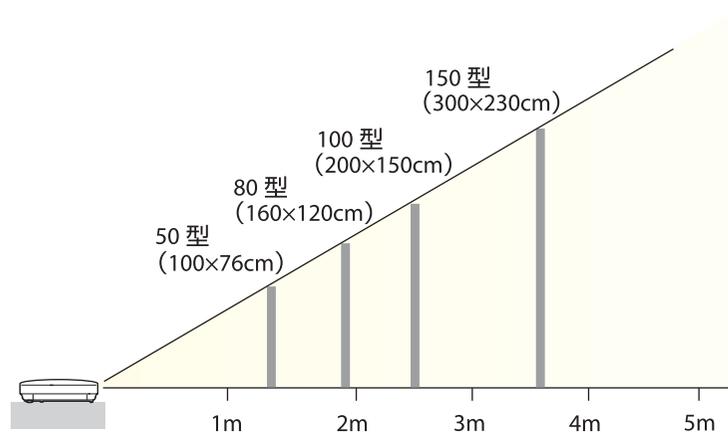
EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wの場合

16 : 10スクリーンサイズ



EB-1750の場合

4 : 3スクリーンサイズ



本機と投写機器の接続例を説明します。イラストはEB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのものです。

接続する機器により、端子名称、位置や向きが異なります。

コンピューターの接続

コンピューターの映像を投写するには、以下の方法で接続します。

① 同梱のコンピューターケーブルを使用するとき

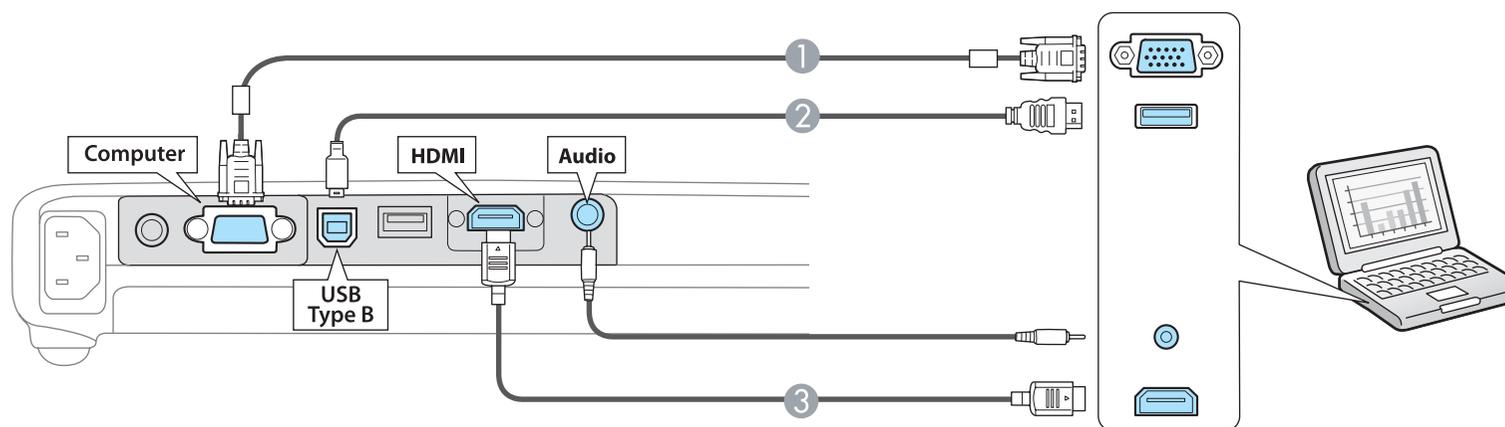
コンピューターのディスプレイ出力端子と本機のコンピューター入力端子を接続します。音声を本機のスピーカーから出力するときは、市販のオーディオケーブルも接続します。

② 同梱のUSBケーブルを使用するとき

コンピューターのUSB端子と本機のUSB (Type B) 端子を接続します。

③ 市販のHDMIケーブルを使用するとき

コンピューターのHDMI端子と本機のHDMI入力端子を接続します。



本機は、同梱のUSBケーブルでコンピューターと接続してコンピューターの映像を投写できます。この機能をUSBディスプレイと呼びます。

☛ 「USBディスプレイで投写する」 [p.28](#)

映像機器の接続

DVDプレーヤーやVHSビデオなどの映像を投写するには、以下の方法で接続します。

① 市販のビデオケーブルを使用するとき

映像機器のビデオ出力端子と本機のビデオ入力端子を接続します。音声を本機のスピーカーから出力するときは、市販のオーディオケーブルも接続します。

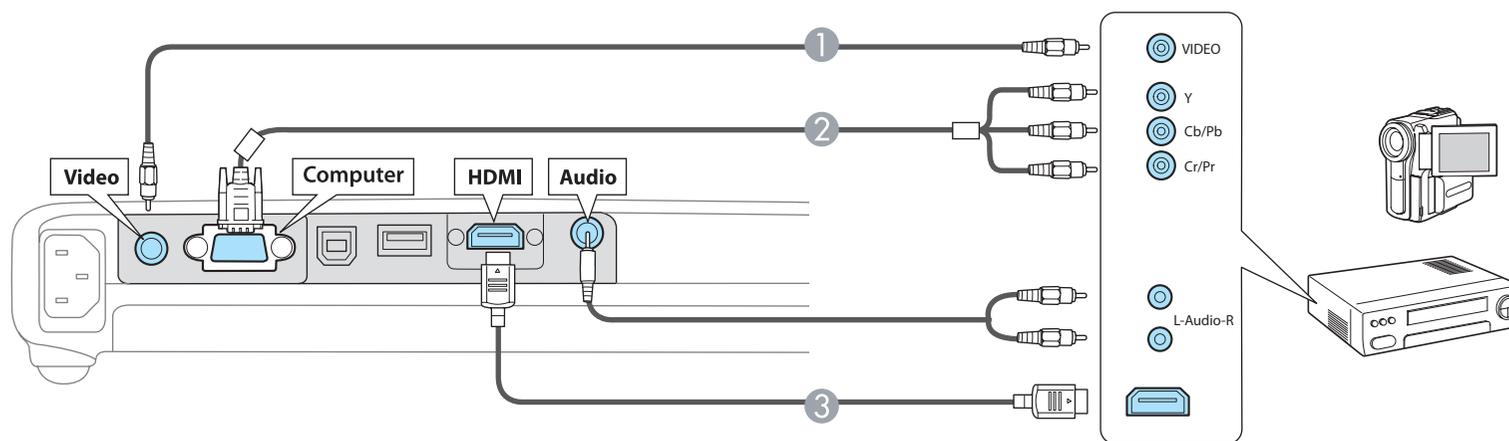
② オプションのコンポーネントビデオケーブルを使用するとき

☞「オプション」p.109

映像機器のコンポーネント出力端子と本機のコンピューター入力端子を接続します。音声を本機のスピーカーから出力するときは、市販のオーディオケーブルも接続します。

③ 市販のHDMIケーブルを使用するとき

映像機器のHDMI端子と本機のHDMI入力端子を接続します。



注意

- 接続機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。
- プラグの向きや形状が異なった状態で無理に押し込まないでください。機器の破損や故障の原因になります。

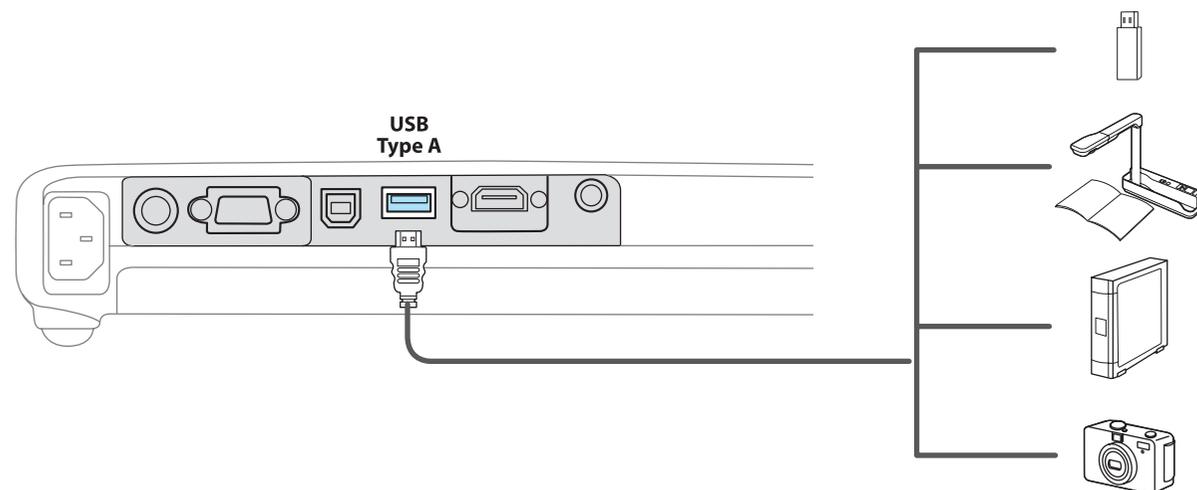


- 接続する機器が特有の端子形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- 市販の2RCA(L・R)/ステレオミニピンオーディオケーブルを使うときは、「抵抗なし」と表記されているものをお使いください。

USB機器の接続

USBメモリー、オプションの書画カメラ、USB対応のハードディスクやデジタルカメラなど、USB機器を接続できます。

USB機器に同梱のUSBケーブルで、USB機器と本機のUSB(Type A)端子を接続します。



USB機器を接続したときは、USBメモリーやデジタルカメラ内の画像ファイルをスライドショーで再生します。

☛ 「スライドショーの利用例」 [p.45](#)

他の映像機器を投写中に書画カメラを接続したときは、リモコンの【USB】ボタンを押すか、操作パネルの【入力検出】ボタンを押して、投写映像を書画カメラの画像に切り替えます。

☛ 「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」 [p.27](#)

注意

- USBハブを使用すると、正しく動作しません。デジタルカメラやUSB機器を直接本機に接続してください。
- USB対応のハードディスクを接続して使用する際は、必ずハードディスクに付属のACアダプターを接続してください。
- デジタルカメラやハードディスクの接続には、各機器に同梱または指定のUSBケーブルをお使いください。
- USBケーブルの長さは、3m以下のものをお使いください。ケーブル長が3mを超えると、スライドショーが正しく動作しないことがあります。

USB機器の取り外し方

投写終了後は、本機からUSB機器を取り外します。デジタルカメラやハードディスクなどは、各機器の電源をオフにしてから取り外してください。

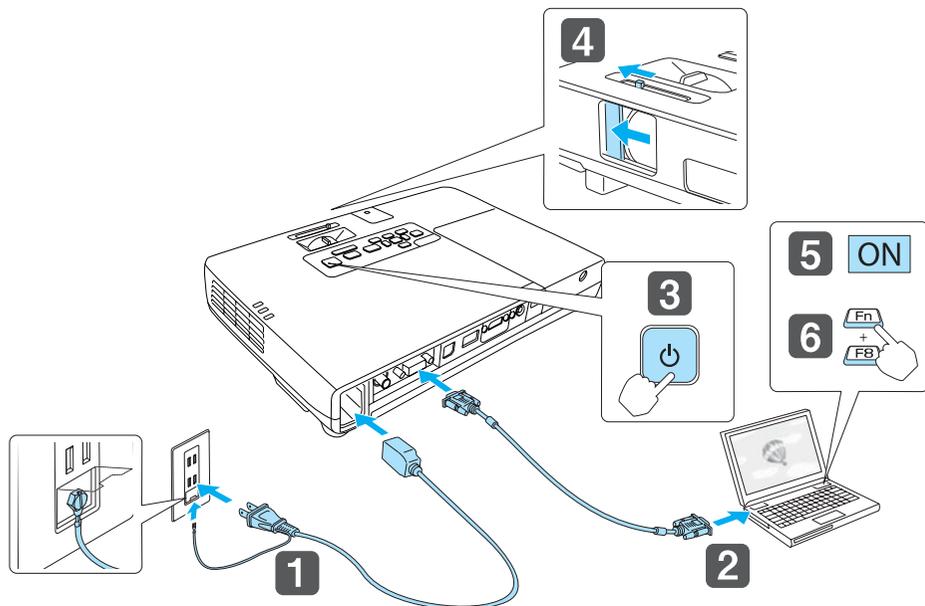


基本的な使い方

ここでは、映像の投写方法と映像補正方法について説明しています。

設置から投写までの流れ

コンピューターをコンピューターケーブルで接続して、映像を投写する手順を説明します。



- 1 本機とコンセントを電源ケーブルで接続します。

警告

接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

- 2 本機とコンピューターをコンピューターケーブルで接続します。
- 3 本機の電源を入れます。

- 4 レンズカバーを開けます。
- 5 コンピューターの電源を入れます。
- 6 コンピューターの画面出力先を切り替えます。
ノート型コンピューターを使用するときは、コンピューター側の画面出力切り替えが必要です。
Fnキー（ファンクションキー）を押したまま⌘/⌥キーを押します。

 使用するコンピューターにより、切り替え方法が異なります。コンピューターの取扱説明書を参照してください。

映像が投写されないときは、以下の方法で投写する映像を切り替えます。

- 操作パネルまたはリモコンの【入力検出】ボタンを押します。
☛ 「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」 [p.27](#)
- リモコンから目的の入力端子のボタンを押します。
☛ 「リモコンで目的の映像に切り替える」 [p.28](#)

 映像が正常に投写されたら、必要に応じて投写映像を補正してください。

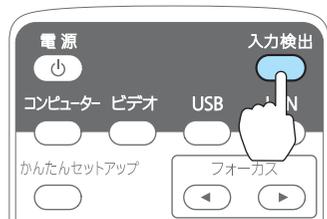
- ☛ 「スクリーン枠に合わせて自動補正する-かんたんセットアップ-(EB-1775Wのみ)」 [p.31](#)
- ☛ 「台形ゆがみを補正する」 [p.33](#)
- ☛ 「ピントのズレを補正する」 [p.37](#)

入力信号を自動検出して切り替える(入力検出)

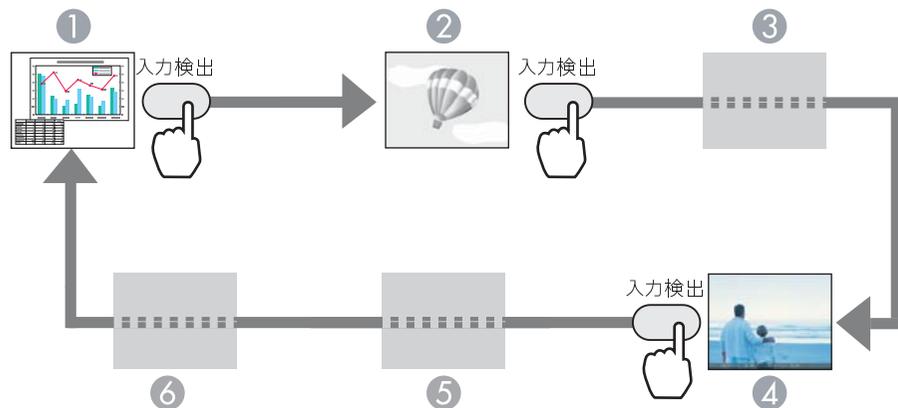
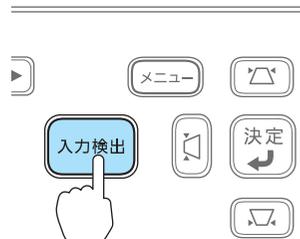
【入力検出】ボタンを押して、映像信号が入力されている入力端子の映像を投写します。

映像信号が入力されている入力端子の映像のみ投写しますので、目的の映像をすばやく投写できます。

リモコンの場合



操作パネルの場合



- ① コンピューター
- ② ビデオ
- ③ HDMI (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)
- ④ USB Display
- ⑤ USB
- ⑥ LAN (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)

複数の機器を接続しているときは、目的の映像が投写されるまで【入力検出】ボタンを繰り返し押します。

ビデオ機器を接続しているときは、再生状態にしてから操作を開始してください。



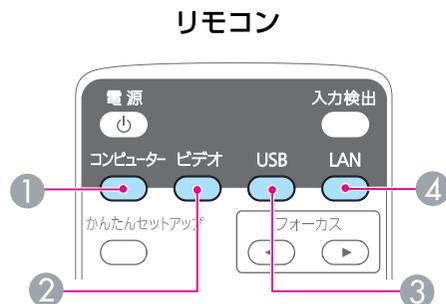
現在投写されている映像信号しか入力されていない場合や映像信号がまったく入力されていないときは、映像信号の状態を示す以下の画面が表示されます。この画面では投写したい機器を接続している入力端子を選択することができます。何も操作しないと、約10秒で画面は消えます。

例：EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wの場合



リモコンで目的の映像に切り替える

以下のリモコンのボタンを押すと、目的の映像に直接切り替えることができます。



- ① コンピューター入力端子からの映像に切り替えます。
- ② 押すたびに、以下の入力端子からの映像に切り替えます。
 - ビデオ入力端子
 - HDMI入力端子(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)
- ③ 押すたびに、以下の映像に切り替えます。
 - USBディスプレイ
 - USB(TypeA)端子に接続した機器からの映像
- ④ EasyMP Network Projectionで投写している映像に切り替えます。オプションのクイックワイヤレス用USBキーを使って投写しているときは、その映像に切り替えます。(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)

USBディスプレイで投写する

本機は、同梱のUSBケーブルでコンピューターと接続してコンピューターの映像を投写できます。

USBディスプレイを実行するには、環境設定メニューの[USB Type B]を[USB Display]に設定します。

👁️ [拡張設定]-[USB Type B] p.74

動作環境

Windowsの場合

OS	Windows 2000 Service Pack 4 以下の32ビット版OS： Windows XP Windows XP Service Pack 2以降 Windows Vista Windows Vista Service Pack 1以降 Windows 7
CPU	Mobile Pentium III 1.2GHz以上 推奨：Pentium M 1.6GHz以上
メモリー容量	256MB以上 推奨：512MB以上
ハードディスク 空き容量	20MB以上
ディスプレイ	640x480 以上、1600x1200 以下の解像度 16ビットカラー以上の表示色

Mac OSの場合

OS	Mac OS X 10.5.1以上 Mac OS X 10.6.x
CPU	Power PC G4 1GHz以上 推奨：Core Duo 1.83GHz以上
メモリー容量	512MB以上
ハードディスク 空き容量	20MB以上
ディスプレイ	640x480以上、1680x1200以下の解像度 16ビットカラー以上の表示色

初めて接続したとき

初めて接続したときは、ドライバーのインストールが必要です。インストールはWindowsとMac OSで手順が異なります。



- 次回接続時はドライバーのインストールは不要です。
- 他の入力端子からの映像を投写しているときは、入力ソースをUSB Displayに切り替えます。

Windowsの場合

- 1** 自動的にドライバーのインストールが開始します。
Windows 2000搭載のコンピューターをお使いのときは、コンピューターで[コンピューター] - [EPSON PJ_UD] - [EMP_UDSE.EXE]をダブルクリックしてください。
- 2** 使用許諾画面が表示されたら、[同意する]を選択します。
- 3** コンピューターの映像が投写されます。
コンピューターの映像が投写されるまでに、しばらく時間がかかることがあります。コンピューターの映像が投写されるまではUSBケーブルを抜いたり、本機の電源を切ったりせずにそのままの状態でお待ちください。
- 4** 終了するときはUSBケーブルを取り外します。
USBケーブルを取り外すときは、[ハードウェアの安全な取り外し]は必要ありません。



- 自動的にインストールされないときにはコンピューターで [マイコンピュータ] - [EPSON_PJ_UD] - [EMP_UDSE.EXE] をダブルクリックします。
- 万一、投写されないときにはコンピューターで [すべてのプログラム] - [EPSON Projector] - [EPSON USB Display] - [EPSON USB Display Vx.xx] をクリックします。
- Windows 2000搭載のコンピューターをユーザー権限でお使いのときは、Windowsのエラーメッセージが表示され使用できないことがあります。この場合は、Windowsをアップデートして最新の状態にしてから再度、接続し直してください。
詳細は、お買い上げの販売店または以下に記載の連絡先にご相談ください。
☛ [「お問い合わせ先」](#)

Mac OSの場合

- 1** FinderにUSBディスプレイのセットアップフォルダーが表示されます。
- 2** [USB Display Installer]アイコンをダブルクリックします。
- 3** 画面の指示に従って、インストールを進めます。
- 4** 使用許諾画面が表示されたら、[同意する]を選択します。
管理者権限のパスワードを入力して、インストールを開始します。
インストールが完了すると、DockとメニューバーにUSBディスプレイのアイコンが表示されます。
- 5** コンピューターの映像が投写されます。
コンピューターの映像が投写されるまでに、しばらく時間がかかることがあります。コンピューターの映像が投写されるまではUSBケーブルを抜いたり、本機の電源を切ったりせずにそのままの状態でお待ちください。

- 6** メニューバーまたはDockの[USB Display]アイコンから[切断]を選択します。その後にUSBケーブルを取り外します。



- FinderにUSBディスプレイのセットアップフォルダーが自動的に表示されないときは、コンピューターで [EPSON PJ_UD] - [USB Display Installer] をダブルクリックしてください。
- 万一、投写されないときにはDockの[USB Display]アイコンをクリックします。
- Dockに[USB Display]アイコンがないときは、アプリケーションフォルダーの[USB Display]を実行します。
- Dockの[USB Display]アイコンから[終了]を選択すると、次回USBケーブル接続時にUSBディスプレイが自動起動しなくなります。

アンインストール

Windowsの場合

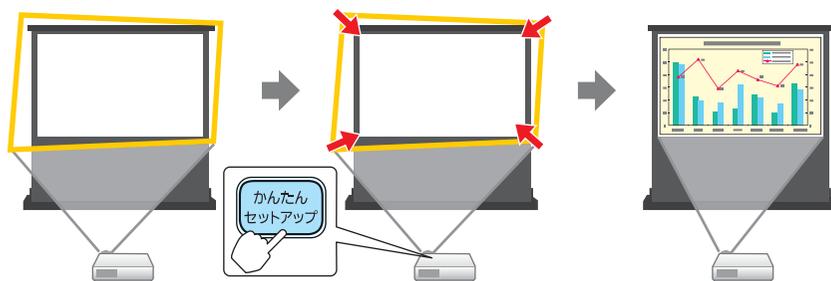
コンピューターの[コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] - [EPSON USB Display] を削除します。

Mac OSの場合

[アプリケーション] - [USB Display]の順にダブルクリックします。
[Tool]フォルダー内の[USB Display UnInstaller]を実行します。

スクリーン枠に合わせて自動補正する-かんたんセットアップ-(EB-1775Wのみ)

かんたんセットアップは、投写映像をスクリーンやホワイトボードなどの枠(縁取りの部分)に合うように補正する機能です。リモコンまたは操作パネルの【かんたんセットアップ】ボタンを押すと、投写映像がスクリーンの枠に収まると同時に、ゆがみ補正・ピント調整を自動で行います。

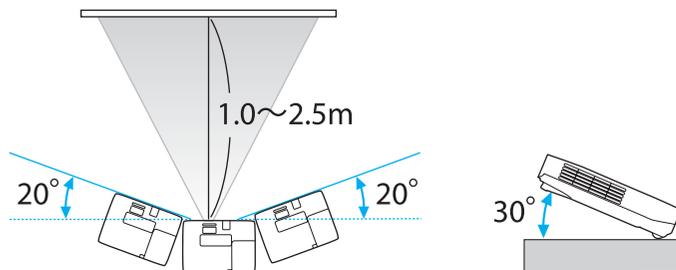


かんたんセットアップで投写映像を正しく補正できる条件は、以下のとおりです。

スクリーンのサイズ：100型以内

本機とスクリーンの距離：約1.0～2.5m

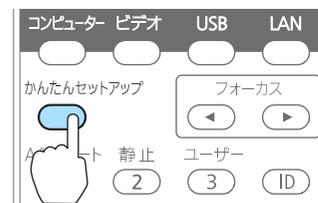
補正角度：左右約20°/上下約30°



- 上記の範囲を越えると正しく補正ができません。手動で投写映像を補正してください。
- 天吊り使用時は、かんたんセットアップは機能しません。手動で投写映像の補正をしてください。

1 投写中にリモコンまたは操作パネルの【かんたんセットアップ】ボタンを押します。

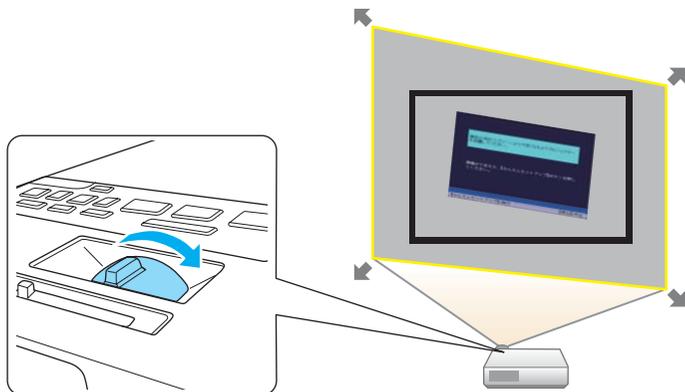
リモコンの場合



操作パネルの場合



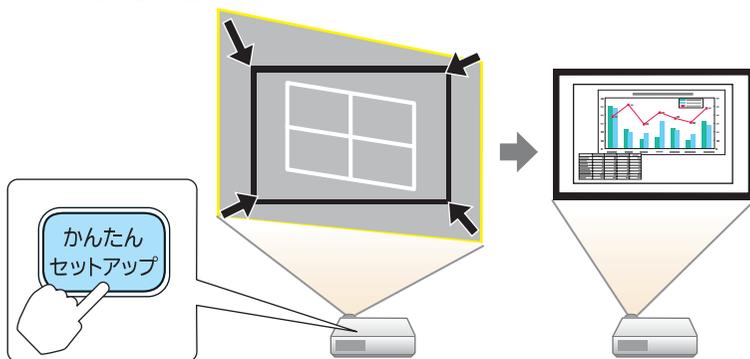
- 2** 黄色の枠がスクリーンの枠より大きくなるように、ズームリングで調整します。このとき、黒色のメッセージボックスがスクリーンの中央にくるようにします。



ズームリングで投写エリアを最大にしても投写エリアがスクリーンの枠より大きくならないときは、プロジェクターを設置する位置をスクリーンから離してみてください。

- 3** 【かんたんセットアップ】ボタン、または【決定】ボタンを押します。

調整用の画面が表示されたあと、入力映像のアスペクト比▶▶に合わせて投写映像が補正されます。



調整用の画面が表示されたら、プロジェクターを動かしたり、映像を遮断しないでください。正しく補正されません。

- 4** 補正後は以下のメッセージが表示されます。そのまま補正を終了するときは、リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押すと、メッセージが消えます。

補正後の投写映像を微調整するときは、操作パネルの【◁】【▷】【↶】【↷】ボタンを押して調整します。

補正結果は本体操作パネルの ◀▶ で微調整できます。

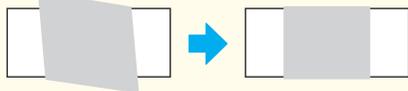
何も操作しないと、このメッセージは約7秒後に消えます。

かんたんセットアップ実行後は、環境設定メニューの[台形補正]が[Quick Corner]に設定されます。以降、操作パネルの【◁】【▷】【↶】【↷】ボタンで投写映像を補正するときは、Quick Cornerでの補正になります。

☛ 「手で補正する-Quick Corner-」 p.34

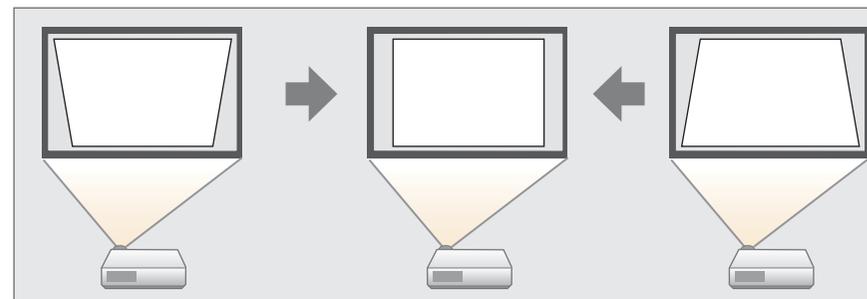


- かんたんセットアップは投写エリア内に2辺以上の枠を検知すると、検知した枠に合わせて補正をします。たとえば、せまい部屋で横長のスクリーンに投写するときは、スクリーンの上下の辺を投写エリア内に収めることで、補正が可能です。

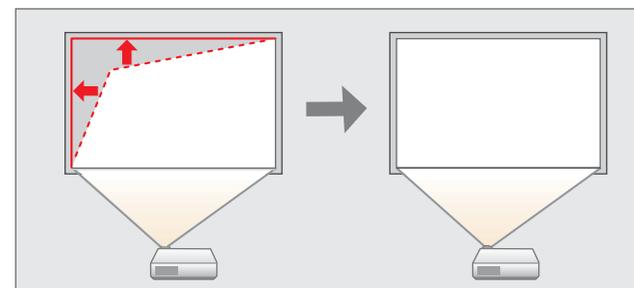


- 明かりを消した部屋など暗い環境でお使いのときは、かんたんセットアップがうまく機能しない場合があります。その場合は、部屋を明るくしてから、再度、かんたんセットアップを実行してみてください。
 - かんたんセットアップはセンサーを使用しているため、投写面の状態(たわみや模様など)や外光の影響によっては正しく機能しないことがあります。この場合は手動で調整を行ってください。
- ☛ 「手動で補正する-手動タテヨコ補正-」 [p.34](#)

- 手動で補正する(手動タテヨコ補正)
タテ方向とヨコ方向のゆがみを個別に補正します。



- 手動で補正する(Quick Corner)
4つのコーナーを個別に補正します。



台形ゆがみを補正すると、投写映像のサイズが小さくなります。

台形ゆがみを補正する

投写映像の台形ゆがみを補正するには、以下の方法があります。

- 自動で補正する
台形のゆがみを自動的に補正します。
-自動タテヨコ補正(EB-1775Wのみ)
-自動タテ補正(EB-1770W/EB-1760W/EB-1750のみ)

自動で補正する-自動タテヨコ補正-(EB-1775Wのみ)

本機を設置したときや、移動したり傾けたときなど、プロジェクターが動きを感知すると、投写映像のタテ方向・ヨコ方向の台形ゆがみとピントのズレを自動的に補正します。この機能を自動タテヨコ補正といいます。

プロジェクターが動きを感知してから約2秒間静止すると、調整用の画面が表示された後に投写映像が補正されます。



- 自動タテヨコ補正が機能するのは、[設置モード]で[フロント]を選択しているときのみです。
 ● [拡張設定]-[設置モード] p.74
- 自動タテヨコ補正を機能させたくないときは、[自動タテヨコ補正]を[オフ]に設定してください。
 ● [設定]-[台形補正]-[タテヨコ]-[自動タテヨコ補正] p.73

自動で補正する-自動タテ補正-(EB-1770W/EB-1760W/EB-1750のみ)

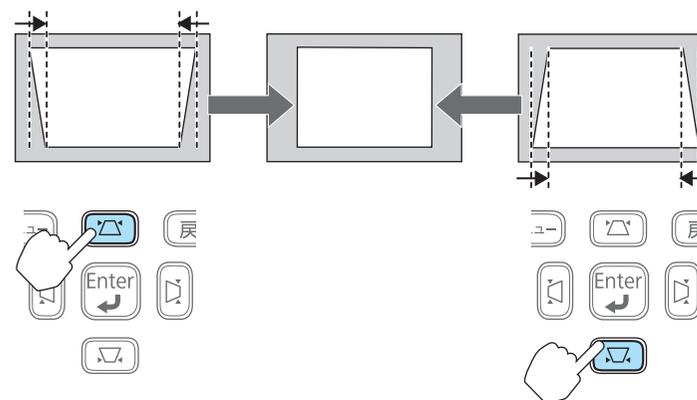
EB-1770W/EB-1760W/EB-1750をお使いの場合は、タテ方向のみ自動補正します。ヨコ方向の台形ゆがみを補正するときは、手動タテヨコ補正で個別に補正します。

手動で補正する-手動タテヨコ補正-

タテ方向とヨコ方向の台形ゆがみを個別に補正します。タテヨコ補正は台形ゆがみの微調整に向いています。

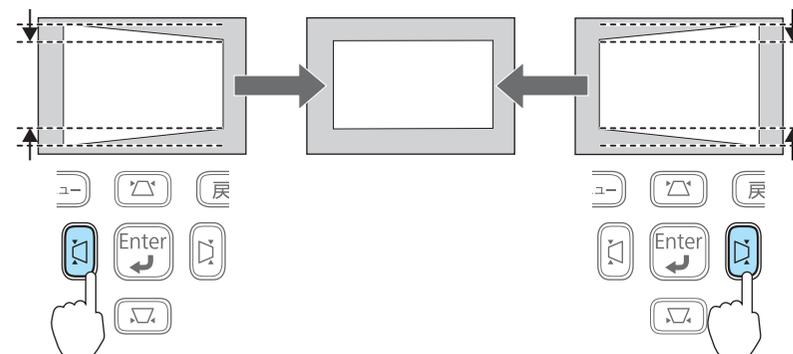
タテ方向の台形補正

操作パネルの【△】【▽】ボタンを押します。



ヨコ方向の台形補正

操作パネルの【←】【→】ボタンを押します。



- 手動タテヨコ補正は環境設定メニューからも設定できます。
 ● [設定]-[台形補正]-[タテヨコ] p.73

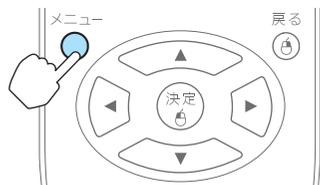
手動で補正する-Quick Corner-

スクリーンに合わせて投写映像の4つのコーナーを個別に補正します。

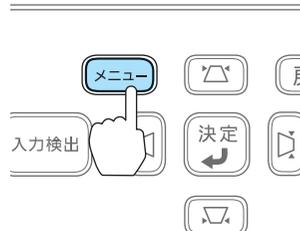
1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

☛ 「環境設定メニューの操作」 p.67

リモコンの場合

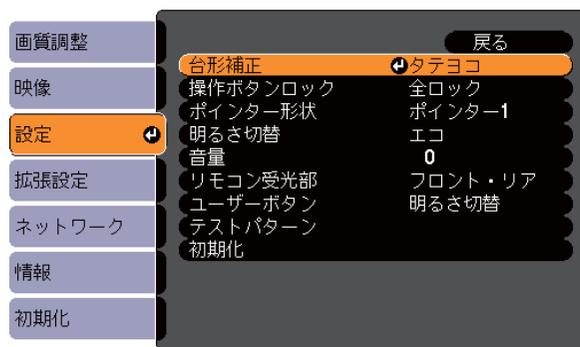


操作パネルの場合



【◆/◆】: 選択
 【決定】: 決定
 【戻る】: 戻る(2秒間押下で初期化/切替)

2 【設定】から【台形補正】を選択します。

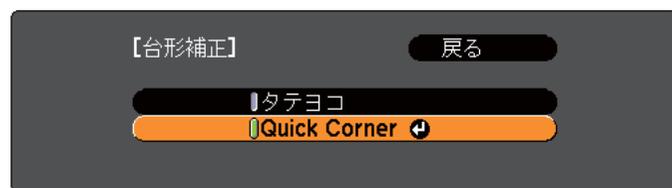


【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【決定】: 決定 【メニュー】: 終了

4 補正するコーナーをリモコンの【▲】【▼】【▶】【◀】ボタンまたは操作パネルの【▽】【△】【⏪】【⏩】ボタンで選択して【決定】ボタンを押します。



3 【Quick Corner】を選択し【決定】ボタンを押します。



【戻る】: 戻る 【◆】: 選択 【決定】: 決定 【メニュー】: 終了

- 5** リモコンの【】【】【】【】ボタンまたは操作パネルの【】【】【】【】ボタンでコーナーの位置を補正します。

補正中に以下の画面が表示されたときは、グレーの三角で示す部分が補正量の限界に達したことを示しています。



- 6** 手順4と5を繰り返して補正が必要なコーナーすべてを補正します。

- 7** 補正を終了するには、【戻る】ボタンを押します。

【台形補正】を【Quick Corner】に変更したので、以降は操作パネルの【】【】【】【】ボタンを押すと手順3のコーナーを選択する画面が表示されます。操作パネルの【】【】【】【】ボタンを押したときにタテヨコ補正したいときは、【台形補正】を【タテヨコ】に変更してください。

☛ 【設定】-【台形補正】-【タテヨコ】 p.73



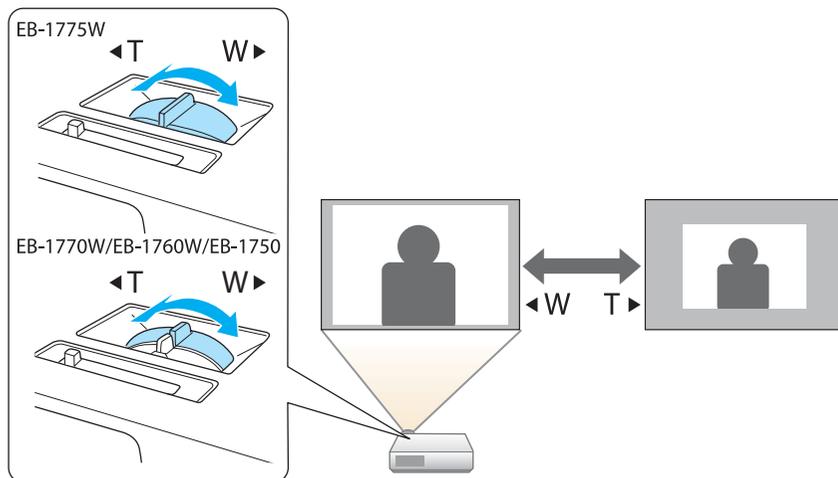
- 【自動タテヨコ補正】を【オン】に設定していると、本機を動かしたときに、「自動タテヨコ補正を実行しますか？」とメッセージが表示されます。(EB-1775Wのみ)
実行したときは、【台形補正】が【Quick Corner】から【タテヨコ】に設定されるので、以降は操作パネルの【】【】【】【】ボタンを押すとタテヨコ補正になります。
☛ 【設定】-【台形補正】-【タテヨコ】 p.73
- Quick Cornerで補正中に【戻る】ボタンを約2秒間押し続けると、以下の画面が表示されます。



- 【Quick Corner初期化】：Quick Cornerで補正した結果を初期化します。
【タテヨコへ切替】：補正方法を【タテヨコ】に切り替えます。
☛ 「設定メニュー」 p.73

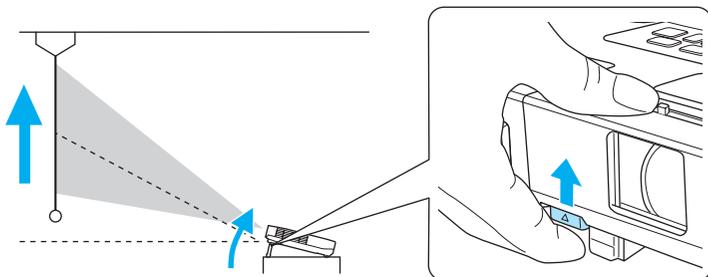
映像のサイズを調整する

ズームリングを回して、投写映像のサイズを調整します。



映像の高さを調整する

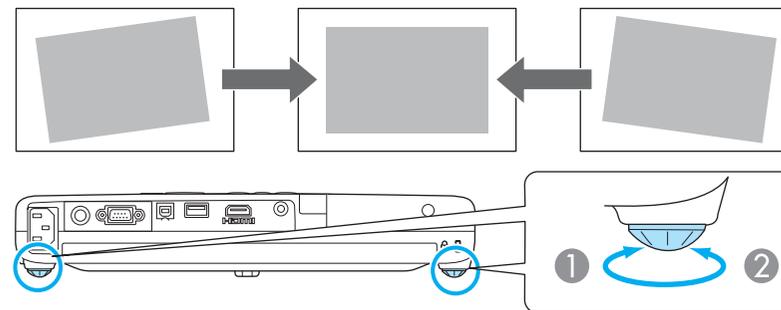
フットレバーを押して、フロントフットを伸ばします。最大14度まで傾けて、映像の高さを調整できます。



傾斜角度が大きくなると、ピントが合いにくくなります。傾斜角度が小さくなるように設置してください。

水平傾斜を調整する

リアフットを伸縮して本機の水平方向の傾きを調整します。

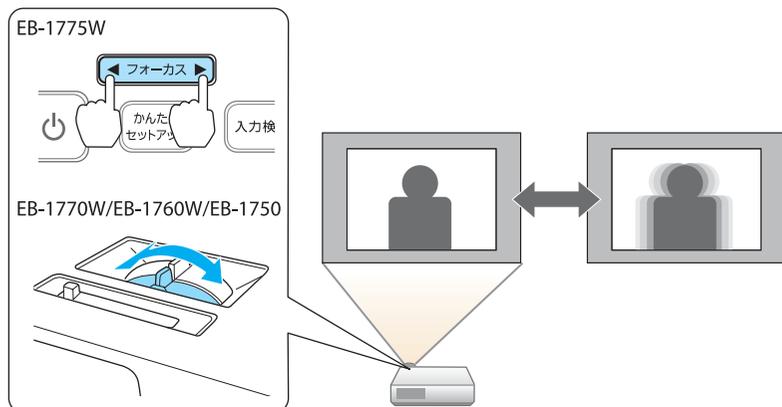


- ① リアフットを伸ばします。
- ② リアフットを縮めます。

ピントのズレを補正する

ピントのズレを補正するには、以下の方法があります。

- 操作パネルまたはリモコンの【フォーカス】ボタンを押して調整する。(EB-1775Wのみ)
- フォーカスリングで調整する。(EB-1770W/EB-1760W/EB-1750のみ)



- 環境設定メニューから調整する。

☛ [設定]- [音量] p.73

⚠ 注意

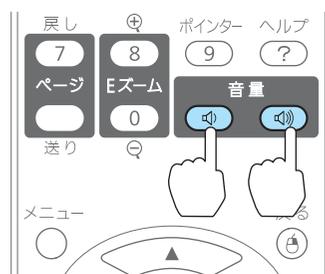
初めから音量を上げすぎないでください。
突然大きな音が出て、聴力障害の原因になることがあります。電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

音量を調整する

音量を調整するには、以下の方法があります。

- リモコンの【音量】ボタンを押して調整する。

リモコン



【🔊】音量を下げます。

【🔊】音量を上げます。

映り具合を選ぶ(カラーモードの選択)

投写時の環境に応じて次の設定から選択するだけで、簡単に最適な画質で投写できます。モードによって投写の明るさが変わります。

モード名	使い方
ダイナミック	明るい部屋での使用に最適です。一番明るいモードで、暗部の階調表現に優れています。
プレゼンテーション	明るい部屋で、カラーの資料を使ってプレゼンテーションを行うのに最適です。
シアター	暗い部屋で、映画を楽しむのに最適です。自然な色合いの映像になります。
フォト※1	明るい部屋で、写真などの静止画像を投写するのに最適です。鮮やかで、コントラストのある映像になります。
スポーツ※2	明るい部屋で、テレビ番組などを楽しむのに最適です。鮮やかで、臨場感のある映像になります。
sRGB	sRGB▶▶に準拠した映像になります。
黒板	黒板(緑色)に投写しても、スクリーンに投写したときのような自然な色合いの映像になります。
ホワイトボード	ホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行うのに最適です。

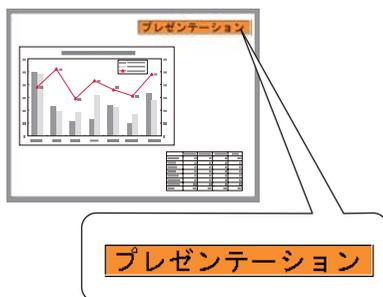
モード名	使い方
カスタム	環境設定メニューの[カラー調整]で[R]、[G]、[B]、[C]、[M]、[Y]の調整をしたいときは事前に[カスタム]を選択しておきます。

※1 RGB信号入力時と入力ソースがUSB Display/USB/LANのときのみ選択できます。(お使いの機種により対応していない入力ソースがあります。)

※2 コンポーネントビデオ信号入力時と、入力ソースがビデオのときのみ選択できます。

【カラーモード】ボタンを押すたびに画面上にカラーモード名が表示され、カラーモードが切り替わります。

リモコン



カラーモードは環境設定メニューからも設定できます。

☛ [画質調整]-[カラーモード] p.70

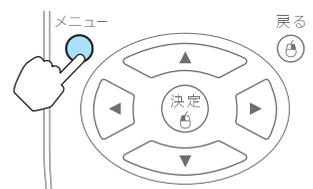
オートアイリス(自動絞り)を設定する

表示される映像の明るさに合わせて、光量を自動的に設定することで、奥行きと深みのある画像が楽しめます。

1 【メニュー】ボタンを押します。

☛ 「環境設定メニューの操作」 p.67

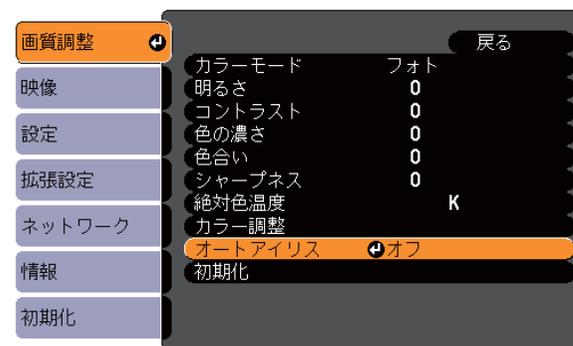
リモコンの場合



操作パネルの場合



2 【画質調整】から【オートアイリス】を選びます。



【戻る】:戻る 【◀▶】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

3 【オン】を選択します。

設定値はカラーモードごとに保存されます。

4 【メニュー】ボタンを押して設定を終了します。



【カラーモード】が【ダイナミック】、【シアター】、【カスタム】のいずれかに設定されているときに限り、オートアイリスの設定ができます。



アスペクト比は環境設定メニューからも設定できます。

☞ 【映像】-[アスペクト] p.71

アスペクト比を切り替える

ビデオ機器を接続し、デジタルビデオで録画した映像やDVD映像を16:9のワイド画面で投写するときはアスペクト比▶を切り替えます。コンピュータ映像を投写サイズいっぱい投写するときなどもアスペクト比を切り替えます。

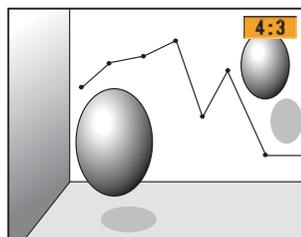
投写している映像の種類により、選択できるアスペクトモードは異なります。

切り替え方法とアスペクトモードの種類は次のとおりです。

切り替え方法

【アスペクト】ボタンを押すたびに画面上にアスペクトモード名が表示され、アスペクト比が切り替わります。

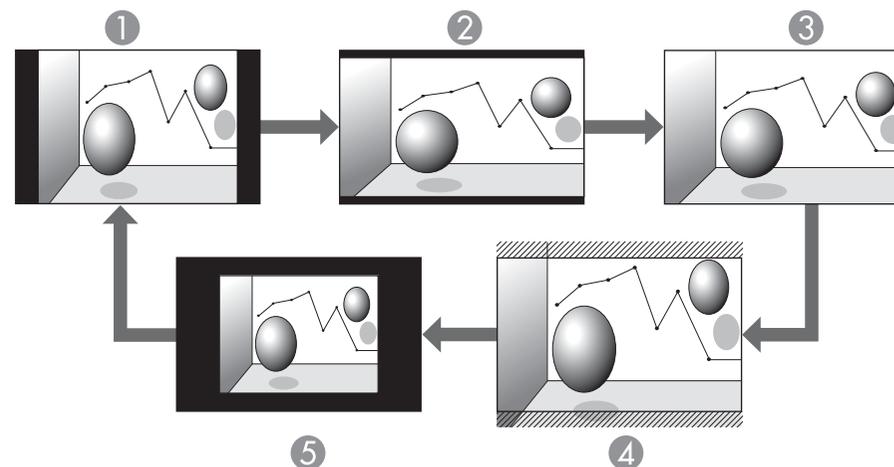
リモコン



ビデオ機器の映像のアスペクト比を切り替える

EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wの場合

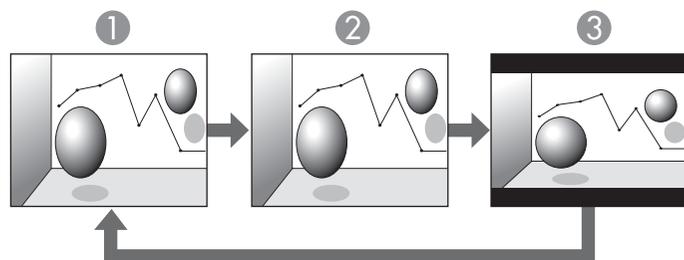
ボタンを押すたびに、【ノーマル】または【オート】、【16:9】、【フル】、【ズーム】、【リアル】の順で切り替わります。



- ① ノーマルまたはオート
- ② 16:9
- ③ フル
- ④ ズーム
- ⑤ リアル

EB-1750の場合

ボタンを押すたびに、[ノーマル]、[4:3]、[16:9]の順で切り替わります。



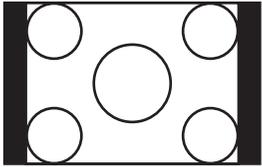
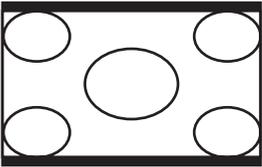
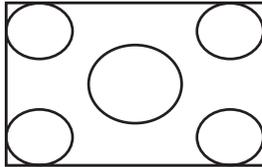
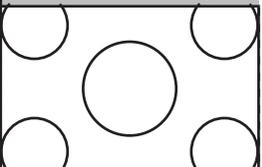
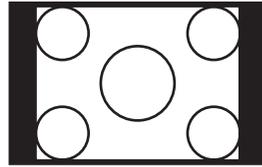
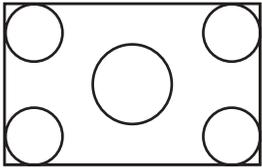
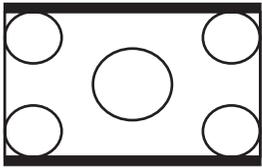
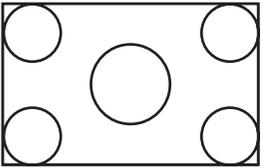
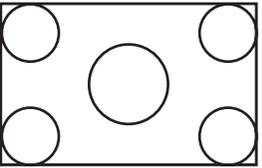
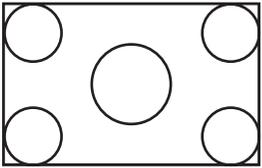
- ① ノーマル
- ② 4:3
- ③ 16:9

※720p/1080i信号入力時はズーム4:3表示(映像の左右をカットした表示)になります。

コンピューター映像のアスペクト比を切り替える

EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wの場合

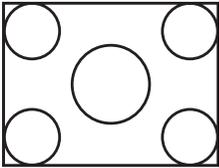
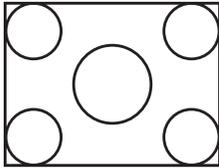
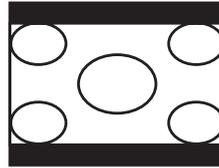
ボタンを押すたびに、[ノーマル]または[オート]、[16:9]、[フル]、[ズーム]、[リアル]の順で切り替わります。

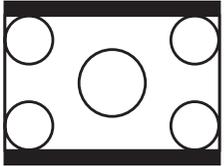
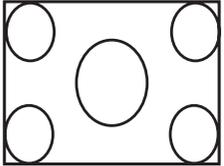
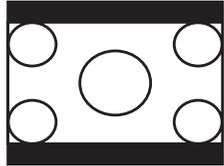
コンピューターからの入力		プロジェクターのアスペクト設定				
入力解像度	アスペクト比	ノーマル/オート※	16:9	フル	ズーム	リアル
XGA(1024×768)	4 : 3					
WXGA(1280×800)	16 : 10					

※ 入力ソースがHDMIのときに限り選択できます。

EB-1750の場合

ボタンを押すたびに、[ノーマル]、[4:3]、[16:9]の順で切り替わります。

コンピューターからの入力		プロジェクターのアスペクト設定		
入力解像度	アスペクト比	ノーマル	4:3	16:9
XGA(1024×768)	4 : 3			

コンピューターからの入力		プロジェクターのアスペクト設定		
入力解像度	アスペクト比	ノーマル	4:3	16:9
WXGA (1280×800)	16 : 10			



投写映像が欠けてすべてが投写できないときは、お使いのコンピューターのパネルサイズに合わせて、環境設定メニューの[入力解像度]を[ワイド]または[ノーマル]に設定してください。

☛ [映像] - [入力解像度] [p.71](#)



便利な機能

ここでは、プレゼンテーションなどに効果的な機能と、セキュリティー機能について説明しています。

コンピューターを使わずに投写する(スライドショー)

USBメモリーやUSBハードディスクなどのUSBストレージを本機に装着して、保存されているファイルをコンピューターを使わずに投写できます。この機能をスライドショーといいます。

同梱のEasyMP Slide Converterで、PowerPointファイルをシナリオに変換してUSBストレージに保存しておけば、本機とUSBストレージだけでプレゼンテーションが可能です。



- セキュリティー機能が付いているUSBストレージは、使用できないことがあります。
- スライドショーで投写時は、操作パネルの【】【】【】【】ボタンを押しても台形補正できません。

スライドショーで投写できるファイルの仕様

種類	ファイルタイプ (拡張子)	備考
画像	.jpg	以下の場合は投写できません。 ・ CMYKカラーモード形式 ・ プログレッシブ形式 ・ 解像度が8192x8192を超えるもの JPEGファイルの特性上、圧縮率が高いと画像がきれいに投写されないことがあります。
	.bmp	解像度が1280x800を超えるものは投写できません。
	.gif	・ 解像度が1280x800を超えるものは投写できません。 ・ アニメーションGIFは投写できません。

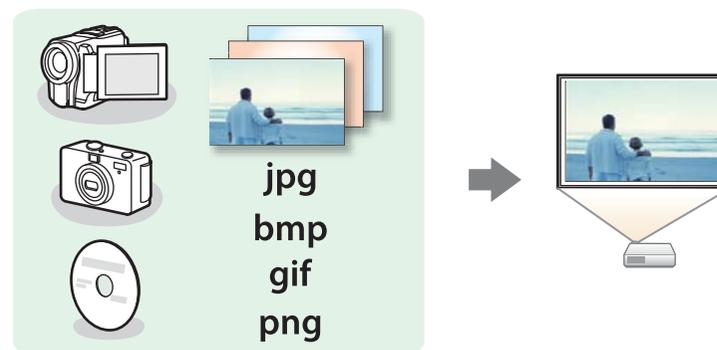
種類	ファイルタイプ (拡張子)	備考
	.png	解像度が1280x800を超えるものは投写できません。
シナリオ	.fse	EasyMP Slide ConverterでPowerPointファイルを変換したファイル形式です。
	.sit	EasyMP Slide ConverterでPowerPointファイルを簡易変換したファイル形式です。PowerPointのアニメーション効果は変換されません。



- USB対応のハードディスクを接続して使用する際は、必ずハードディスクに付属のACアダプターを接続してください。
- 一部のファイルシステムに対応できないことがありますので、Windows上でフォーマットしたメディアをお使いください。
- メディアはFAT16/32でフォーマットしてください。

スライドショーの利用例

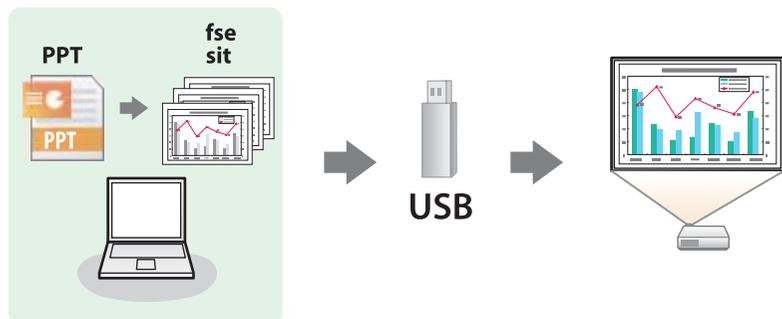
USBストレージに保存した画像を投写する



☛ 「選択した画像を投写する」 p.48

☛ 「フォルダー内の画像ファイルを連続投写する (スライドショー)」 p.49

EasyMP Slide Converterで変換したPowerPointファイルを投写する



EasyMP Slide ConverterでPowerPointファイルをシナリオに変換する方法は、以下のマニュアルをご覧ください。

☛ [『EasyMP Slide Converter操作ガイド』](#)

スライドショーの操作方法

以降、リモコンで操作を行ったときを例に説明していますが、操作パネルでも同様の操作を行えます。

起動する

- 1** 投写映像をUSBに切り替えます。
 - ☛ 「リモコンで目的の映像に切り替える」 [p.28](#)
- 2** プロジェクターに、USBストレージまたはデジタルカメラをセットします。
 - ☛ 「USB機器の接続」 [p.23](#)
 スライドショーが起動して、ファイル一覧画面が表示されます。

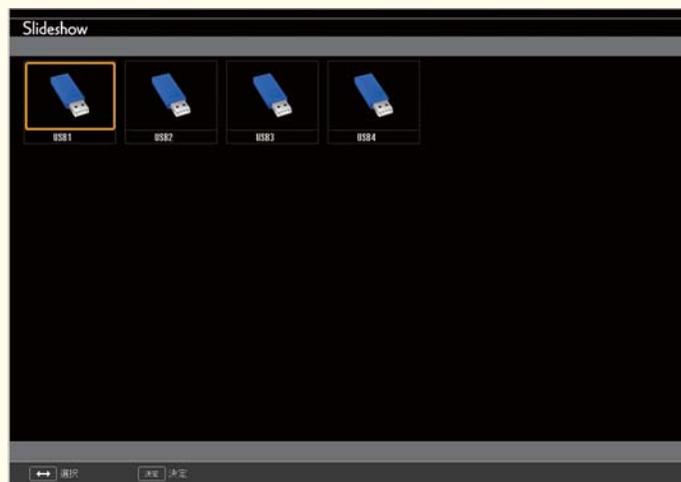
- JPEGファイルはサムネイル表示(ファイルの内容が小さい画像で表示)されます。
- シナリオ(FSEファイル、SITファイル)は、スライドの1枚目の画像がサムネイル表示されます。
- それ以外のファイルとフォルダーは次表のようにアイコンで表示されます。

アイコン	ファイル	アイコン	ファイル
	FSEファイル※		BMPファイル
	SITファイル※		GIFファイル
	JPEGファイル※		PNGファイル

※ サムネイル表示できない場合は、アイコンで表示されます。



- シナリオにオートランの設定がされているときは、他の入力ソースに対して最優先で自動再生されます。再生を中止したい場合は、【戻る】ボタンを押します。
- USBカードリーダーにメモリーカードをセットして本機に接続することができます。ただし、市販のUSBカードリーダーには本機で使用できないものもあります。
- 以下の画面(ドライブの選択画面)が表示されたときは、【】【】【】【】ボタンを押して使用するドライブを選択し、【決定】ボタンを押します。



- ドライブの選択画面を表示するには、ファイル一覧画面上部の【ドライブの選択】にカーソルを合わせて【決定】ボタンを押します。

投写する

- 1 【】【】【】【】ボタンを押して、操作の対象となるファイルまたはフォルダーを選択します。



現在表示中の画面にすべてのファイルやフォルダーが表示しきれていない場合は、リモコンの【送り】ボタンを押すか、画面下部の【次のページ】にカーソルを合わせて【決定】ボタンを押します。

前の画面に戻る場合は、リモコンの【戻し】ボタンを押すか、画面上部の【前のページ】にカーソルを合わせて【決定】ボタンを押します。

2 【決定】ボタンを押します。

選択した映像が表示されます。

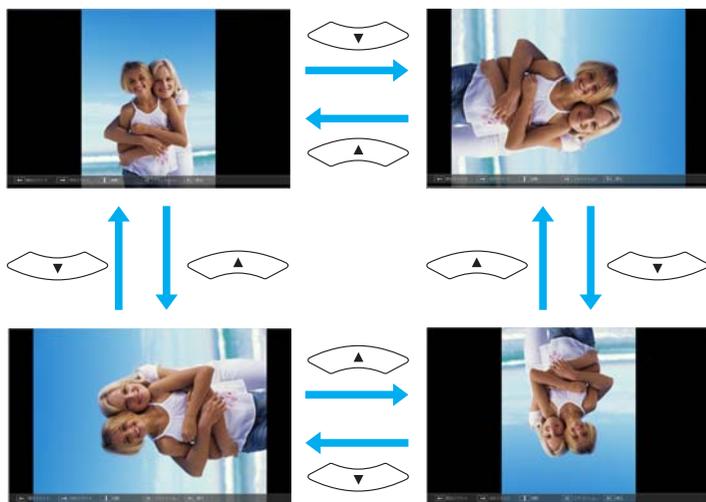
フォルダーを選択したときは、フォルダー内のファイルが表示されます。フォルダーを開いた画面で、【上へ戻る】を選択して【決定】ボタンを押すとフォルダーを開く前の画面に戻ります。

画像を回転する

再生した画像を90°単位で回転できます。スライドショー実行時に再生される画像も回転できます。

- 1 画像を再生するか、スライドショーを実行します。

- 2** 画像が再生されたら、【】ボタンまたは【】ボタンを押します。



終了する

スライドショーを終了するには、接続しているUSB機器を本機のUSB端子から取り外します。デジタルカメラやハードディスクなどは、各機器の電源をオフにしてから取り外してください。

選択した画像を投写する

注意

USBストレージにアクセス中はUSBストレージの接続を外さないでください。スライドショーに異常が発生する場合があります。

- 1** スライドショーを起動します。
 ファイラー一覧画面が表示されます。
 ● 「起動する」 p.46

- 2** 【】【】【】【】ボタンを押して、投写する画像ファイルを選択します。



- 3** 【決定】ボタンを押します。
 画像を再生します。



画像を再生中に【】【】ボタンを押すと、画像ファイルの送り/戻しができます。

- 4** 【戻る】ボタンを押すと、ファイラー一覧画面に戻ります。

フォルダー内の画像ファイルを連続投写する(スライドショー)

フォルダー内の画像ファイルを順番に1つずつ投写できます。この機能をスライドショーと呼びます。以下の手順でスライドショーを実行します。



スライドショーでファイルを自動的に切り替えて表示するには、スライドショーの[オプション]で[表示時間設定]を[なし]以外に設定してください。初期設定は3秒に設定されています。

- 1** スライドショーを起動します。
ファイル一覧画面が表示されます。
☛ 「起動する」 p.46
- 2**  ボタンを押して、スライドショーを実行するフォルダーにカーソルを合わせ【決定】ボタンを押します。
- 3** ファイル一覧画面の下部で[スライドショー]を選択して、【決定】ボタンを押します。
スライドショーが実行され、自動的にフォルダー内の画像ファイルが順次1つずつ投写されます。
最後まで投写すると、自動的にファイル一覧表示に戻ります。オプション画面で[繰り返し再生]を[オン]に設定しているときは、最後まで投写すると最初から投写を繰り返します。
☛ 「画像ファイルの表示設定とスライドショーの動作設定」 p.50
スライドショー投写中は次画面に送る、前画面に戻す、再生を中止することができます。



[オプション]画面で[表示時間設定]を[なし]に設定している場合、スライドショー再生を実行しても自動的にファイルが切り替わりません。【<】ボタン、【決定】ボタンまたは【送り】ボタンを押して、次のファイルを投写します。

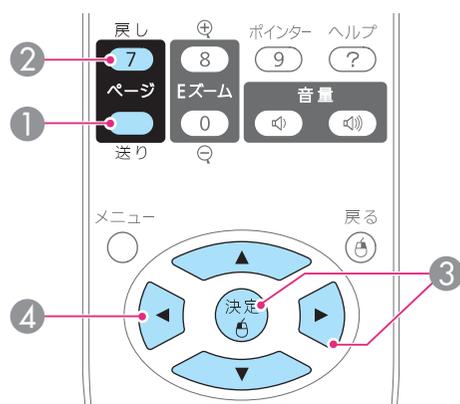
シナリオを再生する

- 1** スライドショーを起動します。
ファイル一覧画面が表示されます。
☛ 「起動する」 p.46
- 2**  ボタンを押して、再生するシナリオを選択します。
- 3** 【決定】ボタンを押します。
再生を開始します。

シナリオ再生中の操作方法

画面切り替え

FSEファイルの場合

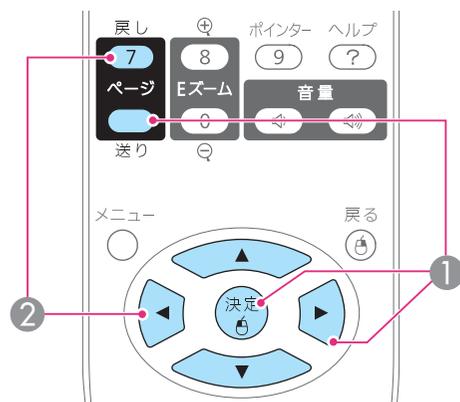


- ① 次のスライド
- ② 前のスライド
- ③ 次のスライド、またはアニメーション
- ④ 前のスライド、またはアニメーション

次の機能はスライドショーでシナリオや画像ファイルを投写しているときも同様に使えます。

- 静止
 - ➡ 「映像を停止させる（静止）」 [p.52](#)
- AVミュート
 - ➡ 「映像と音声を一時的に消す（AVミュート）」 [p.51](#)
- Eズーム
 - ➡ 「映像を部分的に拡大する（Eズーム）」 [p.53](#)

SITファイルの場合



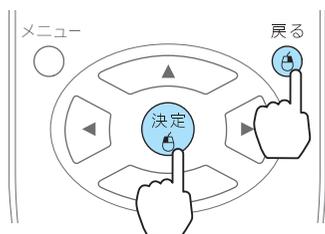
- ① 次のスライド
- ② 前のスライド

画像ファイルの表示設定とスライドショーの動作設定

ファイルの表示順序やスライドショーの動作をオプション画面で設定できます。

- 1 【】【】【】【】ボタンを押して、表示条件を設定するフォルダーにカーソルを合わせ【戻る】ボタンを押します。表示されたサブメニューから【オプション】を選択して【決定】ボタンを押します。
- 2 次のオプション画面が表示されますので、各項目を設定します。変更したい項目の設定にカーソルを合わせて【決定】ボタンを押すと、設定が有効になります。各項目の詳細は次の表のとおりです。

再生の中止



【戻る】ボタンを押すと、「シナリオ再生を終了しますか？」とメッセージが表示されます。【終了】を選択して【決定】ボタンを押すと終了します。

【戻る】を選択して【決定】ボタンを押すと再生を続けます。



表示順序設定	表示するファイルの順序を、[ファイル名順]、[更新日付順]から選択します。
ソート方向	ファイルの並び替え方向を、[昇順]、[降順]から選択します。
繰り返し再生	繰り返しスライドショーを実行するかを設定します。
表示時間設定	スライドショー再生で、1つのファイルを表示する時間を設定します。[なし](0)~60秒までの設定ができます。[なし]に設定したときは、自動送りは無効となります。
画面切替効果	スライドを切り替えるときの画面効果を設定します。

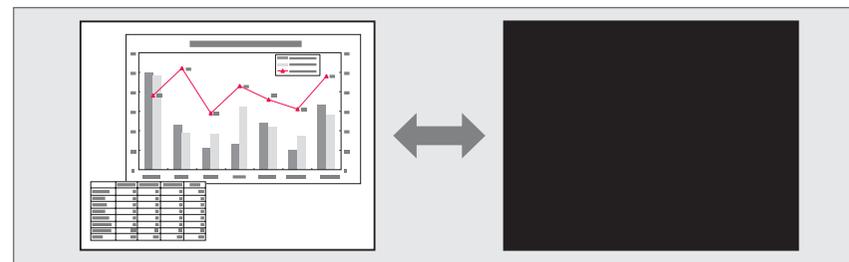
3 【】【】【】【】ボタンを押して【OK】にカーソルを合わせて、【決定】ボタンを押します。

設定が適用されます。

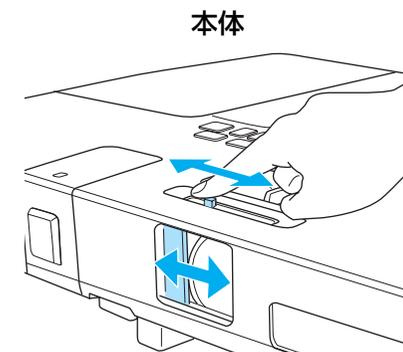
設定を適用したくない場合は、【キャンセル】にカーソルを合わせて、【決定】ボタンを押します。

映像と音声を一時的に消す(A/Vミュート)

スクリーンの映像を消して聴衆を話しに集中させたいときや、ファイルの切り替え操作などを見せたくないときに使います。



【A/Vミュート】ボタンを押す、またはレンズカバーを閉/開するたびにA/Vミュートが実行/解除されます。





- 動画の場合は、A/Vミュート中も映像と音声は進んでいますので、遮断したときの場面からは再開できません。
- 【A/Vミュート】ボタンを押したときに表示される画面は、環境設定メニューから選択できます。
☛ [拡張設定]-[表示設定]-[A/Vミュート] p.74
- レンズカバーを閉じた状態が約30分続くとレンズカバータイマーが機能し、自動的に電源がオフになります。レンズカバータイマーを機能させたくないときは、[レンズカバータイマー]を[オフ]にします。
☛ [拡張設定]-[動作設定]-[レンズカバータイマー] p.74
- A/Vミュート中もランプは点灯しているので、ランプ点灯時間に累積されます。



- 音声は停止しません。
- 動画の場合は、停止している間も映像は進んでいますので、静止したときの場面からは再開できません。
- 環境設定メニューやヘルプを表示中に【静止】ボタンを押すと、表示中のメニュー・ヘルプは消去されます。
- Eズーム実行中も、静止機能で停止できます。

映像を停止させる(静止)

静止を実行したときの画面が投写されたままになりますので、動画の一場面を静止画で投写できます。また、ファイル切り替えの前に静止を実行すれば、操作内容を投写せずに操作できます。

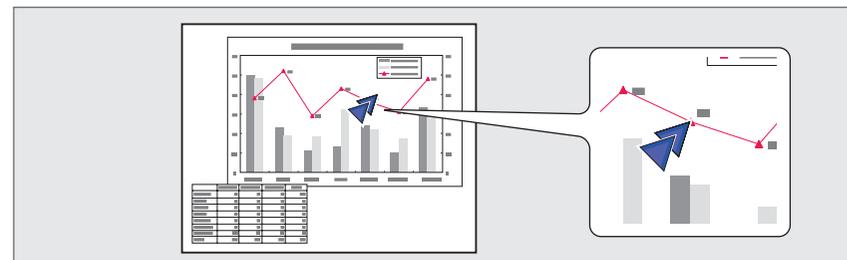
【静止】ボタンを押すたびに静止が実行/解除されます。

リモコン



説明箇所を指し示す(ポインター)

ポインターで映像を指し示し、どこを説明しているかを明確にしたり、注目させるときに使います。



1 ポインターを表示します。

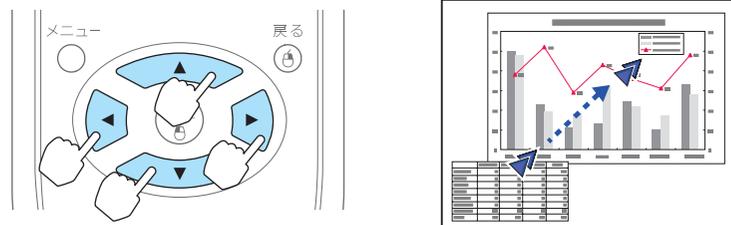
【ポインター】ボタンを押すたびに表示/非表示が切り替わります。

リモコン



2 ポインターアイコン(➤)を移動します。

リモコン



隣り合う【▲】【▼】【▶】【◀】ボタンを組み合わせると斜め方向にも移動することができます。

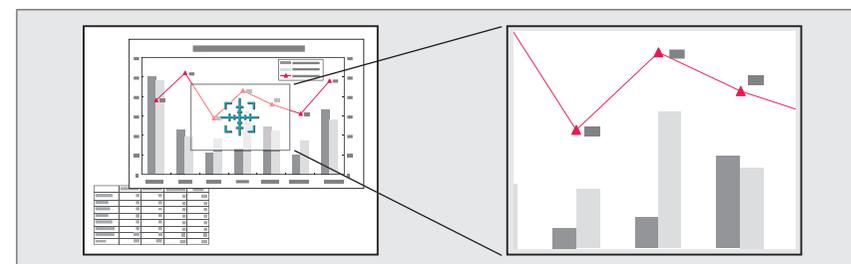


【ポインター形状】でポインターアイコンの形状を設定できます。

☞ 【設定】-【ポインター形状】 p.73

映像を部分的に拡大する(Eズーム)

グラフや表の細目などを拡大して見せたいときに便利です。



1 Eズームを開始します。

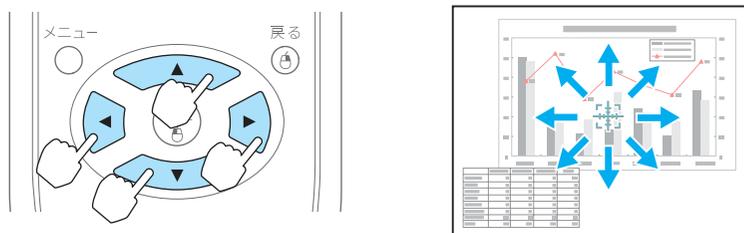
【⊕】ボタンを押すと、ターゲットスコープ(📏)が表示されます。

リモコン



2 拡大表示したい部分にターゲットスコープ()を移動させます。

リモコン



隣り合う【】【】【】【】ボタンを組み合わせると斜め方向にも移動することができます。

3 拡大します。

リモコン



【】ボタン：押すたびに拡大されます。ボタンを押し続けると、すばやく拡大できます。

【】ボタン：拡大した結果を縮小します。

【戻る】ボタン：Eズームを解除します。



- 画面上に倍率が表示されます。1~4倍まで、25段階で拡大できます。
- 拡大投写中に【】【】【】【】ボタンを押すと、映像をスクロールできます。
- Eズームで拡大表示すると、[プログレッシブ変換]と[ノイズリダクション]は一時的に解除されます。

リモコンでマウスポインターを操作する(ワイヤレスマウス)

コンピューターのUSB端子と、本機のUSB(TypeB)端子を同梱のUSBケーブルで接続すると、リモコンでコンピューターのマウスポインターを操作できます。

入力ソースがコンピューターまたはHDMI(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)のときに使用できます。

☛ 「コンピューターの接続」 p.21

ワイヤレスマウス機能を実行するには、[USB Type B]を[Link 21L]に設定します。初期設定では[USB Type B]は[USB Display]に設定されています。事前に設定を変更してください。

☛ [拡張設定]-[USB Type B] p.74

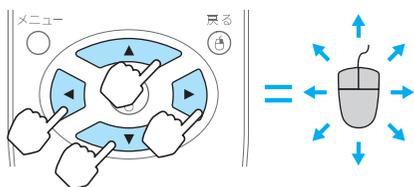
ワイヤレスマウスの対応OSは以下の通りです。

	Windows	Mac OS
OS	Windows 98 Windows 98SE Windows Me Windows 2000 Windows XP Windows Vista Windows 7	Mac OS X 10.3.x Mac OS X 10.4.x Mac OS X 10.5.x Mac OS X 10.6.x

※ OSのバージョンによりワイヤレスマウス機能を使用できない場合があります。

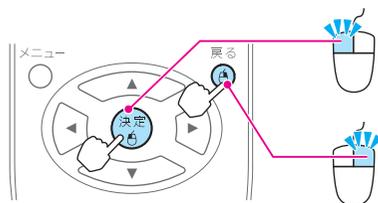
接続した後はマウスポインターを次のように操作できます。

マウスポインターの移動



【】【】【】【】ボタン：
マウスポインターを移動します。

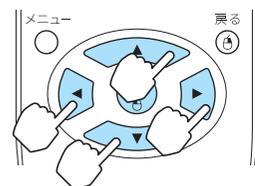
マウスクリック



【決定】ボタン：マウスの左クリックの働きをします。ダブルクリックのときはすばやく2回押します。

【戻る】ボタン：マウスの右クリックの働きをします。

ドラッグ&ドロップ



【決定】ボタンを押したまま、【】

【】【】【】ボタンを押してドラッグします。

任意の場所で【決定】ボタンを離すと、ドロップします。

ページの送り/戻し



【戻し】ボタン：ページを戻します。

【送り】ボタン：ページを送ります。



- 隣り合う【】【】【】【】ボタンを組み合わせて押すと斜め方向にも移動することができます。
- コンピューターでマウスボタンの左右を逆に設定している場合は、リモコンでの操作も逆になります。
- 次の機能を使用しているときは、ワイヤレスマウス機能は動作しません。
 - ・環境設定メニュー表示中
 - ・ヘルプ表示中
 - ・Eズーム機能中
 - ・ユーザーロゴのキャプチャー中
 - ・ポインター機能中
 - ・音量調整中
 - ・USBディスプレイ投写中
 - ・テストパターン表示中
 - ・カラーモード設定中
 - ・カラーモード名表示中
 - ・入力ソース名表示中
 - ・入力ソース切り替え中

IDを設定してリモコンを使用する

プロジェクターとリモコンにIDを設定するとIDが一致するプロジェクターだけをリモコンで操作できるようになり、本機を複数台並べて使用するとき便利です。

プロジェクターには1～9までのIDを設定できます。初期値はオフになっています。

リモコンには0~9までのIDを設定できます。初期値は0になっています。プロジェクターIDとリモコンのIDの組み合わせ例は、次のとおりです。

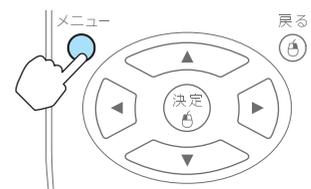
リモコン操作	組み合わせの例		解説
○(可)		プロジェクターID : 1	プロジェクターIDとリモコンIDが同じなのでプロジェクターをリモコンで操作できます。
		リモコンID : 1	
○(可)		プロジェクターID : オフ	プロジェクターIDをオフに設定すると、リモコンのID設定に関わらず、プロジェクターをリモコンで操作できます。
		リモコンID : 1	
○(可)		プロジェクターID : 1	リモコンIDを0に設定すると、プロジェクターのID設定に関わらず、プロジェクターをリモコンで操作できます。
		リモコンID : 0	
×(不可)		プロジェクターID : 1	プロジェクターIDとリモコンIDが一致しないので、プロジェクターをリモコンで操作できません。
		リモコンID : 3	

プロジェクターのIDを設定する

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

☛ 「環境設定メニューの操作」 p.67

リモコンの場合



操作パネルの場合



2 【拡張設定】から【プロジェクターID】を選びます。



【戻る】:戻る 【◀▶】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

- 3** 設定したいIDを選び【決定】ボタンを押します。



- 4** 【メニュー】ボタンを押して設定を終了します。

リモコンのIDを設定する

リモコンのIDはプロジェクターの電源を入れるたびに設定してください。電源を入れたときのリモコンIDは0(プロジェクターのIDの設定に関係なくリモコンでプロジェクターを操作できる状態)に設定されています。

- 1** 操作するプロジェクターのリモコン受光部にリモコンを向けて、リモコンの【ID】ボタンを押します。

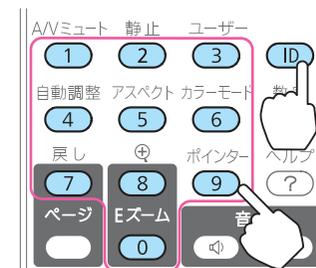
ボタンを押すと、投写画面に現在のプロジェクターIDが表示されます。表示は約3秒経つと消えます。

リモコン



プロジェクターID: 3
リモコン操作 : 有効

- 2** 【ID】ボタンを押したまま、操作対象プロジェクターのIDと同じ数字のボタンを押します。



設定が終了するとリモコンから操作できるプロジェクターが限定されます。



プロジェクターの電源を切ると、リモコンのIDは0(プロジェクターのIDの設定に関係なくリモコンでプロジェクターを操作できる状態)に戻ります。

複数台のプロジェクターを投写した時の色差補正

本機は複数台並べて並列投写したとき、それぞれの映像の明るさと色合いの違いをマルチスクリーンカラーアジャストメント機能で補正することができます。



補正を行ってもそれぞれの映像の明るさと色合いは完全に一致しないこともあります。

補正手順の概要

複数台設置されているプロジェクターの中で補正が必要なプロジェクターに対して1台ずつ以下の操作を行い補正します。

1. プロジェクターIDとリモコンIDを設定する

補正対象のプロジェクターに限定して操作できるように、対象となるプロジェクターにプロジェクターIDを設定し、リモコンIDも一致するように設定します。

☛ 「IDを設定してリモコンを使用する」 p.55

2. 色差補正を行う

複数台を投写した状態で色差補正を行います。黒から白を5段階に区分し各段階をレベル1～5と呼び、この5レベルすべてに対して次の2点の補正を行います。

- 明るさの補正
映像の明るさが揃うように補正します。
- 色の補正
映像の色味が合うように補正します。

補正方法

複数台を投写した状態でプロジェクターごとの明るさと色合いの差が縮まるように補正します。

- 1 【メニュー】ボタンを押します。
☛ 「環境設定メニューの操作」 p.67

- 2 【拡張設定】から【マルチスクリーン】を選びます。



【戻る】:戻る 【◆】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

- 3 【調整レベル】で補正するレベルを選択します。

- レベルを選択するたびに、選択したレベルのパターンが表示されます。
- どのレベルから調整を始めてもかまいませんが、通常は1から5あるいは5から1のように、暗い順あるいは明るい順に補正します。

- 4 【明るさ補正】で明るさの補正をします。

- [レベル5]を選択しているときは、複数あるプロジェクターのうち最も暗い映像に合わせます。
- [レベル1]を選択しているときは、複数あるプロジェクターのうち最も明るい映像に合わせます。
- [レベル2]～[レベル4]を選択しているときは、複数あるプロジェクターのうち中間の明るさの映像に合わせます。
- 【決定】ボタンを押すたびにパターン表示/通常の映像表示が切り替わりますので、実際の映像で補正結果の確認や補正を行うこともできます。

5 [色補正(緑-赤)]と[色補正(青-黄)]を補正します。

6 すべてのレベルを補正し終わるまで、手順3～5を繰り返し行います。

7 補正がすべて終了したら、【メニュー】ボタンを押して設定を終了します。

ユーザーロゴの登録

現在表示している映像をユーザーロゴとして登録します。

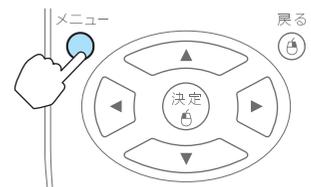


ユーザーロゴは一度登録すると、初期設定状態には戻せません。

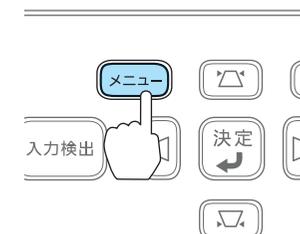
1 ユーザーロゴとして登録したい映像を投写し、【メニュー】ボタンを押します。

☞ 「環境設定メニューの操作」 p.67

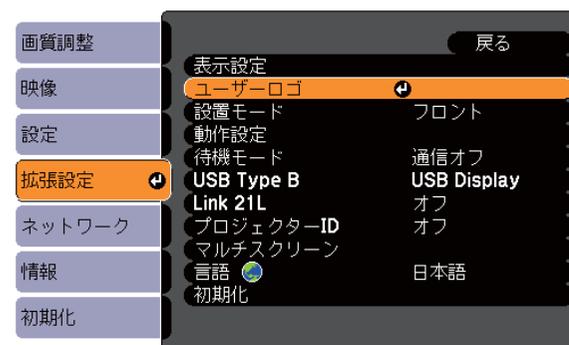
リモコンの場合



操作パネルの場合



2 【拡張設定】から【ユーザーロゴ】を選びます。



【戻る】:戻る 【◀▶】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了



- [パスワードプロテクト]で[ユーザーロゴ保護]を[オン]に設定しているときは、メッセージが表示され操作することはできません。[ユーザーロゴ保護]を[オフ]にしてから操作してください。
- 「利用者を管理する (パスワードプロテクト)」 p.62
- 台形補正、Eズーム、アスペクト、プログレッシブ変換、ズーム調整を行っているときに[ユーザーロゴ]を選択すると、実行している機能は一時的に解除されます。

- 3** 「現在投写されている映像の一部をユーザーロゴとして使いますか？」と表示されるので、[はい]を選択します。

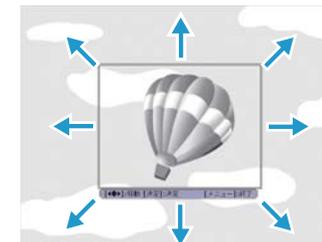
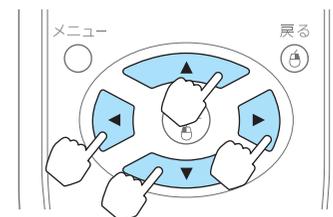


リモコンまたは操作パネルの【決定】ボタンを押すと、映像信号の実際の解像度に切り替わるため、信号によっては画面サイズが変わることがあります。

- 4** 登録する映像と選択枠が表示されるので、ユーザーロゴとして使う位置を選択します。

プロジェクターの操作パネルでも同様の操作を行えます。

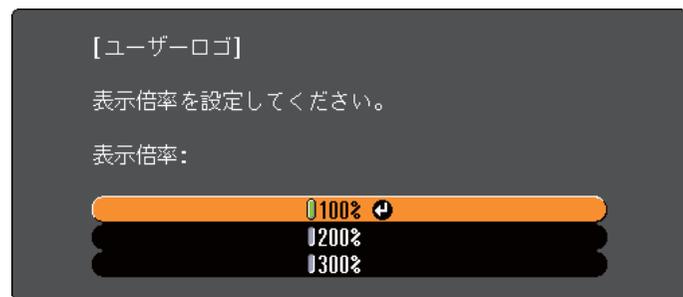
リモコン



登録できるサイズは400x300ドットです。

- 5** 【決定】ボタンを押すと「この映像を使用しますか？」と表示されるので、[はい]を選択します。

6 表示倍率設定画面で倍率を選択します。



[戻る]:戻る [◆]:選択 [決定]:決定 [メニュー]:終了

7 「この映像を保存しますか？」とメッセージが表示されるので、[はい]を選択します。

映像が保存されます。保存が終了すると「ユーザーロゴの設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。



- ユーザーロゴの登録を実行すると、先に登録されているユーザーロゴは消去されます。
- 保存にはしばらく時間がかかります(約15秒)。保存している間は、本機や接続している機器を操作しないでください。故障の原因になります。

本機には、次の充実したセキュリティ機能が備わっています。

- パスワードプロテクト
本機を使用する人を制限・管理できます。
- 操作ボタンロック
本機の設定を無断で変更されたり、いたずらされるのを防止できます。
☛ 「操作を制限する（操作ボタンロック）」 p.64
- 盗難防止用ロック
本機には機器そのものを持ち出されないように、盗難防止の機構が備わっています。
☛ 「盗難防止用ロック」 p.65

利用者を管理する(パスワードプロテクト)

パスワードプロテクト機能を有効にすると、電源を入れてもパスワードを知らない人は投写できません。さらに、電源を入れたときに表示される社名ロゴ等を変更できなくなります。この結果、本機を持ち出しても使用できないため、盗難等の防止につながります。ご購入時は、パスワードプロテクト機能は無効になっています。

パスワードプロテクトの種類

本機のパスワードプロテクトは利用シーンに応じて次の3種類の設定ができます。

- [電源投入時]
[電源投入時]を[オン]にすると、電源ケーブルで本機とコンセントを接続後、最初に電源を入れたとき(ダイレクトパワーオンも同様)に、事前に設定してあるパスワードの入力が要求されます。正しいパスワードを入力しないと、投写は開始しません。

- [ユーザーロゴ保護]
せっかくプロジェクターの所有者を明示するためにユーザーロゴを登録していても、ロゴ表示を変更されては意味がありません。[ユーザーロゴ保護]を[オン]にすると、ユーザーロゴに関する次の設定変更を禁止できます。
 - ユーザーロゴのキャプチャー
 - [表示設定]の[背景表示]、[スタートアップスクリーン]、[AVミュート]の設定
☛ [拡張設定]-[表示設定] p.74
- [ネットワーク保護] (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)
[ネットワーク保護]を[オン]にすると、[ネットワーク]の設定変更を禁止できます。
☛ 「ネットワークメニュー (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)」 p.76

パスワードプロテクトの設定方法

パスワードプロテクトの設定は、下記の手順で行います。

- 1 投写中に【静止】ボタンを約5秒間押し続けます。
パスワードプロテクト設定メニューが表示されます。

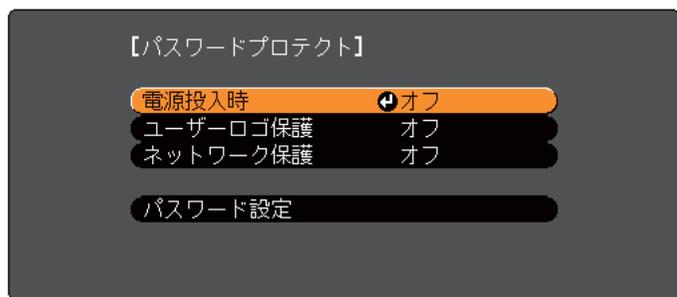
リモコン





- すでにパスワードプロテクトが有効になっていると、パスワードの入力が要求されます。パスワードを正しく入力するとパスワードプロテクト設定メニューが表示されます。
 - ☛ 「パスワードの認証」 p.63
- パスワード設定をしたときは、盗難防止の効果をさらに高めるために製品同梱のパスワードプロテクトシールを本機のお好きな位置に貼ってください。

- 2** 設定したいパスワードプロテクトの種類を選択し、【決定】ボタンを押します。



【◀▶】:選択 【決定】:決定

【メニュー】:終了

- 3** 【オン】を選択し、【決定】ボタンを押します。
【戻る】ボタンを押して、手順2の画面に戻ります。

- 4** パスワードを設定します。

- (1) 【パスワード設定】を選択し、【決定】ボタンを押します。
- (2) 「パスワードを変更しますか？」と表示されるので、【はい】を選択し、【決定】ボタンを押します。初期設定でパスワードは「0000」に設定されています。必ず任意のパスワードに変更してください。【いいえ】を選択すると、手順2の画面に戻ります。

- (3) 【数字】ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンで4桁の数字を入力します。入力したパスワードは「****」と表示されます。4桁目を入力すると、確認画面に切り替わります。

リモコン

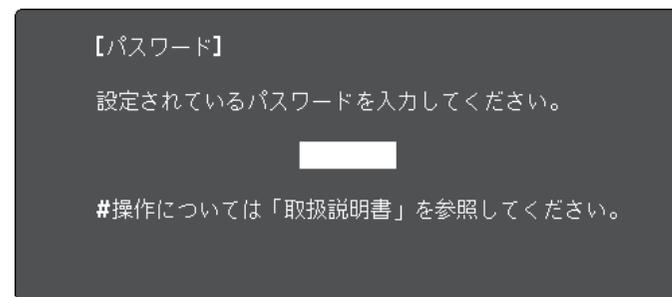


- (4) 入力したパスワードを再度入力します。「パスワード設定が終了しました。」とメッセージが表示されず。間違えてパスワードを入力した場合は、メッセージが表示されますのでパスワード設定をやり直してください。

パスワードの認証

パスワードの入力画面が表示されたら設定してあるパスワードをリモコンの数字ボタンを使って入力します。

【数字】ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押してパスワードを入力します。



【0-9】:入力

正しいパスワードを入力すると、一時的にパスワードプロテクトが解除されます。

注意

- パスワードに関してお問い合わせいただいた際は、お客様のお名前や連絡先などをお聞きし、お客様から返送いただいた『お客様情報+正式保証書発行カード』と照合しご本人様であることを確認させていただきます。同梱の『お客様情報+正式保証書発行カード』に必要事項を記入して、必ず返送してください。
- 間違ったパスワードを続けて3回入力した場合は、「プロジェクターの動作を停止します。」と、メッセージが約5分間表示され、本機がスタンバイ状態になります。この場合は、電源プラグを抜いて差し直し、本機の電源を入れます。パスワードの入力を求める画面が表示されますので、パスワードを正しく入力してください。
- 万一、パスワードを忘れてしまったときは、画面に表示されている問い合わせコード：xxxxxの番号を控えて、プロジェクターインフォメーションセンターにご連絡いただき、その指示に従ってください。
☞ 『お問い合わせ先』
- 上記の操作を繰り返し、間違ったパスワードを続けて30回入力した場合は、次のメッセージが表示されパスワード入力もできなくなります。「プロジェクターの動作を停止します。」「各修理窓口へ修理を依頼してください。」
☞ 『お問い合わせ先』

操作を制限する(操作ボタンロック)

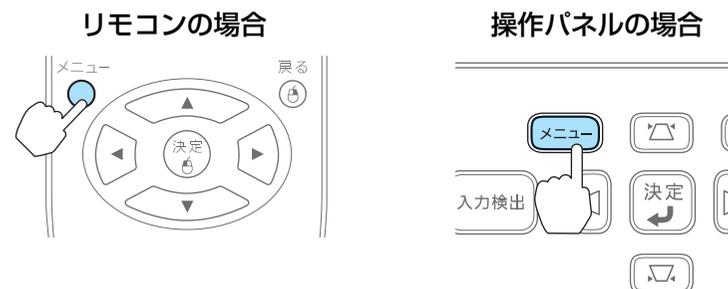
次のどちらかを選んで本機の操作パネルのボタンをロックできます。

- 全ロック
操作パネルのボタンをすべてロックします。操作パネルからは電源のオン/オフを含めまったく操作できなくなります。
- 操作ロック
操作パネルの【⏻】ボタンを除くすべてのボタンをロックします。

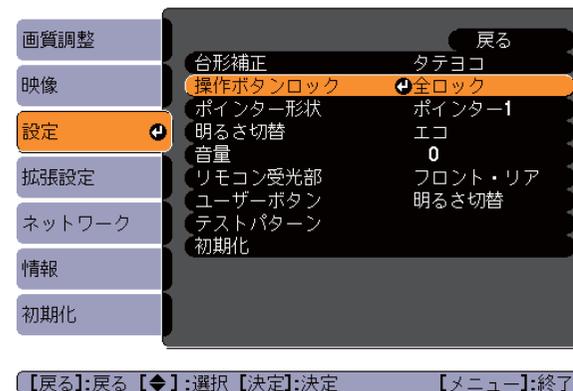
イベントやショーなどで投写中に本機の手動操作をできないようにしたり、学校などで操作できるボタンを制限したいときに便利です。リモコンからは通常どおり操作できます。

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

☞ 「環境設定メニューの操作」 p.67



2 [設定]から[操作ボタンロック]を選びます。



3 目的に応じて、[全ロック]または[操作ロック]を選択します。



[戻る]:戻る [◆]:選択 [決定]:決定 [メニュー]:終了

- 4** 確認のメッセージが表示されるので、[はい]を選びます。
設定に従い、操作パネルのボタンがロックされます。



操作パネルのボタンロックを解除するには、次の2通りの方法があります。

- [操作ボタンロック]で[オフ]を選びます。
☛ [設定]-[操作ボタンロック]p.73
- 操作パネルの【決定】ボタンを約7秒間押し続けると、メッセージが表示され、ロックが解除されます。

盗難防止用ロック

本機は機器の盗難を防ぐために、Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムに対応したセキュリティスロットを装備しています。

マイクロサーバーセキュリティシステムについての詳細は、以下をご覧ください。

☛ <http://www.kensington.com/>



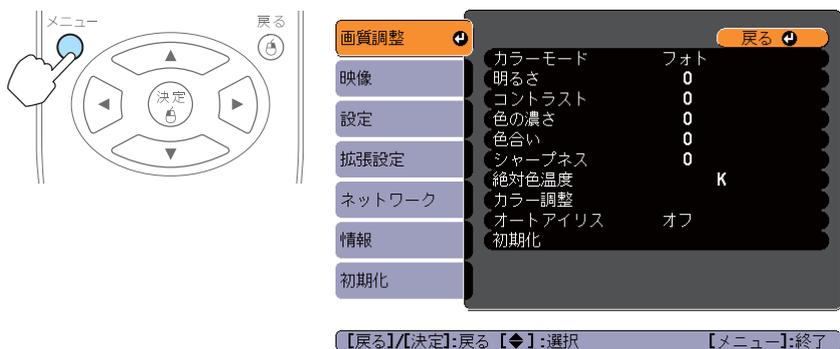
環境設定メニュー

ここでは、環境設定メニューの機能と操作方法について説明しています。

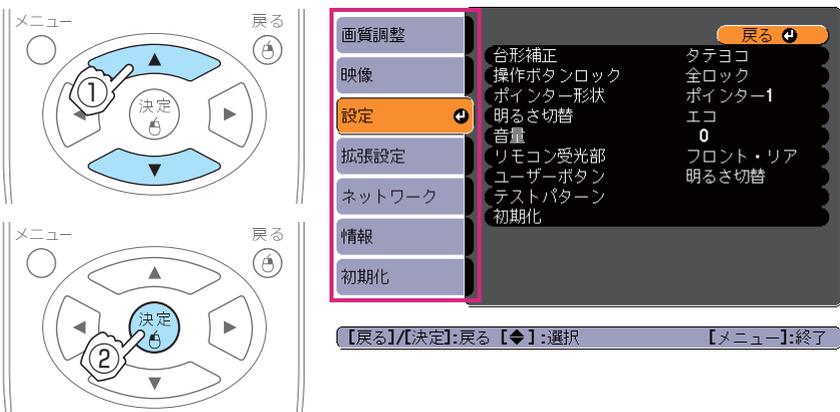
環境設定メニューの操作方法を説明します。

リモコンで操作を行ったときを例に説明していますが、操作パネルでも同様の操作を行えます。使用できるボタンと操作はメニューの下に表示されるガイドでご確認ください。

1 環境設定メニュー画面を表示します。



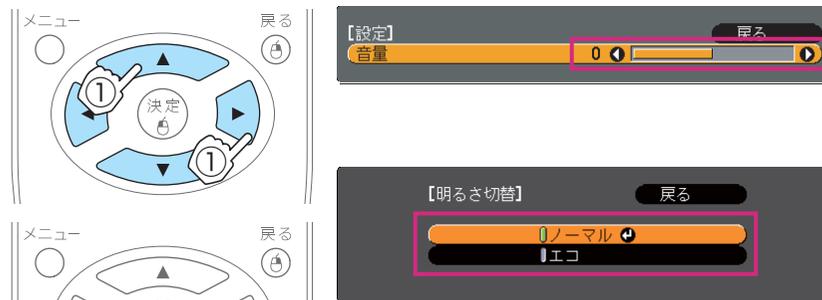
2 トップメニュー項目を選択します。



3 サブメニュー項目を選択します。



4 設定を変更します。



5 【メニュー】ボタンを押して、設定を終了します。

環境設定メニュー一覧

お使いの機種、現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が異なります。

トップメニュー名	サブメニュー名	設定値
画質調整メニュー ☛ p.70	カラーモード	ダイナミック、プレゼンテーション、シアター、フォト、sRGB、黒板、ホワイトボード、カスタム
	明るさ	-24～24
	コントラスト	-24～24
	色の濃さ	-32～32
	色合い	-32～32
	シャープネス	-5～5
	絶対色温度	5000K～10000K
	カラー調整	R：-16～16 G：-16～16 B：-16～16
	オートアイリス	オン、オフ
映像メニュー ☛ p.71	自動調整	オン、オフ
	入力解像度	オート、ワイド、ノーマル
	トラッキング	1216～1470
	同期	0～31
	表示位置	上、下、左、右
	プログレッシブ変換	オフ、ビデオ、フィルム/オート
	ノイズリダクション	オフ、NR1、NR2
	HDMIビデオレベル	オート、通常、拡張
	入力信号方式	オート、RGB、コンポーネント

トップメニュー名	サブメニュー名	設定値
	ビデオ信号方式	オート、NTSC、NTSC4.43、PAL、M-PAL、N-PAL、PAL60、SECAM
	アスペクト	ノーマル、4:3、16:9、フル、ズーム、リアル
	オーバースキャン	オート、オフ、4%、8%
設定メニュー ☛ p.73	台形補正	タテヨコ、Quick Corner
	操作ボタンロック	全ロック、操作ロック、オフ
	ポインター形状	ポインター1、2、3
	明るさ切替	ノーマル、エコ
	音量	0～20
	リモコン受光部	フロント・リア、フロント、リア、オフ
	ユーザーボタン	明るさ切替、情報、プログレッシブ変換、テストパターン、マルチスクリーン、入力解像度
テストパターン	-	
拡張設定メニュー ☛ p.74	表示設定	メッセージ表示、背景表示、スタートアップスクリーン、AVミュート
	ユーザーロゴ	-
	設置モード	フロント、フロント・天吊り、リア、リア・天吊り
	動作設定	ダイレクトパワーオン、スリープモード、スリープモード時間、レンズカバータイマー、高地モード
	待機モード	通信オン、通信オフ
	USB Type B	USB Display、Link 21L
	Link 21L	オン、オフ

トップメニュー名	サブメニュー名	設定値
	プロジェクターID	オフ、1~9
	マルチスクリーン	調整レベル、明るさ補正、色補正(緑-赤)、色補正(青-黄)
	言語	15言語
情報メニュー ☛ p.84	ランプ点灯時間	-
	入力ソース	-
	入力信号	-
	入力解像度	-
	ビデオ信号方式	-
	リフレッシュレート	-
	同期情報	-
	ステータス	-
	シリアル番号	-
初期化メニュー ☛ p.84	全初期化	-
	ランプ点灯時間初期化	-

ネットワークメニュー(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)

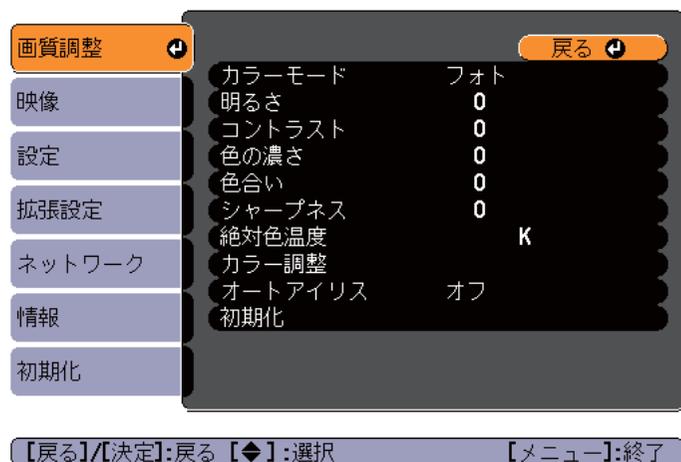
トップメニュー名	サブメニュー名	設定値
基本設定メニュー ☛ p.78	プロジェクター名	-
	PJLinkパスワード	-
	Web制御パスワード	-
	プロジェクターキー ワード	オン、オフ
無線LANメニュー ☛ p.79	無線LAN電源	オン、オフ
	接続モード	かんたんモード、マニュアル モード

トップメニュー名	サブメニュー名	設定値
	チャンネル設定	1ch、6ch、11ch
	無線LAN方式	802.11b/g、802.11b/g/n
	自動SSID設定	オン、オフ
	SSID	-
	IP設定	DHCP、IPアドレス、サブネット マスク、ゲートウェイアドレス
	SSID表示	オン、オフ
セキュリティーメ ニュー ☛ p.80	IPアドレス表示	オン、オフ
	セキュリティー	なし、WEP、WPA-PSK、WPA2- PSK
	WEP暗号	128Bit、64Bit
	入力方式	ASCII、HEX
	キーID	1、2、3、4
	暗号キー1、暗号キー 2、暗号キー3、暗号 キー4	-
	認証方式	Open、Shared
メールメニュー ☛ p.82	PSK	-
	メール通知機能	オン、オフ
	SMTTPサーバー	-
	ポート番号	-
その他メニュー ☛ p.82	宛先1設定、宛先2設 定、宛先3設定	-
	SNMP	オン、オフ
	トラップIPアドレス1、 トラップIPアドレス2	-
	AMX Device Discovery	オン、オフ

画質調整メニュー

現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が異なります。設定した内容は映像信号ごとに保持されます。

☛ 「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」 p.27



サブメニュー	機能
カラーモード	使用シーンに応じて、画質を選択できます。 ☛ 「映り具合を選ぶ（カラーモードの選択）」 p.38
明るさ	映像の明るさを調整します。
コントラスト	映像の明暗の差を調整します。
色の濃さ	映像の色の濃さを調整します。
色合い	(コンポジットビデオ信号の場合は、NTSC系の信号入力時のみ調整可能) 映像の色合いを調整します。
シャープネス	映像のシャープ感を調整します。

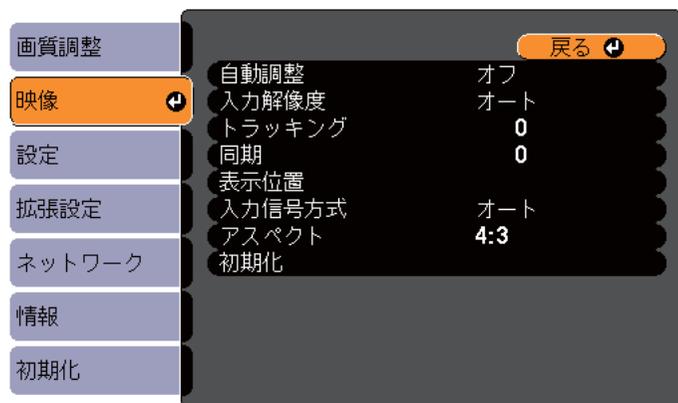
サブメニュー	機能
絶対色温度	([カラーモード]をsRGB▶に設定しているときは設定不可) 映像全体の色合いを調整します。5000K~10000Kの10段階で調整することができます。高い値を選択すると青みがかかった映像になり、低い値を選択すると赤みを帯びた映像になります。
カラー調整	([カラーモード]をsRGB▶に設定しているときは設定不可) <ul style="list-style-type: none"> • [カラーモード]を[カスタム]以外に設定しているとき： [赤]、[緑]、[青]の色の強さを個別に調整します。 • [カラーモード]を[カスタム]に設定しているとき： [R] (赤)、[G] (緑)、[B] (青)、[C] (シアン)、[M] (マゼンタ)、[Y] (イエロー)の[色相]、[彩度]、[明度]を個別に調整します。
オートアイリス	([カラーモード]を[ダイナミック]、[シアター]、[カスタム]のいずれかに設定しているときのみ設定可能) [オン]にすると、映像に合わせて最適な光量に調整します。 設定値はカラーモードごとに保存されます。 ☛ 「オートアイリス（自動絞り）を設定する」 p.39
初期化	[画質調整]メニューの調整値を初期値に戻します。全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。 ☛ 「初期化メニュー」 p.84

映像メニュー

現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が異なります。設定した内容は映像信号ごとに保持されます。

入力ソースがUSB Display/USB/LANのときは映像メニューの設定は行えません。

☛ 「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」 p.27



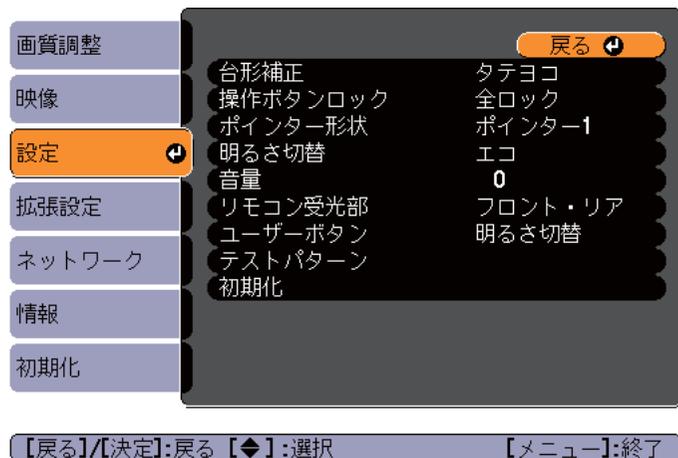
【戻る】/【決定】:戻る 【◀▶】:選択 【メニュー】:終了

サブメニュー	機能
自動調整	[オン]にすると、入力信号が切り替わったときに、映像を最適な状態に自動調整します。
入力解像度	[オート]にすると、入力信号の解像度を自動で判別します。[オート]に設定して投写映像が欠けるときは、接続しているコンピューターに合わせてワイド画面は[ワイド]に、4:3や5:4画面は[ノーマル]に設定してください。
トラッキング	映像に縦の縞模様が出るときに調整します。
同期	映像にちらつき、ぼやけ、横ノイズが出るときに調整します。

サブメニュー	機能
表示位置	映像の一部が欠けているときに表示位置を上下左右に移動し映像がすべて投写されるように調整します。
プログレッシブ変換	(コンポーネントビデオ/RGBビデオ信号入力時は、480i/576i/1080i信号入力時のみ設定可能。デジタルRGB信号入力時は設定不可。) インターレース▶▶(i)信号をプログレッシブ▶▶(p)信号に変換します。(IP変換) [オフ]:動きの大きい映像に適しています。 [ビデオ]:一般のビデオ映像に適しています。 [フィルム/オート]:映画フィルムやCG、アニメーション映像に適しています。
ノイズリダクション	(デジタルRGB信号入力時、またはインターレース信号表示中で[プログレッシブ変換]が[オフ]のときは設定不可) 映像のざらつきを抑えます。モードを2つ用意しています。お好みの設定でご覧ください。DVDなど映像ソースにノイズが少ないときは[オフ]に設定してご覧ください。
HDMIビデオレベル (EB-1775W/ EB-1770W/ EB-1760Wのみ)	本機のHDMI入力端子とDVDプレーヤーなどを接続しているときに、DVDプレーヤーのビデオレベルの設定に合わせて本機のビデオレベルを設定します。
入力信号方式	コンピューター入力端子からの入力信号を選択します。 [オート]にすると、接続機器に応じて自動的に入力信号を設定します。 [オート]に設定していて、色が正しく表示されないときは、接続している機器の信号に応じて適切な信号を選択してください。
ビデオ信号方式	ビデオ入力端子からの入力信号を選択します。[オート]にすると、ビデオ信号を自動認識します。[オート]に設定していて、映像にノイズが入ったり、映像が映らないなどのトラブルが起きるときは、接続している機器の信号に応じて適切な信号を選択してください。

サブメニュー	機能
アスペクト	映像のアスペクト比▶を設定します。 ☛「アスペクト比を切り替える」p.40
オーバースキャン	(デジタルRGB信号入力時は設定不可) 出画率(投写する映像の範囲)を変更します。トリミングする範囲の設定を、[オフ]、[4%]、[8%]のいずれかに変更できます。入力ソースがHDMIのときは[オート]が選択できるようになります。[オート]を選択すると入力信号に応じて自動的に[オフ]あるいは[8%]に切り替わります。ただし、接続機器のHDMI端子と本機のHDMI入力端子を接続しているときに限ります。
初期化	[映像]メニューのうち、[入力信号方式]を除くすべての調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。 ☛「初期化メニュー」p.84

設定メニュー



サブメニュー	機能
台形補正	<p>台形にゆがんだ画面を補正します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [タテヨコ] 選択時： <ul style="list-style-type: none"> • 手動で補正する [タテ補正]、[ヨコ補正]を調整して縦・横方向のゆがみを補正します。 • 自動で補正する [自動タテヨコ補正]※を[オン]に設定します。 ☛「自動で補正する-自動タテヨコ補正- (EB-1775Wのみ)」 p.33 ※EB-1770W/EB-1760W/EB-1750を使用しているときは [自動タテ補正]を[オン]に設定します。 • [Quick Corner] 選択時： 投写映像の4つの角を選んで補正します。 ☛「手動で補正する-Quick Corner-」 p.34
操作ボタンロック	<p>本機操作パネルの操作制限を設定します。 ☛「操作を制限する (操作ボタンロック)」 p.64</p>

サブメニュー	機能
ポインター形状	<p>ポインターの形状を選択します。</p> <p>ポインター1： </p> <p>ポインター2： </p> <p>ポインター3： </p> <p>☛「リモコンでマウスポインターを操作する (ワイヤレスマウス)」 p.54</p>
明るさ切替	<p>ランプの明るさを2段階で切り替えることができます。</p> <p>暗い部屋で投写したり小さなスクリーンに映す場合に、投写映像が明るすぎるときは[エコ]に設定します。[エコ]で使用すると、投写中の消費電力が次のように変わり、ファン回転音も低下します。</p> <p>消費電力：約27%減</p>
音量	<p>音量を調整します。設定した内容は入力ソースごとに保持されます。</p>
リモコン受光部	<p>リモコンからの操作信号の受信を制限します。</p> <p>[オフ]に設定すると、リモコンからの操作ができなくなります。リモコンから操作したいときは、リモコンまたは操作パネルの【メニュー】ボタンを15秒以上押して、設定を初期値に戻してください。</p>
ユーザーボタン	<p>リモコンの【ユーザー】ボタンに割り当てる環境設定メニューの項目を選択します。【ユーザー】ボタンを押すと割り当てたメニュー項目の選択/調整画面が直接表示されるのでワンタッチで設定/調整の変更が行えます。【ユーザー】ボタンに割り当てることができるのは以下の項目です。</p> <p>[明るさ切替]、[情報]、[プログレッシブ変換]、[テストパターン]、[マルチスクリーン]、[入力解像度]</p>

サブメニュー	機能
テストパターン	本機を設置する際に、機器を接続せずに投写状態を調整できるようにテストパターンを表示します。テストパターン表示中は台形補正、ズーム調整、フォーカス調整が行えます。 テストパターンの表示を解除するときは、リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押します。
初期化	[設定]メニューのうち[ユーザーボタン]を除くすべての調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。 ☛「初期化メニュー」 p.84

サブメニュー	機能
表示設定	本機の表示に関する設定を行います。 [メッセージ表示]：[オフ]に設定すると、次の表示がされなくなります。 入力ソースやカラーモード、アスペクト比を切り替えたときの項目名の表示、映像信号が入力されていないときなどのメッセージの表示、高温警告などの警告表示。 [背景表示]※1：映像信号が入力されていないときなどの画面の状態を[黒]、[青]、[ロゴ]のいずれかで設定します。 [スタートアップスクリーン]※1：[オン]にすると、投写開始時に[ユーザーロゴ]を表示します。 [AVミュート]※1：リモコンの【AVミュート】ボタンを押したときに表示する画面を[黒]、[青]、[ロゴ]のいずれかで設定します。
ユーザーロゴ※1	背景表示、AVミュート時などに表示するユーザーロゴを変更します。 ☛「ユーザーロゴの登録」 p.59
設置モード	本機の設置状態に合わせて次の中から設定します。 [フロント]、[フロント・天吊り]、[リア]、[リア・天吊り] リモコンの【AVミュート】ボタンを約5秒間押し続けると、天吊りの設定を次のように切り替えることができます。 [フロント] ↔ [フロント・天吊り] [リア] ↔ [リア・天吊り] ☛「いろいろな設置方法」 p.19

拡張設定メニュー



サブメニュー	機能
動作設定	<p>[ダイレクトパワーオン]：[オン]にすると、電源プラグを差し込むだけで本機の電源が入ります。</p> <p>停電復旧時などにコンセントに電源プラグが差し込まれた状態になっていると本機の電源がオンになりますので、注意してください。</p> <p>[スリープモード]：[オン]に設定すると、映像信号が未入力のまま、なにも操作しないときに自動で電源を切ります。</p> <p>[スリープモード時間]：[スリープモード]を[オン]にしたときに、自動で電源を切るまでの時間を1～30分の範囲で設定します。</p> <p>[レンズカバータイマー]：[オン]に設定するとレンズカバーを閉めてから約30分後に自動で電源を切ります。初期値は[オン]に設定されています。</p> <p>[高地モード]：標高約1500m以上でお使いの場合は[オン]にします。</p>
待機モード	<p>本機がスタンバイ状態のときも、ネットワーク監視・制御機能を働かせるときは、[通信オン]に設定します。(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)</p> <p>ネットワーク経由で本機の状態を監視・制御するにはSNMP▶を使うか、アプリケーションソフトEasyMP Monitorを使用します。</p> <p>☛「便利なソフトウェア」 p.108</p>
USB Type B	<p>本機とコンピューターをUSBケーブルで接続してコンピューターの映像を投写するときには[USB Display]に設定します。</p> <p>☛「USBディスプレイで投写する」 p.28</p> <p>リモコンでマウスポインターを操作するときは[Link 21L]に設定します。</p> <p>☛「リモコンでマウスポインターを操作する（ワイヤレスマウス）」 p.54</p>
Link 21L	<p>[オン]にすると、ユーティリティソフトLink21Lを使用できます。</p>

サブメニュー	機能
プロジェクターID	<p>[1]～[9]までのIDを設定します。[オフ]はIDを設定していない状態です。</p> <p>☛「プロジェクターのIDを設定する」 p.56</p>
マルチスクリーン	<p>プロジェクター複数台を並べて投写した際の各映像の色合いや明るさの差を補正できます。</p> <p>[調整レベル]：黒から白を5段階に区分し各段階をレベル1～5と呼び、この5レベルすべてに対して明るさ補正と色補正を行います。</p> <p>[明るさ補正]：製品ごとの明るさのばらつきを補正します。</p> <p>[色補正(緑-赤)]/[色補正(青-黄)]：製品ごとの色のばらつきを補正します。</p> <p>☛「複数台のプロジェクターを投写した時の色差補正」 p.58</p>
言語	<p>メッセージやメニューに表示する言語を設定します。</p>
初期化	<p>[拡張設定]メニューのうち、[表示設定]※1、[動作設定]※2の調整値を初期値に戻します。</p> <p>全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。</p> <p>☛「初期化メニュー」 p.84</p>

※1 [パスワードプロテクト]の[ユーザーロゴ保護]を[オン]にしていると、ユーザーロゴに関する設定の変更はできません。[ユーザーロゴ保護]を[オフ]にしてから設定を変更してください。

☛「利用者を管理する（パスワードプロテクト）」 p.62

※2 高地モードは除く。

ネットワークメニュー (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)

[パスワードプロテクト]の[ネットワーク保護]を[オン]に設定していると、メッセージが表示されネットワークの設定を変更することはできません。[ネットワーク保護]を[オフ]にしてからネットワークの設定を行ってください。

☛ 「パスワードプロテクトの設定方法」 p.62



サブメニュー	機能
ネットワーク情報 - 無線LAN	以下のネットワーク設定状況を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 接続モード ● アンテナレベル ● プロジェクター名 ● SSID ● DHCP ● IPアドレス ● サブネットマスク ● ゲートウェイアドレス ● MACアドレス ● 地域コード*

サブメニュー	機能
ネットワーク設定画面へ	以下の項目についてネットワークの設定を行います。 [基本設定]、[無線LAN]、[セキュリティー]、[メール]、[その他]、[初期化]、[設定完了]

※ お使いの無線LANユニットの、利用可能な地域情報を表示します。詳細は、次に記載の連絡先にお問い合わせください。

☛ 『お問い合わせ先』



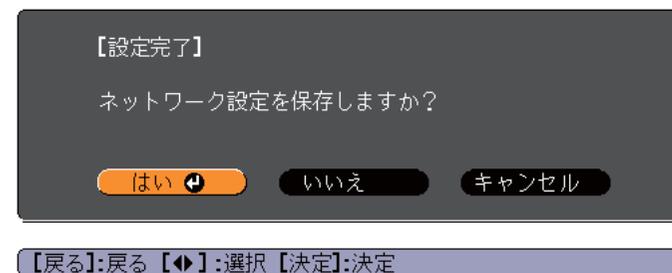
本機とネットワーク接続したコンピューターのWebブラウザから本機の設定や制御が行えます。この機能をWeb制御と呼びます。Web制御はキーボードを使って設定内容を入力できるので、セキュリティーの設定など文字の入力を伴う設定も容易に行えます。

☛ 「Webブラウザを使って設定を変更する (Web制御)」 p.110

ネットワークメニュー操作上のご注意

トップメニューやサブメニューの選択、選択した項目を変更する操作は環境設定メニューと同様に行います。

ただし、終了する際には必ず[設定完了]メニューを選択して、[はい]、[いいえ]、[キャンセル]のいずれかを選択します。[はい]または[いいえ]を選択すると、環境設定メニューに戻ります。



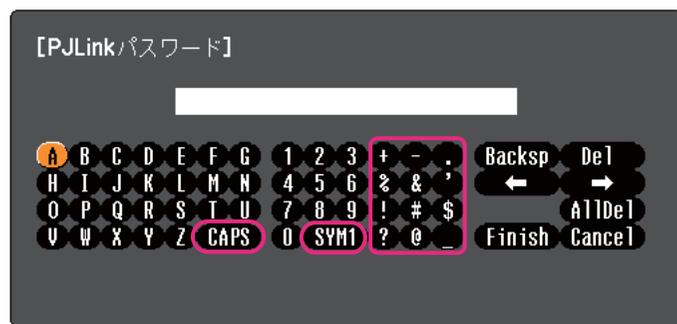
[はい] : 設定を保存してネットワークメニューを終了します。

[いいえ]： 設定を保存しないでネットワークメニューを終了します。

[キャンセル]： ネットワークメニューを続けます。

ソフトキーボードの操作

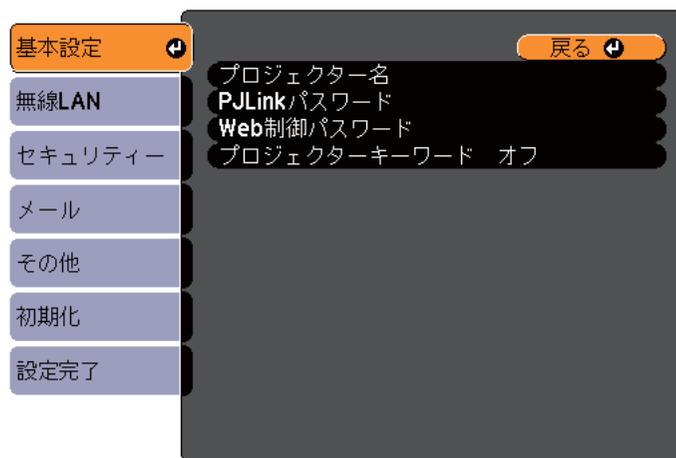
ネットワークメニューでは英数字を入力して設定する項目があります。その際には以下のようなソフトキーボードが表示されます。リモコンの【】【】【】【】ボタンまたは操作パネルの【】【】ボタンで目的のキーにカーソルを移動し、【決定】ボタンを押して入力します。数字は、リモコンの【数字】ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押して入力することもできます。入力後キーボードの[Finish]を選択すると入力が確定します。キーボードの[Cancel]を選択すると入力は取り消されます。



【戻る】:戻る 【】:選択 【決定】:決定

- [CAPS]キーを選択して【決定】ボタンを押すたびに、アルファベットキーの大文字/小文字が切り替わります。
- [SYM1/2]キーを選択して【決定】ボタンを押すたびに、枠で囲った部分の記号キーが切り替わります。

基本設定メニュー



【戻る】/【決定】:戻る 【◆】:選択

サブメニュー	機能
プロジェクトキーワード	<p>[オン]に設定していると、本機とコンピューターをネットワークで接続しようとしたとき、キーワードの入力が求められます。これにより他のコンピューターからの接続でプレゼンテーションが妨害されるのを防ぐことができます。</p> <p>通常は[オン]に設定してお使いください。</p> <p>☛『EasyMP Network Projection操作ガイド』</p>

サブメニュー	機能
プロジェクト名	<p>ネットワーク上で本機を識別するための個別の名前を表示しています。</p> <p>変更するときは、半角英数字16文字以内で入力します。</p>
PJLinkパスワード	<p>PJLink対応アプリケーションソフトを使って本機にアクセスするときの認証用パスワードを設定します。</p> <p>半角英数字で最大32文字まで入力できます。</p>
Web制御パスワード	<p>Web制御で本機を設定・制御するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字8文字以内で入力します。</p> <p>Web制御はネットワークで接続しているコンピューターのWebブラウザを利用して、コンピューターから本機を設定・制御する機能です。</p> <p>☛「Webブラウザを使って設定を変更する (Web制御)」 p.110</p>

無線LANメニュー



【戻る】/【決定】:戻る 【◆】:選択

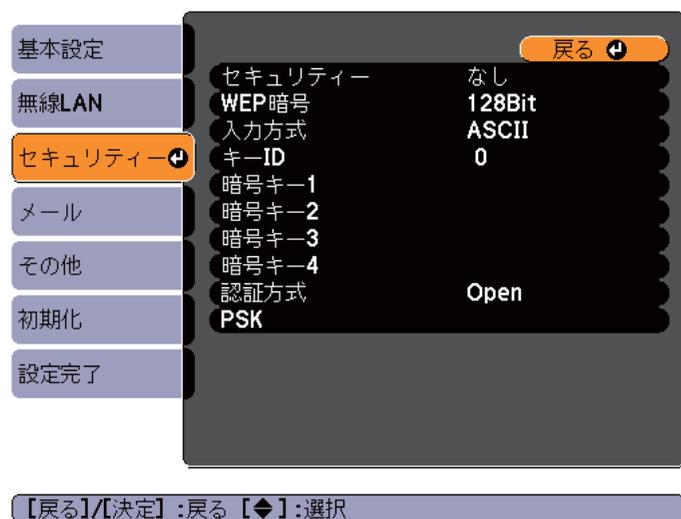
サブメニュー	機能
無線LAN電源	本機とコンピューターを無線LANで接続して使用するときは[オン]に設定します。 無線LANで接続しないときは、[オフ]に設定しておくこと他人からの不正なアクセス等を防ぐことができます。 初期値は[オン]に設定されています。
接続モード	EasyMP Network Projectionで本機とコンピューターを接続するときに設定します。 初期値は[かんたんモード]に設定されています。 接続モードに関する詳細は、以下のマニュアルをご覧ください。 👉『EasyMP Network Projection操作ガイド』
チャンネル設定	([接続モード]を[かんたんモード]に設定しているときのみ設定可能) 無線LANで使用する周波数の帯域を[1ch]、[6ch]、[11ch]から選択します。 初期値は[11ch]に設定されています。

サブメニュー	機能
無線LAN方式	無線LAN方式を[802.11b/g]か[802.11b/g/n]のどちらかに設定します。 初期値は[802.11b/g]に設定されています。
自動SSID設定	[オン]にすると、[接続モード]を[かんたんモード]にしてネットワーク接続するときに、プロジェクターの検索時間を短縮できます。 ただし、複数台のプロジェクターに同時に接続するときは、[オフ]に設定します。 初期値は[オン]に設定されています。
SSID	SSID▶▶を入力します。本機が参加する無線LANシステムでSSIDが定められているときは、そのSSIDを入力します。 半角英数字で最大32文字まで入力できます。
IP設定	ネットワークの設定を行います。 [DHCP]: [オン]にすると、DHCP▶▶を使用してネットワークを設定します。ここで[オン]に設定すると以降のアドレスの設定はできなくなります。 [IPアドレス]: 本機に割り当てるIPアドレス▶▶を入力します。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255(xは0~255の数字) [サブネットマスク]: 本機のサブネットマスク▶▶を入力します。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 0.0.0.0、255.255.255.255 [ゲートウェイアドレス]: 本機のゲートウェイのIPアドレスを入力します。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のゲートウェイアドレス▶▶は使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255(xは0~255の数字)
SSID表示	LAN待機画面上にSSID▶▶を表示させないときは、[オフ]に設定します。

サブメニュー	機能
IPアドレス表示	LAN待機画面上にIPアドレス▶を表示させないときは、[オフ]に設定します。

セキュリティメニュー

同梱またはオプションの無線LANユニットを装着しているときのみ有効です。



サブメニュー	機能
セキュリティ	セキュリティの種類を表示される項目から選択します。セキュリティの設定は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従ってください。
WEP暗号	WEP暗号化の暗号方式を設定します。 [128Bit]：128(104)bit暗号化を使用します。 [64Bit]：64(40)bit暗号化を使用します。

サブメニュー	機能
入力方式	WEP暗号キーの入力方式を設定します。 [ASCII]：テキストで入力します。 [HEX]：HEX(16進)で入力します。
キーID	WEP暗号IDキーを選択します。
暗号キー1/暗号キー2/暗号キー3/暗号キー4	WEP暗号に使用するキーを入力します。プロジェクターが参加するネットワークの管理者の指示に従って、キーを半角文字で入力します。[WEP暗号]と[入力方式]の設定により、入力できる文字種・数が異なります。 [128Bit]-[ASCII]の場合：半角英数字、13文字 [64Bit]-[ASCII]の場合：半角英数字、5文字 [128Bit]-[HEX]の場合：0～9とA～F、26文字 [64Bit]-[HEX]の場合：0～9とA～F、10文字
認証方式	WEP認証方式を設定します。 [Open]：オープンシステム認証を使用します。 [Shared]：共有キー認証を使用します。
PSK	([セキュリティ]で[WPA-PSK]または[WPA2-PSK]を選択しているときのみ設定可能) Pre-Shared Key(暗号キー)を半角英数字で入力します。8文字以上、最大32文字まで入力できます。

セキュリティの種類

同梱またはオプションの無線LANユニットを装着してマニュアルモードでお使いの際は、必ずセキュリティの設定を行うことをお奨めします。次のセキュリティ設定の中から1つ選択できます。

• WEP

暗号キー(WEPキー)を使ってデータの暗号化を行います。アクセスポイントとプロジェクター間で、暗号キーが一致しないと通信できない仕組みです。

- **WPA**

WEPの弱点を補強しセキュリティ強度を向上させた暗号化規格です。WPAには数種類の暗号化方式がありますが、本機ではTKIPとAESを使用します。

WPAは、ユーザー認証機能も備えています。WPAの認証方式には、認証サーバーを使う方法と、認証サーバーは使わずコンピューターとアクセスポイントの間で認証を行う方法があります。本機は、認証サーバーを使わない認証方法に対応しています。



各設定の作業は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従って行ってください。

メールメニュー

本機が異常/警告状態になったときに、ここで通知先を設定すると電子メールで通知されます。

☛ 「メール通知機能で異常を通知する」 p.112

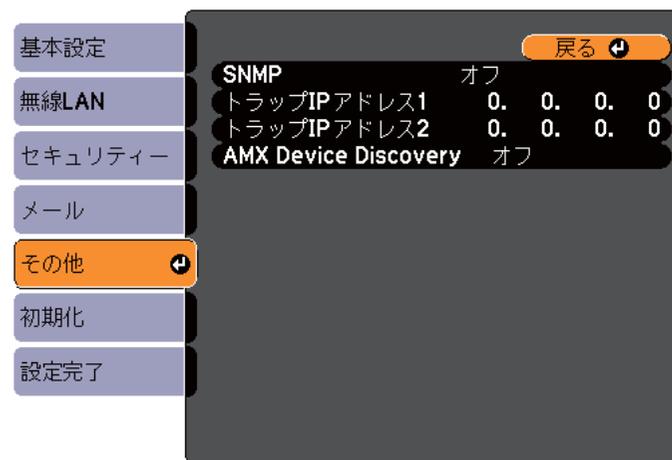


【戻る】/【決定】:戻る 【◆】:選択

サブメニュー	機能
メール通知機能	[オン]にすると、プロジェクターが異常/警告状態になったときに、設定した宛先にメールで通知します。
SMTPサーバー	本機が使うSMTPサーバーのIPアドレス▶を入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
ポート番号	SMTPサーバーのポート番号を入力します。初期値は25です。1～65535までの有効な数値を入力できます。

サブメニュー	機能
宛先1設定/宛先2設定/宛先3設定	通知メールの送信先のメールアドレスを入力します。送信先は最大3件まで登録できます。メールアドレスは最大32文字まで入力できます。 メールで通知する本機の異常/警告を選択します。選択した異常/警告が本機で起きたときに、宛先メールアドレスで指定したメールアドレスに異常/警告が発生したことを通知します。表示されている項目より、複数選択できます。

その他メニュー



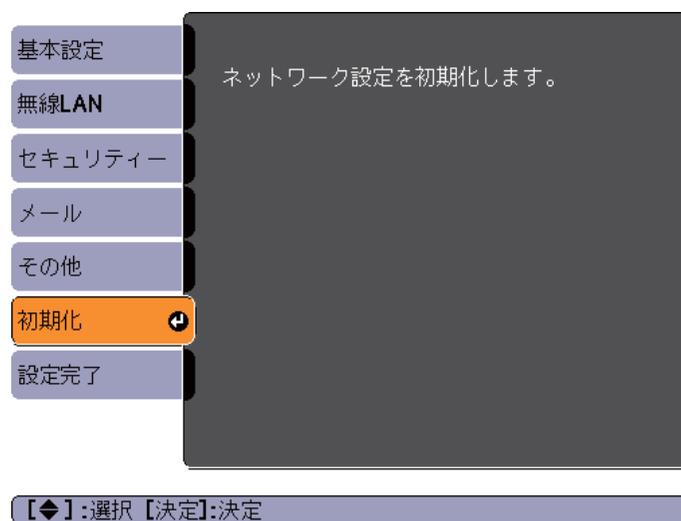
【戻る】/【決定】:戻る 【◆】:選択

サブメニュー	機能
SNMP	[オン]にすると、SNMPを使用して本機の監視をします。本機を監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャプログラムがインストールされている必要があります。SNMPによる管理は、必ずネットワーク管理者が行ってください。 初期値は[オフ]に設定されています。

サブメニュー	機能
トラップIPアドレス1/トラップIPアドレス2	SNMPのトラップ通知先のIPアドレスを2つまで登録できます。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
AMX Device Discovery	本機をネットワークに接続しているとき、AMX Device Discoveryによる本機の検出を有効にしたいときは[オン]に設定します。AMX社のコントローラーやAMX Device Discoveryで制御する環境に接続していないときは、[オフ]に設定してください。

初期化メニュー

ネットワークの設定をすべて初期化します。

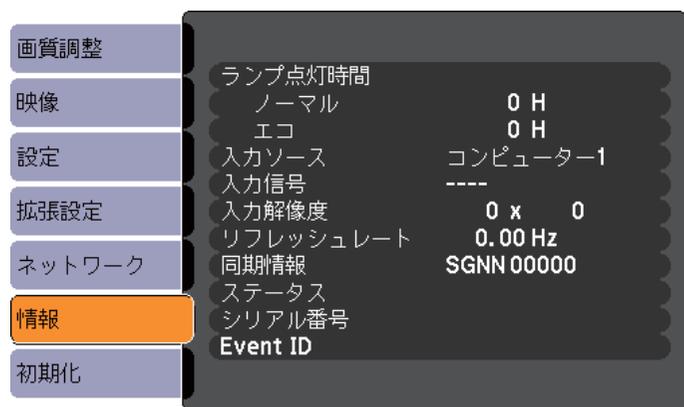


サブメニュー	機能
ネットワーク設定を初期化します。	ネットワーク設定をすべて初期化するときは[[はい]]を選択します。

情報メニュー(表示のみ)

投写している映像信号や本機の状態を確認できます。現在投写している入力ソースにより表示される項目が異なります。お使いの機種により対応していない入力ソースもあります。

☛ 「入力信号を自動検出して切り替える (入力検出)」 p.27



[◆]:選択

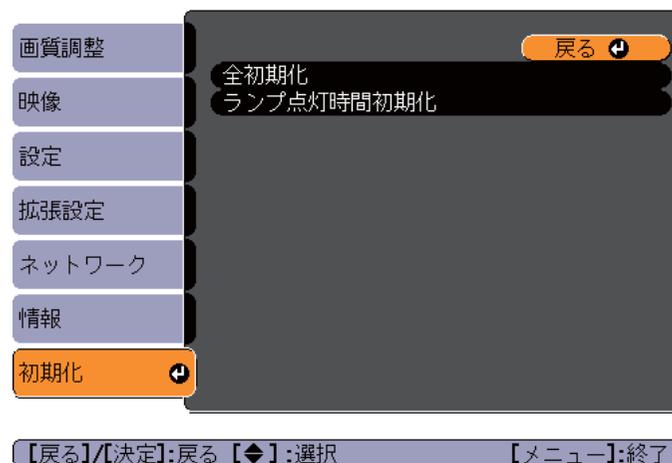
[メニュー]:終了

サブメニュー	機能
ランプ点灯時間	ランプの累積使用時間*を表示しています。ランプ寿命警告時間に達すると、文字が黄色に変わります。
入力ソース	現在投写中の機器を接続している入力ソース名を表示しています。
入力信号	[映像]メニューの[入力信号方式]の設定内容を入力ソースに応じて表示しています。
入力解像度	入力解像度を表示しています。
ビデオ信号方式	[映像]メニューの[ビデオ信号方式]の設定内容を表示しています。

サブメニュー	機能
リフレッシュレート	リフレッシュレート▶▶を表示しています。
同期情報	映像信号の情報を表示しています。お問い合わせ時に、この値を確認することがあります。
ステータス	本機に発生した異常についての情報です。お問い合わせ時に、この値を確認することがあります。
シリアル番号	本機のシリアル番号を表示します。
Event ID (EB-1775W/ EB-1770W/ EB-1760Wのみ)	アプリケーションエラーログを表示します。 ☛ 「Event IDについて (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)」 p.115

※ 累積使用時間が0～10時間までは「0H」と表示されます。10時間以上は「10H」、「11H」と1時間単位で表示されます。

初期化メニュー



サブメニュー	機能
全初期化	環境設定メニューの全項目を初期設定に戻します。 [入力信号方式]、[ユーザーロゴ]、[ネットワーク]メニュー※の全項目、[ランプ点灯時間]、[言語]、[パスワード]、[ユーザーボタン]、[マルチスクリーン]は初期値に戻りません。
ランプ点灯時間 初期化	ランプ点灯時間の累積をクリアします。ランプを交換したときに行ってください。

※ (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)



困ったときに

ここでは、想定されるトラブルと、その対処法などについて説明しています。

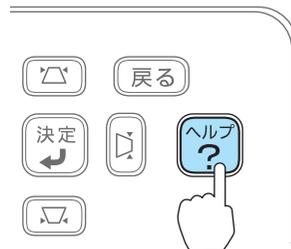
トラブル発生時の解決方法を投写映像に表示できます。質問に答えていくと適切な状態に設定することもできます。

1 【ヘルプ】ボタンを押します。 ヘルプ画面が表示されます。

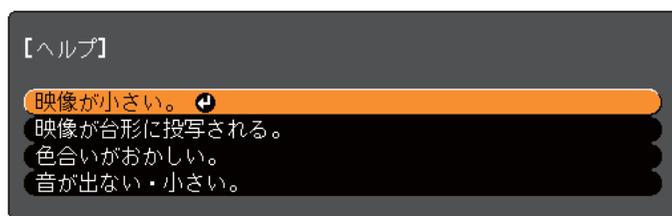
リモコンの場合



操作パネルの場合



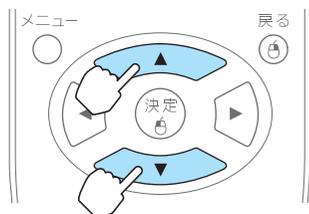
2 項目を選択します。



【◀▶】: 選択 【決定】: 決定

【ヘルプ】: 終了

リモコンの場合

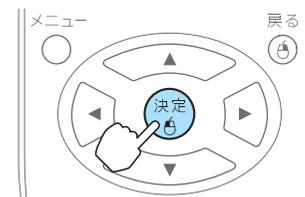


操作パネルの場合

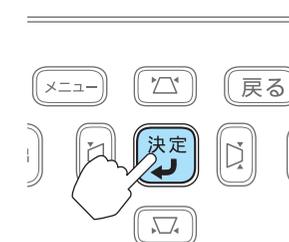


3 項目を決定します。

リモコンの場合



操作パネルの場合



以下の画面のように質問と対処法が表示されます。
【ヘルプ】ボタンを押すとヘルプは解除されます。

映像が小さい。

- ❓ ズームが最小になっていませんか？
・ズームリングで映像の大きさを変更してください。
- ❓ プロジェクターがスクリーンに近すぎませんか？
・プロジェクターをスクリーンから離してください。

【戻る】: 戻る

【ヘルプ】: 終了



ヘルプ機能を使ってもわからないときは、以下をご覧ください。

👉 「故障かなと思ったら」 p.88

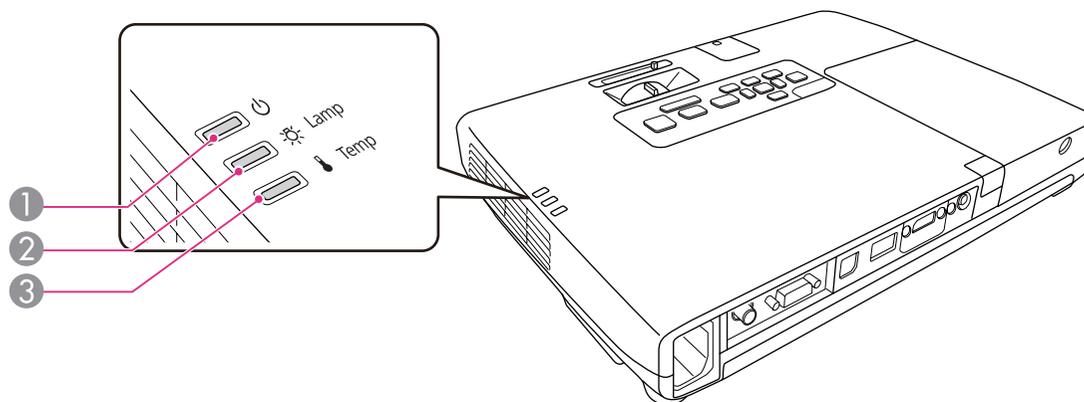
故障かな？と思ったら、まず本機のインジケーターをご覧になり下記の「インジケーターの見方」で本機の状態をご確認ください。

インジケーターをご覧になってもわからないときは、以下をご覧ください。

☛ 「インジケーターを見てもわからないとき」 p.91

インジケーターの見方

本機には、次の3種類のインジケーターがあり本機の状態をお知らせします。



① パワーインジケーター

動作状態をお知らせします。

-  スタンバイ状態
この状態で【**⏻**】ボタンを押すと投写を開始します。
-  ネットワーク監視準備中または、クールダウン中
点滅中はすべてのボタン操作ができません。
-  ウォームアップ中
ウォームアップの時間は約30秒です。ウォームアップ終了後、緑色の点灯に変わります。
ウォームアップ中は【**⏻**】ボタンを押しても、機能しません。
-  投写中

② ランプインジケーター

ランプの状態をお知らせします。

③ 温度インジケーター

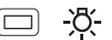
内部温度の状態をお知らせします。

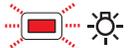
インジケータの状態とその対処方法については、次の表を参照してください。

インジケータがすべて消灯している場合は、電源ケーブルが正しく接続されていないか、または電気が供給されていません。

電源ケーブルを抜いてもインジケータがしばらく点灯したままになることがあります。故障ではありません。

■ : 点灯 ■ (with radiating lines) : 点滅 □ : 消灯 □ (with radiating lines) : 本機の状態により異なる場合

状態	原因	処置または状態
  	内部異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☞『 お問い合わせ先 』
  	ファン異常 センサー異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☞『 お問い合わせ先 』
  	内部高温異常 (オーバーヒート)	ランプが自動的に消灯し、投写できなくなります。約5分間は、そのままの状態待ちます。約5分後、スタンバイ状態になりますので、次の2点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認します。 • エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換をします。 ☞「エアフィルターの掃除」 p.101, 「エアフィルターの交換」 p.105 上記を確認後もエラーになるとき: ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☞『 お問い合わせ先 』
		標高1500m以上の場所でお使いのときは、[高地モード]を[オン]にしてください。 ☞「 拡張設定メニュー 」 p.74
  	ランプ異常 ランプ点灯失敗	次の2点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • ランプを取り出してランプが割れていないか確認します。 ☞「ランプの交換」 p.102 • エアフィルターを掃除します。 ☞「エアフィルターの掃除」 p.101

状態	原因	処置または状態
		<p>割れていないとき：ランプを再セットして、電源を入れます。</p> <p>それでもエラーになるとき：新しいランプに交換してから電源を入れます。</p> <p>それでもエラーになるとき：ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。</p> <p>☛『お問い合わせ先』</p>
		<p>割れているとき：お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください(ランプを交換しないと映像を投写することはできません)。</p> <p>☛『お問い合わせ先』</p>
		<p>標高1500m以上の場所でお使いのときは、[高地モード]を[オン]にしてください。</p> <p>☛「拡張設定メニュー」 p.74</p>
  	オートアイリス異常 電源系異常(バラスト)	<p>ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。</p> <p>☛『お問い合わせ先』</p>
  	高温警告	<p>(異常ではありません。ただし、さらに高温になると投写を自動停止します。)</p> <ul style="list-style-type: none"> エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認してください。 エアフィルターが目詰まりしている場合は、掃除または交換をしてください。 <p>☛「エアフィルターの掃除」 p.101, 「エアフィルターの交換」 p.105</p>
  	ランプ交換勧告	<p>新しいランプに交換してください。</p> <p>☛「ランプの交換」 p.102</p> <p>交換時期を超えて使い続けると、ランプが破裂する可能性が一段と高くなります。すみやかに新しいランプと交換してください。</p>



- インジケータは異常を示していないのに、投写映像が異常のときは、以下をご覧ください。
- ☛「インジケータを見てもわからないとき」 p.91
- 各インジケータがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。
- ☛『お問い合わせ先』

インジケータを見てもわからないとき

まず、下記をご覧になりどのトラブルに該当するかを確認し、参照先で詳細な内容をご覧ください。

映像に関するトラブル

<ul style="list-style-type: none"> • 映像が表示されない 投写を開始しない・真っ黒の映像になる・青い映像になる 	☞ p.92
<ul style="list-style-type: none"> • 動画が表示されない コンピューターで再生する動画が黒くなり映像が投写されない。 	☞ p.93
<ul style="list-style-type: none"> • 自動的に投写が消える 	☞ p.93
<ul style="list-style-type: none"> • 「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される 	☞ p.93
<ul style="list-style-type: none"> • 「映像信号が入力されていません。」と表示される 	☞ p.93
<ul style="list-style-type: none"> • ノイズが入る、乱れる 	☞ p.95
<ul style="list-style-type: none"> • 映像が切れる(大きい)、小さい、アスペクト比が合っていない 映像の一部分しか投写されない、映像の縦横の比率が正しくない 	☞ p.95
<ul style="list-style-type: none"> • 色合いが違う 全体が赤紫がかっている・緑色がかっている・モノクロになる・色がくすむ 	☞ p.96
<ul style="list-style-type: none"> • 暗い 	☞ p.97

投写開始時のトラブル

<ul style="list-style-type: none"> • 電源が入らない 	☞ p.97
---	--------

その他のトラブル

<ul style="list-style-type: none"> • 音がでない・小さすぎる 	☞ p.98
<ul style="list-style-type: none"> • リモコンで操作できない 	☞ p.98

<ul style="list-style-type: none"> • メッセージやメニューの言語を変更したい 	☞ p.99
<ul style="list-style-type: none"> • プロジェクターに異常が起きてもメール通知されない (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ) 	☞ p.99

映像に関するトラブル

映像が表示されない

確認	対処法
【  】ボタンを押しましたか？	【  】ボタンを押して電源を入れます。
インジケータがすべて消灯していませんか？	電源ケーブルが正しく接続されていない、または電気が供給されていません。 本機に電源ケーブルを正しく接続してください。 ☛ 「設置から投写までの流れ」 p.26 または、電気が供給されるようにブレーカーなどを確認してください。
A/Vミュートの状態になっていませんか？	リモコンの【A/Vミュート】ボタンを押してA/Vミュートを解除します。 ☛ 「映像と音声を一時的に消す（A/Vミュート）」 p.51
レンズカバーが閉じていませんか？	レンズカバーを開けます。 ☛ 「前面/上面」 p.10
環境設定メニューの設定で間違っているものはありませんか？	全初期化してみてください。 ☛ 「初期化」 - 「全初期化」 p.84 USBディスプレイを使うときは、[USB Type B]の設定を[USB Display]に設定してください。 ☛ 「拡張設定」 - 「USB Type B」 p.74
入力映像そのものが真っ黒になっていませんか？ (コンピューター投写時のみ)	スクリーンセーバーなどで入力映像が真っ黒になっていることがあります。
映像の信号形式の設定は合っていますか？ (ビデオ機器投写時のみ)	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 ☛ 「映像」 - 「ビデオ信号方式」 p.71
USBケーブルが正しく接続されていますか？ (USBディスプレイ投写時のみ)	USBケーブルが正しく接続されているかを確認します。接続されていなかったり間違っていて接続されているときは、接続し直します。
Windows Media Centerを全画面表示にしていますか？ (USBディスプレイ、ネットワーク接続時のみ)	Windows Media Centerを全画面で表示すると、USBディスプレイまたはネットワーク接続で投写できません。縮小画面表示にしてください。
WindowsのDirectX機能を使用するアプリケーションを表示していませんか？ (USBディスプレイ、ネットワーク接続時のみ)	WindowsのDirectX機能を使用するアプリケーションは、正しく表示されない可能性があります。

動画が表示されない(動画の部分だけが黒くなる)

確認	対処法
<p>コンピューター映像信号が外部と液晶画面の両方に出力されていませんか？ (ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ)</p>	<p>コンピューター側の映像信号を外部のみの出力に切り替えます。コンピューターに添付の取扱説明書、あるいはお使いのコンピューターのメーカーにお問い合わせください。</p>

自動的に投写が消える

確認	対処法
<p>[スリープモード]を[オン]にしていますか？</p>	<p>【⏻】ボタンを押して電源を入れます。スリープモードを働かせないときは設定を[オフ]にしてください。 ☛ [拡張設定] - [動作設定] - [スリープモード] p.74</p>

「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される

確認	対処法
<p>映像の信号形式の設定は合っていますか？ (ビデオ機器投写時のみ)</p>	<p>接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 ☛ [映像] - [ビデオ信号方式] p.71</p>
<p>映像信号の解像度やリフレッシュレートが対応するモードですか？ (コンピューター投写時のみ)</p>	<p>コンピューターから出力されている映像信号の解像度・リフレッシュレートの変更は、コンピューターの取扱説明書などでご確認ください。 ☛ 「対応解像度一覧」 p.120</p>

「映像信号が入力されていません。」と表示される

確認	対処法
<p>ケーブル類が正しく接続されていますか？</p>	<p>投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ☛ 「設置から投写までの流れ」 p.26</p>
<p>接続した入力端子を正しく選択していますか？</p>	<p>リモコンか操作パネルの【入力検出】ボタンを押して映像を切り替えます。 ☛ 「入力信号を自動検出して切り替える (入力検出)」 p.27</p>
<p>接続されたコンピューターやビデオ機器の電源は入っていますか？</p>	<p>それぞれの機器の電源を入れます。</p>

確認	対処法
<p>プロジェクターに映像信号が出力されていますか？ (ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ)</p>	<p>映像信号がコンピューターの液晶モニターや付属モニターにだけ出力されている場合は、外部にも出力するように切り替えてください。外部に映像信号を出力すると、液晶モニターや付属モニターに映像が出せないモデルもあります。</p> <p>本機やコンピューターの電源を入れた状態で接続を行うと、コンピューターの映像信号を外部に切り替えるFnキー(ファンクションキー)が働かないことがあります。本機およびコンピューターの電源を入れ直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「設置から投写までの流れ」 p.26 ☛ コンピューターの取扱説明書など

ぼやける、ピントが合わない、ゆがむ

確認	対処法
<p>プロジェクターとスクリーンの距離が2.5m以上離れていませんか？(EB-1775Wの場合)</p>	<p>自動タテヨコ補正またはかんたんセットアップで投写映像が自動調整されるのは、スクリーンから約1.0～2.5mまでです。それより遠い場所に設置するときは、手動で投写映像を調整してください。</p>
<p>[自動タテヨコ補正]を[オフ]に設定していませんか？(EB-1775Wのみ)</p>	<p>[オン]に設定すると自動タテヨコ補正が機能します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ [設定]-[台形補正]-[自動タテヨコ補正] p.73 <p>オフのまま使用する場合は、手動で投写映像を調整してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「手動で補正する-手動タテヨコ補正-」 p.34
<p>ピントは正しく調整されていますか？</p>	<p>【フォーカス】ボタン(EB-1775Wのみ)、またはフォーカスリング(EB-1770W/EB-1760W/EB-1750のみ)でピントを合わせます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「ピントのズレを補正する」 p.37
<p>投写距離は最適ですか？</p>	<p>投写距離の推奨範囲を外れていませんか？ 推奨範囲内で設置してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「スクリーンサイズと投写距離」 p.117
<p>台形補正の調整値を大きくしていませんか？</p>	<p>投写角度を小さくして台形補正の調整値を小さくしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☛ 「映像の高さを調整する」 p.37
<p>レンズが結露していませんか？</p>	<p>寒い部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだり急激に暖房したときなど、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に使用する部屋に本機を設置するようにします。結露してしまったときは、電源を切ってしばらくそのまま放置してください。</p>

ノイズが入る、乱れる

確認	対処法
映像の信号形式の設定は合っていますか？ (ビデオ機器投写時のみ)	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 ☛ [映像] - [ビデオ信号方式] p.71
ケーブル類は正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ☛ 「接続する」 p.21
ケーブルを延長していませんか？	ケーブルを延長するとノイズが入ることがあります。同梱のケーブルを接続して確認してください。
解像度の選択は正しいですか？ (コンピューター投写時のみ)	本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 ☛ 「対応解像度一覧」 p.120 ☛ コンピューターの取扱説明書など
同期▶▶・トラッキング▶▶は正しく調整されていますか？ (コンピューター投写時のみ)	リモコンの【自動調整】ボタンまたは操作パネルの【決定】ボタンを押して、自動調整を行います。自動調整を行っても調整しきれないときは、環境設定メニューから調整することもできます。 ☛ [映像] - [トラッキング]、[同期] p.71
[レイヤードウィンドウの転送]にチェックマークが入っていませんか？ (USBディスプレイ投写時のみ)	コンピューターで[すべてのプログラム] - [EPSON Projector] - [EPSON USB Display] - [EPSON USB Display Vx.xxの設定]で、[レイヤードウィンドウの転送]のチェックを外します。

映像が切れる(大きい)、小さい、アスペクトが合っていない

確認	対処法
ワイドパネルのコンピューター映像を投写していますか？ (コンピューター投写時のみ)	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 ☛ [映像] - [入力解像度] p.71
Eズームで拡大したままになっていませんか？	リモコンの【戻る】ボタンを押してEズーム機能を解除します。 ☛ 「映像を部分的に拡大する (Eズーム)」 p.53
表示位置は正しく調整されていますか？	コンピューター映像投写時は、リモコンの【自動調整】ボタンまたは操作パネルの【決定】ボタンを押して、自動調整を行います。自動調整を行っても調整しきれないときは、環境設定メニューから調整することもできます。 コンピューター映像以外の信号を投写時は、環境設定メニューから調整します。 ☛ [映像] - [表示位置] p.71

確認	対処法
デュアルディスプレイの設定をしていませんか？ (コンピューター投写時のみ)	接続しているコンピューターのコントロールパネルの[画面のプロパティ]でデュアルディスプレイの設定をしていると、コンピューター画面の映像が半分くらいしか投写されません。コンピューター画面の映像をすべて投写するときは、デュアルディスプレイの設定を解除します。 ☛ コンピューターのビデオドライバーの取扱説明書
解像度の選択は正しいですか？ (コンピューター投写時のみ)	本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 ☛ 「対応解像度一覧」 p.120 ☛ コンピューターの取扱説明書など

色合いが違う

確認	対処法
入力信号の設定が接続機器の信号と合っていますか？	以下のとおり接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 • コンピューター入力端子に接続した機器の映像のとき ☛ [映像] - [入力信号方式] p.71 • ビデオ入力端子に接続した機器の映像のとき ☛ [映像] - [ビデオ信号方式] p.71
映像の明るさは正しく調整されていますか？	環境設定メニューの[明るさ]を調整してください。 ☛ [画質調整] - [明るさ] p.70
ケーブル類が正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ☛ 「接続する」 p.21
コントラスト▶▶は正しく調整されていますか？	環境設定メニューの[コントラスト]を調整してください。 ☛ [画質調整] - [コントラスト] p.70
適切なカラー調整に設定されていますか？	環境設定メニューの[カラー調整]を調整してください。 ☛ [画質調整] - [カラー調整] p.70
色の濃さ、色合いは正しく調整されていますか？ (ビデオ機器投写時のみ)	環境設定メニューの[色の濃さ]、[色合い]を調整してください。 ☛ [画質調整] - [色の濃さ]、[色合い] p.70

暗い

確認	対処法
映像の明るさは正しく設定されていますか？	環境設定メニューから[明るさ]や[明るさ切替]を設定してください。  [画質調整] - [明るさ] p.70  [設定] - [明るさ切替] p.73
<u>コントラスト</u> ▶▶は正しく調整されていますか？	環境設定メニューから[コントラスト]を調整してください。  [画質調整] - [コントラスト] p.70
ランプの交換時期ではありませんか？	ランプの交換時期が近づくと映像が暗くなったり、色合いが悪くなります。新しいランプと交換してください。  「ランプの交換」 p.102

投写開始時のトラブル

電源が入らない

確認	対処法
【  】ボタンを押しましたか？	【  】ボタンを押して電源を入れます。
インジケータがすべて消灯していませんか？	電源ケーブルが正しく接続されていない、または電気が供給されていません。 電源ケーブルを抜いて差し直してください。  「設置から投写までの流れ」 p.26 または、電気が供給されるようにブレーカーなどを確認してください。
電源ケーブルを触ると、インジケータが点いたり消えたりしませんか？	電源ケーブルが接触不良を起こしているか、電源ケーブルが故障している可能性があります。電源ケーブルを差し直してください。それでも直らないときは、ご使用をやめ電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。  『お問い合わせ先』
[操作ボタンロック]が[全ロック]になっていませんか？	リモコンの【  】ボタンを押します。[操作ボタンロック]を働かせないときは設定を[オフ]にしてください。  [設定] - [操作ボタンロック] p.73
リモコン受光部の設定は正しいですか？	環境設定メニューの[リモコン受光部]の設定を確認してください。  [設定] - [リモコン受光部] p.73

その他のトラブル

音が出ない・小さすぎる

確認	対処法
オーディオケーブルは正しく接続されていますか？	音声入力端子からケーブルを抜いて差し直してください。
音量調整が最小になっていませんか？	聞こえる音量に調整してください。  [設定]-[音量] p.73  「音量を調整する」 p.38
AVミュートの状態になっていませんか？	リモコンの【AVミュート】ボタンを押してAVミュートを解除します。  「映像と音声を一時的に消す (AVミュート)」 p.51
オーディオケーブルの仕様は「抵抗なし」となっていますか？	市販のオーディオケーブルを使う場合は「抵抗なし」と表記されているものをお使いください。
HDMIケーブルで接続していますか？ (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)	HDMIケーブルで接続していて音が出ないときは、接続先の機器の設定をPCM出力にしてください。
[音声をプロジェクターで出力する]にチェックマークが入っていますか？ (USBディスプレイ投写時のみ)	コンピューターで[すべてのプログラム] - [EPSON Projector] - [EPSON USB Display] - [EPSON USB Display Vx.xxの設定]で、[音声をプロジェクターで出力する]にチェックを入れます。

リモコンで操作できない

確認	対処法
リモコンの発光部を本機のリモコン受光部に向けて操作していますか？	リモコン受光部に向かって操作してください。  「リモコンの操作可能範囲」 p.17
本機から離れすぎていませんか？	操作可能距離は、約6mです。  「リモコンの操作可能範囲」 p.17
リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の強い光が当たっていませんか？	強い光などがリモコン受光部に当たる場所を避けて設置してください。または、環境設定メニューの[リモコン受光部]で光の影響を受けている方の受光部を[オフ]にしてください。  [設定] - [リモコン受光部] p.73
[リモコン受光部]の設定は正しいですか？	環境設定メニューの[リモコン受光部]の設定を確認してください。  [設定] - [リモコン受光部] p.73

確認	対処法
乾電池が消耗していたり、乾電池の向きを間違えてセットしていませんか？	新しい乾電池を正しい向きにセットします。 ☛「リモコンの電池交換」 p.17
リモコンIDはプロジェクターIDと一致していますか？	操作したいプロジェクターのIDとリモコンのIDを一致させてください。IDの設定に関わらずすべてのプロジェクターをリモコンで操作できるようにするには、リモコンのIDを0に設定してください。 ☛「リモコンのIDを設定する」 p.57

メッセージやメニューの言語を変更したい

確認	対処法
言語の設定を変更します。	環境設定メニューの言語で目的の言語を選択してください。 ☛ [拡張設定] - [言語] p.74

プロジェクターに異常が起きてもメール通知されない(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)

確認	対処法
[待機モード]を[通信オン]に設定していますか？	本機がスタンバイ状態のときもメール通知機能を使うためには、環境設定メニューの[待機モード]を[通信オン]に設定します。 ☛ [拡張設定] - [待機モード] p.74
致命的な異常が発生し、本機が瞬時に起動停止状態になっていませんか？	瞬時に起動停止したときはメール送信できません。 本機を確認しても異常状態が復帰しないときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☛『 お問い合わせ先 』
本機に電源が供給されていますか？	本機が設置されている地域が停電になっていたり、本機の電源を取っているコンセントのブレーカーが切れていないか確認してください。
環境設定メニューでメール通知が正しく設定されていますか？	異常通知のメールは環境設定メニューの[メール]の設定に従って発信されます。正しく設定されているか確認してください。 ☛「メールメニュー」 p.82



メンテナンス

ここでは、メンテナンス方法など、本機を今後も長くお使いいただくための補足的な知識について説明しています。

本機が汚れたり、映像の映りが悪くなったら掃除をしてください。

注意

掃除をするときは、本機の電源をオフにしてから行ってください。

本機の掃除

本機の汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。

汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。ケースが変質、変色することがあります。

レンズの掃除

レンズの汚れは、市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。

警告

レンズに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機内部ではランプが高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

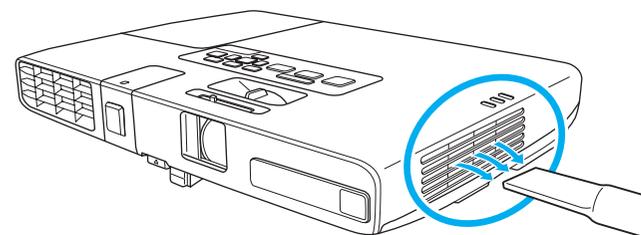
エアフィルターの掃除

下記のメッセージが表示されたらエアフィルターや吸気口の掃除をしてください。

「内部温度が上昇しています。吸排気口付近の障害物を取り除き、エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」

注意

- エアフィルターにホコリがたまると、本機内部の温度が上昇して故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。
- エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。



- 掃除をしても頻繁にメッセージが表示される場合は交換時期です。新しいエアフィルターに交換してください。
 - 「エアフィルターの交換」 p.105
- 約3ヶ月に一度は掃除を行うことをお奨めします。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除を行ってください。

ここでは、ランプ、エアフィルターの交換方法について説明します。

ランプの交換

ランプの交換時期

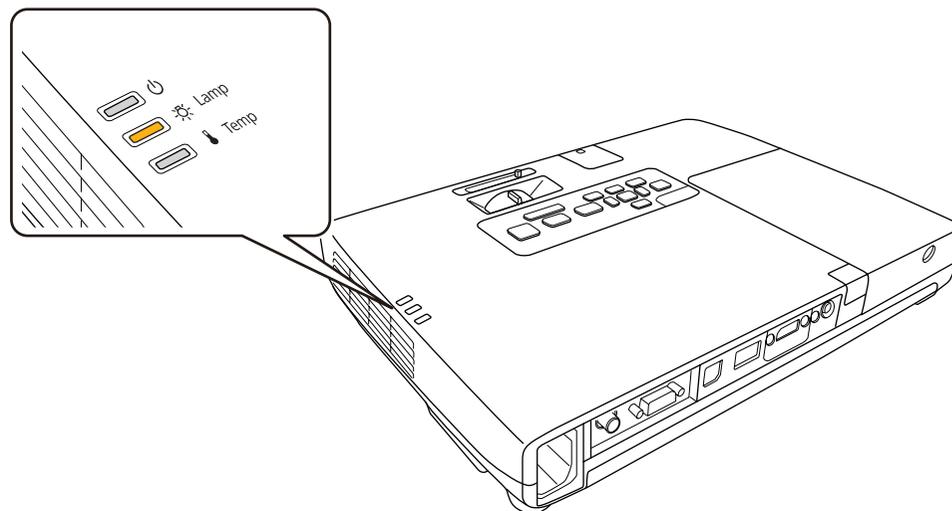
次の場合は、ランプを交換してください。

- 投写を開始したときに下図のように投写画面の左下に「投写ランプを交換してください。」とメッセージが表示されたとき



メッセージは30秒経過すると消えます。

- ランプインジケータがオレンジ色に点滅したとき



- 初期に比べ、明るさや画質が落ちたとき

注意

- 交換メッセージは、初期の明るさや画質を維持するため、次の時間で表示されます。
ランプ寿命：約3900時間
- 交換時期を超えて使い続けると、ランプが破裂する可能性が一段と高くなります。ランプ交換のメッセージが表示されたら、まだランプが点灯する状態でも、すみやかに新しいランプと交換してください。
- 電源オフ直後に電源をオンにする操作を繰り返さないでください。頻繁に電源オフ/オンを繰り返すと、ランプ寿命が短くなるおそれがあります。
- 個々のランプの特性や使用条件などで、メッセージが表示される前に暗くなったり、点灯しなくなるものがあります。交換用ランプをあらかじめ準備しておくことをお奨めします。

ランプの交換方法

本機は天吊り設置したままでもランプの交換ができます。

⚠ 警告

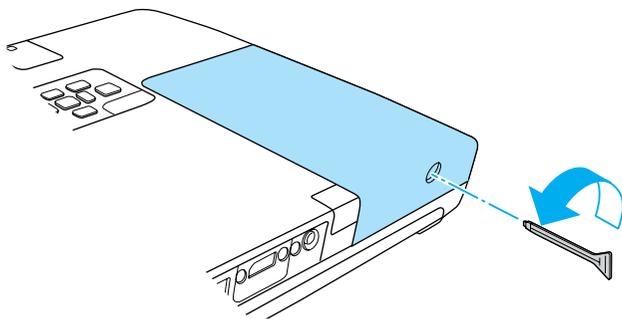
- ランプが点灯しなくなり交換するときは、ランプが割れている可能性があります。本機を天吊り設置していてランプ交換を行うときは、ランプが割れていることを想定しランプカバーの真下に立たずに横から作業してください。また、ランプカバーをそっと取り外してください。
- ランプの分解・改造は、絶対にしないでください。分解・改造したランプをセットして本機を使用すると、火災・感電・事故の原因となります。

⚠ 注意

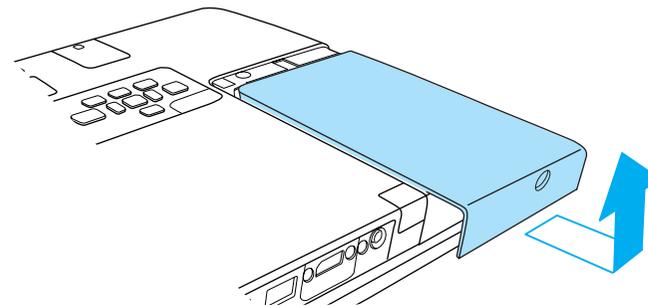
ランプが十分冷えてからランプカバーを外してください。熱で、やけど・けがの原因となることがあります。ランプが十分冷えるには、電源を切ってから約1時間必要です。

1 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源ケーブルを外します。

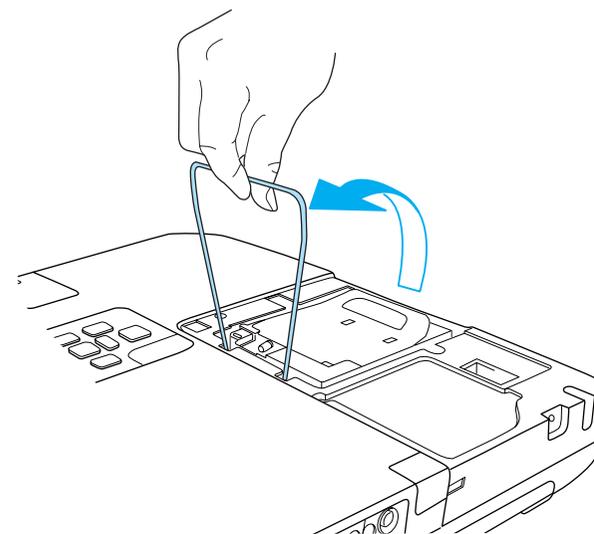
2 ランプが十分冷えてから、本機上面のランプカバーを外します。ランプカバー固定ネジを交換用ランプに同梱のドライバー、または+のドライバーでゆるめます。



ランプカバーをまっすぐスライドさせて、持ち上げて外します。



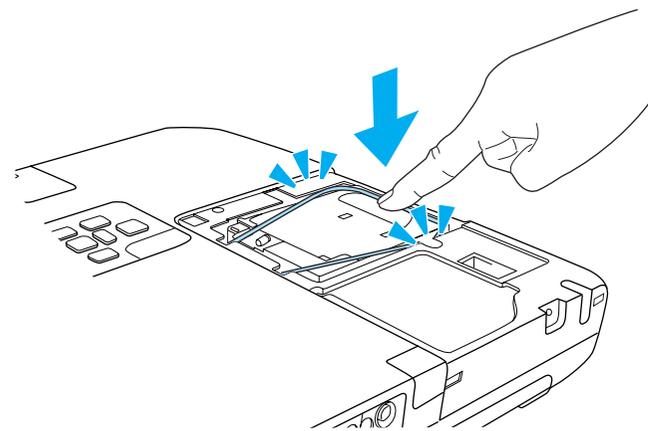
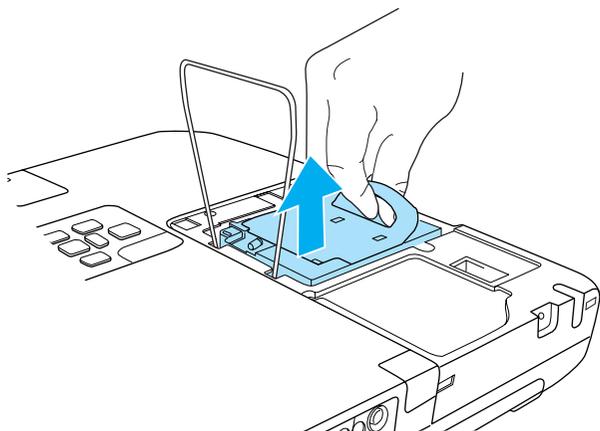
3 ランプ固定バネを上げます。



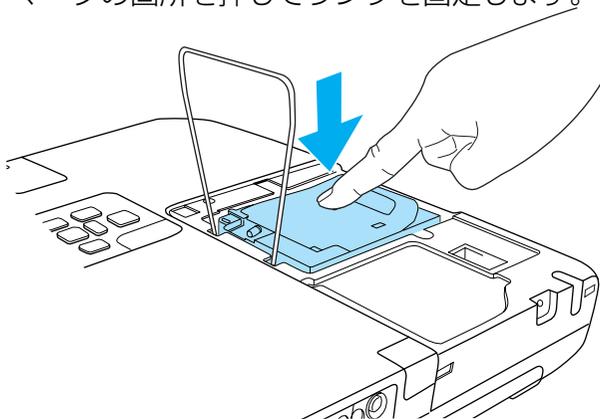
4 取っ手を持ち上げてランプを取り出します。

ランプが割れているときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

☛ [『お問い合わせ先』](#)



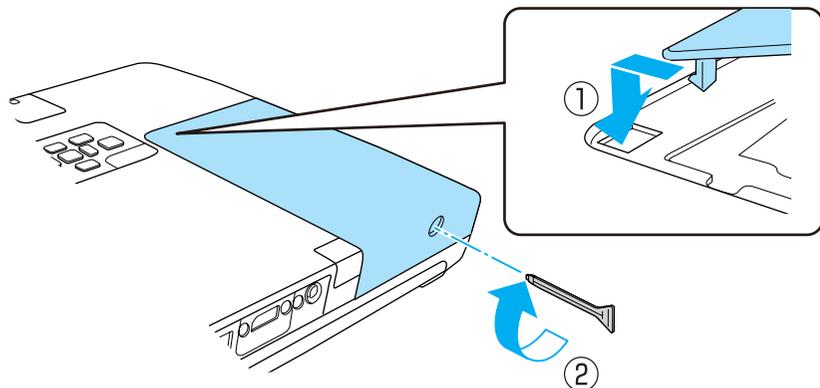
- 5** 新しいランプを取り付けます。
 ランプを収納部の形に合う向きでしっかりと押し込みます。PUSH
 マークの箇所を押してランプを固定します。



- 6** ランプ固定バネを戻して、左右2箇所がカチッと音がするまでしっ
 かり押します。

7 ランプカバーを取り付けます。

下図のようにフックを掛けてからカバーを取り付けます。ランプカバー固定ネジを締めます。



注意

- ランプは確実に取り付けてください。本機は安全のため、ランプカバーを外すと自動的に電源がオフになります。ランプやランプカバーの取り付けが不十分だと電源が入りません。
- ランプには水銀が含まれています。使用済みのランプは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。会社等でお使いのときは、会社の廃棄ルールに従ってください。

ランプ点灯時間の初期化

本機はランプ点灯時間を記憶し、累計が交換時間に達するとメッセージやインジケータでお知らせします。ランプ交換を実施した後は、環境設定メニューで[ランプ点灯時間]の累計を初期化してください。

☛ 「初期化メニュー」 p.84



[ランプ点灯時間]の初期化は、ランプを交換したとき以外には行わないでください。ランプの交換時期が正しく表示されなくなります。

エアフィルターの交換

エアフィルターの交換時期

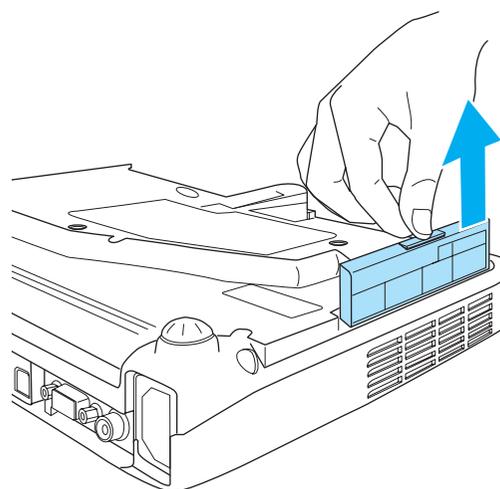
次の場合はエアフィルターを交換してください。

- エアフィルターが破れているとき。
- エアフィルターの掃除をしても頻繁にメッセージが表示される時。

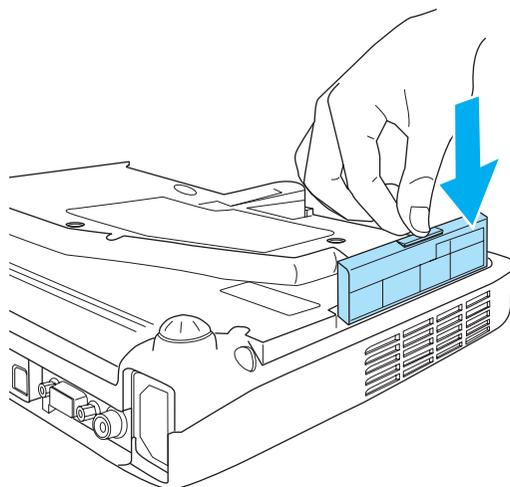
エアフィルターの交換方法

本機は天吊り設置したままでもエアフィルターの交換ができます。

- 1** 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源ケーブルを外します。
- 2** エアフィルターを取り外します。
エアフィルター中央の突起に指をかけて、外側にまっすぐ引き出します。



- 3** 新しいエアフィルターを取り付けます。
カチッと音がするまでエアフィルターを押し込みます。



使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。会社等でお使いのときは、会社の廃棄ルールに従ってください。

枠部分の材質：ポリフェニレンエーテル、ポリスチレン樹脂
フィルター部分の材質：ポリウレタンフォーム

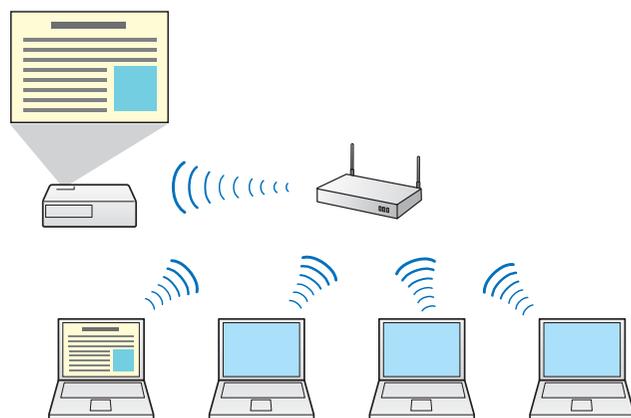


付録

EasyMP Network Projection (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)

本機に同梱されているEasyMP Network Projectionを使うと、ネットワーク経由でコンピューターの画面をプロジェクターから投写できます。ネットワーク上のプロジェクターを共用して、映像ケーブルをつなぎかえることなく各自の資料を投写したり、コンピューターから距離の離れたプロジェクターに投写したりできます。また、コンピューターの音声をプロジェクターから出力できます。

本機は無線LAN接続によるネットワーク経由の投写のみ対応していません。



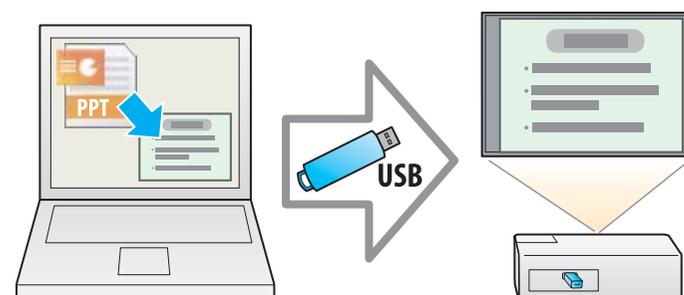
詳しくは以下のマニュアルをご覧ください。

👉 『EasyMP Network Projection操作ガイド』

EasyMP Slide Converter

本機に同梱されているEasyMP Slide Converterを使うと、PowerPointファイルをプロジェクターが単体で再生できるシナリオファイルへ変換できます。

変換したシナリオをUSBストレージに保存します。USBストレージをプロジェクターに接続するとスライドショーで再生します。



詳しくは以下のマニュアルをご覧ください。

👉 『EasyMP Slide Converter操作ガイド』

👉 「スライドショーの操作方法」 p.46

EasyMP Monitor (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)

EasyMP Monitorを使うと、ネットワーク上の複数のエプソンプロジェクターの状態をコンピューターのモニターに表示して確認したり、コンピューターから制御したりできます。

EasyMP Monitorは以下のWebサイトからダウンロードしてください。

<http://www.epson.jp/download/>

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。これらのオプション類は2010年8月現在のものです。予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

オプション

携帯スクリーン(50型) ELPSC06 持ち運びに便利なコンパクトスクリーンです。(アスペクト比▶▶4:3)
60型スクリーン ELPSC27 80型スクリーン ELPSC28 100型スクリーン ELPSC29 携帯型ロールスクリーンです。(アスペクト比4:3)
53型スクリーン ELPSC30 64型スクリーン ELPSC31 携帯型マグネットスクリーンです。(アスペクト比4:3)
コンピューターケーブル ELPKC02 (ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用1.8m) 製品同梱のコンピューターケーブルと同等品です。
コンピューターケーブル ELPKC09 (ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 3m) コンピューターケーブル ELPKC10 (ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 20m) 製品同梱のコンピューターケーブルでは短いときの延長ケーブルです。
D端子ケーブル ELPKC22 (ミニD-Sub 15pin/D端子用 3m) 映像機器のD端子と接続するときに使います。
コンポーネントビデオケーブル ELPKC19 (ミニD-Sub 15pin/RCAオス×3用 3m) コンポーネントビデオ▶▶を投写するときに使います。
書画カメラ ELPDC06 書籍やOHP原稿、スライドを投写するときなどに使います。

無線LANユニット ELPAP07(EB-1770W/EB-1760Wのみ) 本機とコンピューターを無線で接続して投写するときに使います。
クイックワイヤレス用USBキー ELPAP08(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ) 本機とWindows搭載のコンピューターを1対1で即接続して投写するときに使います。
パイプ450(450mm)※ ELPFP13 パイプ700(700mm)※ ELPFP14 高天井および化粧天井に取り付けるときに使います。
天吊り金具※ ELPMB23 本機を天井に取り付けるときに使います。
アタッチメントプレート※ ELPPT01 本機に天吊り金具を取り付けるときに使います。

※ 天吊り設置には特別な技術が必要となります。お買い求めいただいた販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

☛ [『お問い合わせ先』](#)

消耗品

交換用ランプ ELPLP65 使用済みランプと交換します。
エアフィルター ELP AF31 使用済みエアフィルターと交換します。

Webブラウザを使って設定を変更する(Web制御)

本機とネットワーク接続したコンピューターのWebブラウザを利用して、コンピューターから本機の設定や制御が行えます。この機能を使えば、本機と離れた場所から、設定や制御の操作ができます。また、キーボードを使って設定内容を入力できるので、文字の入力を伴う設定も容易にできます。

Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer6.0以降を使用してください。Mac OSをお使いの場合は、Safariも使用できます。



【待機モード】を【通信オン】に設定しておくと、本機がスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、Webブラウザを使った設定や制御ができます。

☛ 【拡張設定】-【待機モード】p.74

本機の設定

本機の環境設定メニューで設定する項目をWebブラウザ上で設定できます。設定した内容は、環境設定メニューに反映されます。また、Webブラウザでのみ設定できる項目もあります。

Webブラウザで設定できない環境設定メニューの項目

- 設定メニュー - ポインター形状
- 設定メニュー - テストパターン
- 設定メニュー - ユーザーボタン
- 拡張設定メニュー - ユーザーロゴ
- 拡張設定メニュー - 言語
- 拡張設定メニュー - 動作設定 - 高地モード

- 拡張設定メニュー - 動作設定 - レンズカバータイマー
 - 初期化メニュー - 全初期化、ランプ点灯時間初期化
- 各メニューの項目の内容は本機の環境設定メニューと同じです。
- ☛ 「環境設定メニュー」 p.66

Webブラウザでのみ設定できる項目

- SNMPコミュニティ名
- Monitorパスワード

Web制御画面を表示する

以下の手順で、Web制御画面を表示します。



ご使用のWebブラウザで、プロキシサーバーを使用して接続するように設定されていると、Web制御画面を表示できません。表示したい場合は、プロキシサーバーを使用しないで接続するように設定してください。

- 1** コンピューターでWebブラウザを起動します。
- 2** Webブラウザのアドレス入力部に、プロジェクターのIPアドレスを入力し、コンピューターのキーボードのEnterキーを押します。

Web制御画面が表示されます。

プロジェクターの環境設定メニューのネットワークメニューでWeb制御パスワードを設定しているときは、パスワードを入力する画面が表示されます。

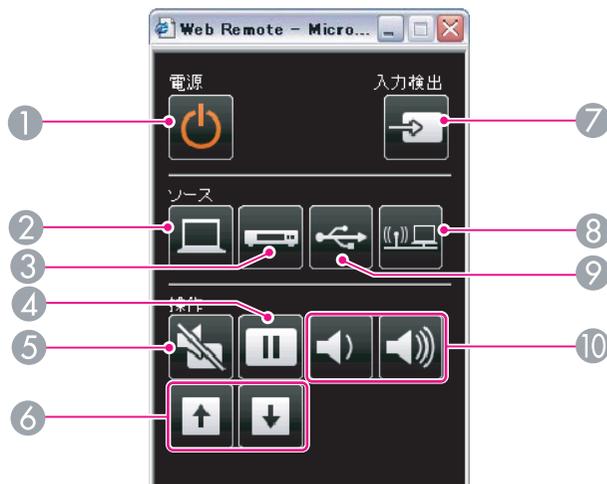
Web Remote画面を表示する

Web Remote機能では、プロジェクターのリモコンでの操作をWebブラウザで行うことができます。

- 1 Web制御画面を表示します。
- 2 Web Remoteをクリックします。



- 3 Web Remote画面が表示されます。



名称	働き
1 【 ⏻ 】ボタン	本機の電源をオン/オフします。 ☛「設置から投写までの流れ」 p.26

名称	働き
2 【 コンピューター 】ボタン	コンピューター入力端子からの映像に切り替えます。
3 【 ビデオ 】ボタン	押すたびに、ビデオ入力端子、HDMI入力端子 (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)からの映像に切り替えます。
4 【 静止 】ボタン	映像を一時停止/解除します。 ☛「映像を停止させる (静止)」 p.52
5 【 A/Vミュート 】ボタン	映像と音声を一時的に遮断/解除します。 ☛「映像と音声を一時的に消す (A/Vミュート)」 p.51
6 【 ページ 】ボタン 【 送り 】 【戻し 】	以下のときに、PowerPointファイルなどのページを送り/戻しします。 <ul style="list-style-type: none"> • ワイヤレスマウス機能時 ☛「リモコンでマウスポインターを操作する (ワイヤレスマウス)」 p.54 • USBディスプレイ時 ☛「USBディスプレイで投写する」 p.28 • ネットワーク接続時 (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ) スライドショーで投写しているときは、画像またはシナリオを送り/戻しします。
7 【 入力検出 】ボタン	映像信号が入力されている入力端子からの映像に切り替えます。 ☛「入力信号を自動検出して切り替える (入力検出)」 p.27
8 【 LAN 】ボタン	EasyMP Network Projectionで投写している映像に切り替えます。オプションのクイックワイヤレス用USBキーを使って投写しているときは、その映像に切り替えます。(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ) ☛「リモコンで目的の映像に切り替える」 p.28

名称	働き
⑨ 【USB】ボタン	<p>押すたびに、以下の映像に切り替えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • USBディスプレイ • USB端子に接続した機器からの映像 <p>☛ 「リモコンで目的の映像に切り替える」 p.28</p>
⑩ 【音量】ボタン 【◀】【▶】	<p>【◀】音量を下げます。 【▶】音量を上げます。</p> <p>☛ 「音量を調整する」 p.38</p>

メール通知機能で異常を通知する

メール通知機能の設定をしておく、異常/警告状態になったとき、設定したメールアドレスに異常状態が電子メールで通知されます。これにより、離れた場所においても本機の異常を知ることができます。

☛ [ネットワーク]-[メール]-[メール通知機能] p.82



- 送信先(宛先)は最大3つまで登録でき、一括して送ることができます。
 - 本機に致命的な異常が発生し、瞬時に起動停止状態になった場合などは、メール送信できないことがあります。
 - [待機モード]を[通信オン]に設定しておく、本機がスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、制御ができます。
- ☛ [拡張設定]-[待機モード] p.74

異常通知メールの見方

メール通知機能をオンに設定していて本機が異常/警告状態になったときには、次のメールが送付されます。

メールタイトル：EPSON Projector

1行目：異常が生じたプロジェクターのプロジェクター名

2行目：異常が生じたプロジェクターに設定されているIPアドレス

3行目以降：異常の内容

異常の内容は、1行に1つずつ記載されています。メッセージの示す内容は以下のとおりです。

- Internal error(内部異常)
- Fan related error(ファン異常)
- Sensor error(センサー異常)
- Lamp timer failure(ランプ点灯失敗)
- Lamp out(ランプ異常)
- Internal temperature error(内部高温異常/オーバーヒート)
- High-speed cooling in progress(高温警告)
- Lamp replacement notification(ランプ交換勧告)
- No-signal(ノーシグナル)
本機に映像信号が入力されていません。接続状態や、接続している機器の電源が入っているかを確認してください。
- Auto Iris Error(オートアイリス異常)
- Power Err. (Ballast)(電源系異常/バラスト)

異常/警告の対処方法は、以下をご確認ください。

☛ 「インジケータの見方」 p.88

SNMPを使って管理する

環境設定メニューで[SNMP]を[オン]に設定をしておく、異常/警告状態になったとき、設定したコンピューターに異常状態が通知されます。これにより、離れた場所で集中管理している状態でも本機の異常を知ることができます。

☛ [ネットワーク]-[その他]-[SNMP] p.82



- SNMPによる管理は、必ず、ネットワーク管理者などネットワークに詳しい人が行ってください。
- SNMP機能を使って本機を監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャープログラムがインストールされている必要があります。
- SNMPを使った管理機能は、無線LANのかんたんモードでは使用できません。
- 通知先のIPアドレスは2つまで登録できます。

ESC/VP21コマンド

コンピューターからUSB経由で本機の監視・制御が行えます。本機とプロジェクターをUSBケーブルで接続し、通信コマンド(ESC/VP21コマンド)を入力して行います。

始める前に

ESC/VP21コマンドでプロジェクターを監視・制御するには以下の準備が必要です。

- 1 お使いのコンピューターにUSB通信ドライバー(EPSON USB-COM Driver)をインストールします。EPSON USB-COM Driverは以下のWebサイトからダウンロードできます。
<http://www.epson.jp/download/>
- 2 本機の環境設定メニューで[USB Type B]を[Link 21L]に設定します。
☛ [拡張設定]-[USB Type B] p.74
- 3 [Link 21L]を[オン]に設定します。
☛ [拡張設定]-[Link 21L] p.74
- 4 コンピューターのUSB端子と本機のUSB(TypeB)端子をUSBケーブルで接続します。
2回目以降は手順2から始めます。

コマンドリスト

本機に電源オンのコマンドを送信すると、電源が入りウォームアップ状態になります。本機は電源オンの状態になったときにコロン ':' (3Ah) を返信します。

このように本機はコマンドを受け取ると、そのコマンドを実行後 ':' を返信し、次のコマンドを受け付けます。

異常終了のときは、エラーメッセージを出力した後に ':' を返信しません。

項目		コマンド	
電源のオン/オフ	オン	PWR ON	
	オフ	PWR OFF	
信号切り替え	コンピューター	オート	SOURCE 1F
		RGB	SOURCE 11

項目		コマンド
	コンポーネント	SOURCE 14
	HDMI (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)	SOURCE 30
	ビデオ	SOURCE 41
	USB Display	SOURCE 51
	USB	SOURCE 52
	LAN (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)	SOURCE 53
A/Vミュート機能のオン/オフ	オン	MUTE ON
	オフ	MUTE OFF
A/Vミュート機能の切り替え	黒	MSEL 00
	青	MSEL 01
	ロゴ	MSEL 02

各コマンドの最後に、復帰(CR)コード(0Dh)を追加して送信してください。

通信プロトコル

- ボーレート基準速度：9600bps
- データ長：8bit
- パリティ：なし
- ストップビット：1bit
- フロー制御：なし

番号を確認して以下のとおり対処してください。問題が解決しない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせいただくか、次に記載の連絡先にお問い合わせください。

☛ 『お問い合わせ先』

Event ID	要因	対処法
0432 0435	EasyMP Network Projectionの起動に失敗しました。	プロジェクターを再起動してください。
0434 0482 0484 0485	ネットワークの通信状態が不安定です。	ネットワークの通信状態を確認して、しばらくしてから再接続してください。
0433	転送された画像を再生できません。	EasyMP Network Projectionを再起動してください。
0481	コンピューターから通信が切断されました。	
0483 04FE	EasyMP Network Projectionが予期せず終了しました。	ネットワークの通信状態を確認して、プロジェクターを再起動してください
0479 04FF	プロジェクターにシステムエラーが発生しました。	プロジェクターを再起動してください。
0891	同じSSIDのアクセスポイントが見つかりません。	コンピューターやアクセスポイントとプロジェクターを同じSSIDに設定してください。
0892	WPA/WPA2の認証方式が一致しません。	無線LANセキュリティの設定が正しいか確認してください。
0893	WEP/TKIP/AESの暗号化方式が一致しません。	☛ [セキュリティ] p.80
0894	不正なアクセスポイントに接続したため通信が切断されました。	ネットワーク管理者に確認して指示に従ってください。
0898	DHCPの取得に失敗しました。	DHCPサーバーが正しく動作しているか確認してください。DHCPを使用しないときは、DHCPの設定をオフにしてください。 ☛ [無線LAN]-[IP設定] p.79
0895 0899	その他、接続に関するエラー	プロジェクターまたはEasyMP Network Projectionを再起動しても問題が解決しない場合は、次に記載の連絡先にお問い合わせください。 ☛ 『お問い合わせ先』

JBMIA(社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会)によりネットワーク対応プロジェクターの制御用プロトコルの標準化が進められ、制御用標準プロトコルPJLink Class1が策定されました。

本機は、JBMIAが策定したPJLink Class1の規格に適合しています。

PJLink Class1で定義されているコマンドのうち、以下の内容を除く全コマンドに対応しており、PJLink 規格適合性検証で適合を確認しています。

URL : <http://pjlink.jbmia.or.jp/>

● 非対応コマンド

機能		PJLinkコマンド
ミュート設定	映像ミュート設定	AVMT 11
	音声ミュート設定	AVMT 21

● PJLinkで定義している入力名と本機の入カソースの対応

入カソース	PJLinkコマンド
コンピューター	INPT 11
ビデオ	INPT 21
HDMI	INPT 32
USB	INPT 41
LAN	INPT 52
USB Display	INPT 53

● 「メーカー名問合せ」で表示するメーカー名

EPSON

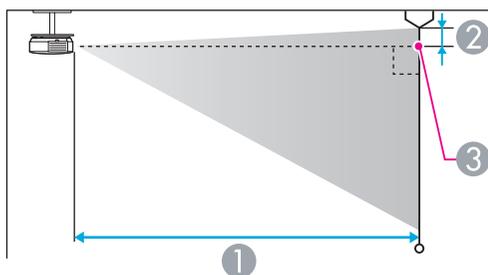
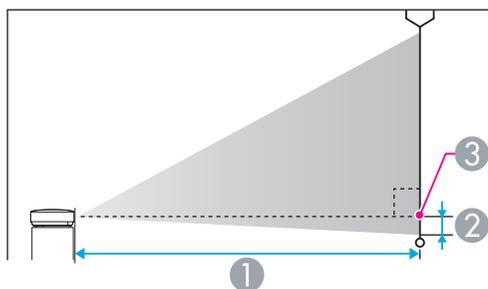
● 「機種情報問合せ」で表示する機種名

EB-1775W/PowerLite 1775W/EB-C300MS

EB-1770W/PowerLite 1770W/EB-C300MN/EB-C3010WN

EB-1760W/PowerLite 1760W/EB-C260MN

EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wの投写距離表



- ① 投写距離
- ② レンズ中心からスクリーン下端
(天吊りの場合はスクリーン上端)までの高さ
- ③ レンズ中心

単位：cm

4:3スクリーンサイズ		① 最短(ワイド)～最長(テレ)	②
28型	57x43	71 ~ 85	-4
30型	61x46	76 ~ 91	-4
40型	81x61	102 ~ 122	-6

4:3スクリーンサイズ		① 最短(ワイド)～最長(テレ)	②
50型	100x76	127 ~ 153	-7
60型	120x91	153 ~ 184	-8
80型	160x120	205 ~ 246	-11
100型	200x150	256 ~ 308	-14
150型	300x230	385 ~ 462	-21
200型	410x300	514 ~ 617	-28
250型	500x380	643 ~ 771	-35
260型	520x400	668 ~ 802	-36

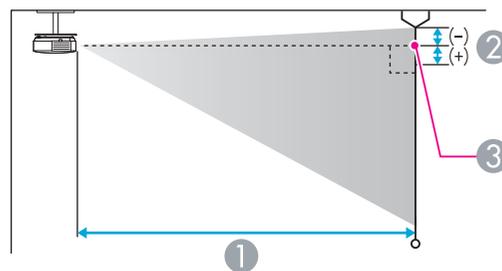
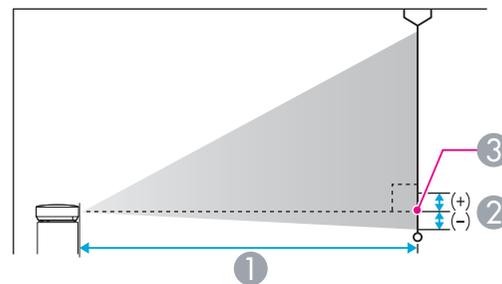
単位：cm

16:9スクリーンサイズ		① 最短(ワイド)～最長(テレ)	②
30型	66x37	69 ~ 83	-2
40型	89x50	92 ~ 111	-2
50型	110x62	115 ~ 139	-3
60型	130x75	139 ~ 167	-3
70型	160x87	162 ~ 195	-4
80型	180x100	186 ~ 223	-5
100型	220x120	232 ~ 279	-6
150型	330x190	349 ~ 419	-8
200型	440x250	466 ~ 560	-11
250型	550x310	583 ~ 700	-14
280型	620x350	653 ~ 784	-16

単位：cm

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)~最長(テレ)	
30型	64x40	67 ~ 80	-4
40型	86x54	89 ~ 108	-5
50型	110x67	112 ~ 135	-6
60型	130x81	135 ~ 162	-7
80型	170x110	181 ~ 217	-10
100型	220x130	226 ~ 271	-12
150型	320x200	340 ~ 408	-18
200型	430x270	454 ~ 545	-24
250型	540x340	567 ~ 681	-31
300型	640x400	681 ~ 818	-37

EB-1750の投写距離表



- ① 投写距離
- ② レンズ中心からスクリーン下端
(天吊りの場合はスクリーン上端)までの高さ
- ③ レンズ中心

単位：cm

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)~最長(テレ)	
30型	61x46	72 ~ 86	-5
40型	81x61	96 ~ 116	-7
50型	100x76	120 ~ 145	-9
60型	120x91	145 ~ 174	-10

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)~最長(テレ)	
80型	160x120	194 ~ 233	-14
100型	200x150	242 ~ 291	-17
150型	300x230	364 ~ 438	-26
200型	410x300	486 ~ 584	-34
250型	510x380	608 ~ 730	-43
300型	610x460	730 ~ 877	-51

単位：cm

16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)~最長(テレ)	
30型	66x37	78 ~ 94	+1
40型	89x50	105 ~ 126	+1
50型	110x62	131 ~ 158	+1
60型	130x75	158 ~ 190	+1
70型	160x87	185 ~ 222	+1
80型	180x100	211 ~ 254	+2
100型	220x120	264 ~ 317	+2
150型	330x190	397 ~ 477	+3
200型	440x250	530 ~ 636	+4
250型	550x310	663 ~ 796	+5
275型	610x340	729 ~ 875	+6

対応解像度

コンピューター映像(アナログRGB)

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
VGA	60/72/75/85	640x480
SVGA	56/60/72/75/85	800x600
XGA	60/70/75/85	1024x768
WXGA	60	1280x768
	60	1360x768
	60/75/85	1280x800
WXGA+	60/75/85	1440x900
SXGA	70/75/85	1152x864
	60/75/85	1280x1024
	60/75/85	1280x960
SXGA+	60/75	1400x1050
WSXGA+※1,2	60	1680x1050
UXGA	60	1600x1200
MAC13"	67	640x480
MAC16"	75	832x624
MAC19"	75	1024x768
	59	1024x768
MAC21"	75	1152x870

※1 (EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)

※2 環境設定メニューの[入力解像度]で[ワイド]を選択しているときに限り対応します。

上記以外の信号が入力された場合でも、映像を投写することがあります。ただし、この場合、機能が制限されることがあります。

コンポーネントビデオ

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
SDTV(480i)	60	720x480
SDTV(576i)	50	720x576
SDTV(480p)	60	720x480
SDTV(576p)	50	720x576
HDTV(720p)	50/60	1280x720
HDTV(1080i)	50/60	1920x1080
HDTV(1080p)	24/30/50/60	1920x1080

コンポジットビデオ

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
TV(NTSC)	60	720x480
TV(SECAM)	50	720x576
TV(PAL)	50/60	720x576

HDMI入力端子からの入力信号(EB-1775W/EB-1770W/EB-1760Wのみ)

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
VGA	60	640x480
SVGA	60	800x600
XGA	60	1024x768
WXGA	60	1280x800
SXGA	60	1280x960
	60	1280x1024
SXGA+	60	1400x1050

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
UXGA	60	1600x1200
SDTV(480i/480p)	60	720x480
SDTV(576i/576p)	50	720x576
HDTV(720p)	50/60	1280x720
HDTV(1080i)	50/60	1920x1080
HDTV(1080p)	24/30/50/60	1920x1080

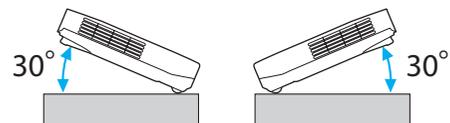
本機仕様

商品名	EB-1775W	EB-1770W	EB-1760W	EB-1750
外形サイズ	幅292x高さ44x奥行210mm (突起部含まず)			
液晶パネルサイズ	0.59型ワイド			0.55型
表示方式	ポリシリコンTFT アクティブマトリクス			
画素数	1,024,000個 WXGA(横1280x縦800ドット)x3			786,432個 XGA(横1024x縦768ドット) x3
フォーカス調整	電動/自動	手動		
ズーム調整	手動(1-1.2)			
ランプ	UHEランプ 定格230W 型番：ELPLP65		UHEランプ 定格205W 型番：ELPLP65	UHEランプ 定格230W 型番：ELPLP65
音声最大出力	1Wモノラル			
スピーカー	1個			
電源	100-240V AC±10%,50/60Hz 3.3-1.5A		100-240V AC±10%,50/60Hz 3.0-1.4A	100-240V AC±10%,50/60Hz 3.3-1.5A
消費電力	100-120Vエリア	定格消費電力：322W 待機時消費電力(通信オン)：7.4W 待機時消費電力(通信オフ)：0.38W	定格消費電力：293W 待機時消費電力(通信オン)：7.4W 待機時消費電力(通信オフ)：0.38W	定格消費電力：322W 待機時消費電力(通信オン)：7.4W 待機時消費電力(通信オフ)：0.38W
	220-240Vエリア	定格消費電力：304W 待機時消費電力(通信オン)：7.7W 待機時消費電力(通信オフ)：0.44W	定格消費電力：278W 待機時消費電力(通信オン)：7.7W 待機時消費電力(通信オフ)：0.44W	定格消費電力：304W 待機時消費電力(通信オン)：7.7W 待機時消費電力(通信オフ)：0.44W
動作高度	標高 0～2286m			
動作温度範囲	5～+35℃(結露しないこと)			
保存温度範囲	-10～+60℃(結露しないこと)			
質量	約1.7kg			

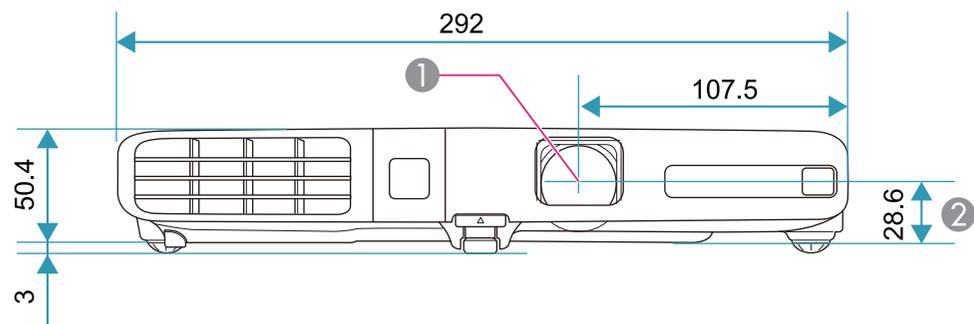
商品名		EB-1775W	EB-1770W	EB-1760W	EB-1750
接続端子	コンピューター入力端子	1系統	ミニD-Sub 15pin(メス)		
	ビデオ入力端子	1系統	RCAピンジャック		
	音声入力端子	1系統	ステレオミニピンジャック		
	HDMI入力端子	1系統	HDMI(音声はPCMにのみ対応)		—
	USB(TypeA)端子※	1系統	USBコネクタ(Aタイプ)		
	USB(TypeB)端子※	1系統	USBコネクタ(Bタイプ)		
	USB端子 (無線LANユニット専用)	1系統	USBコネクタ(Aタイプ)		—

※ USB2.0に対応しています。ただし、USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。

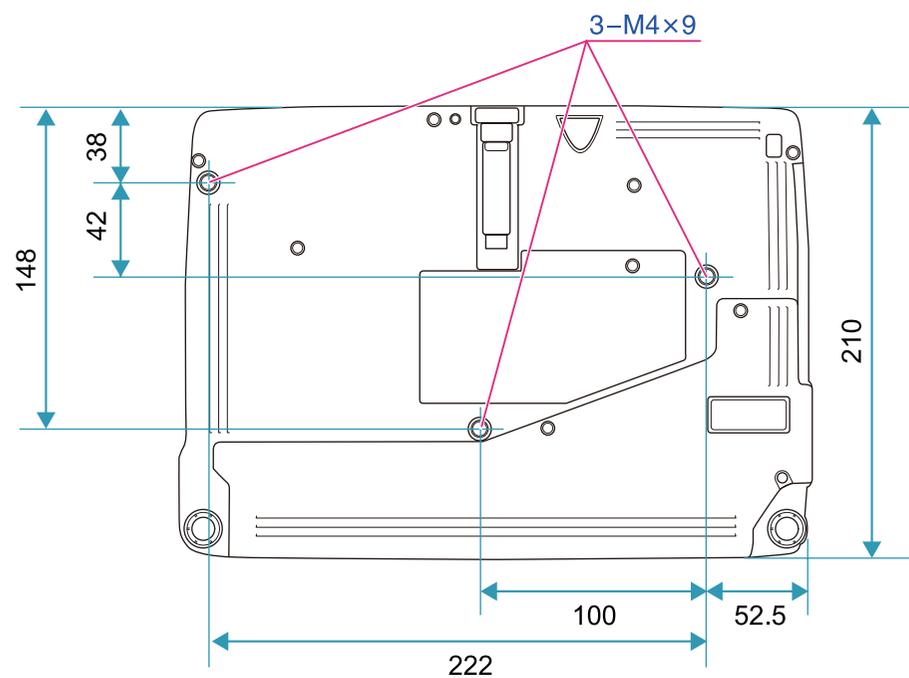
傾斜角度



30°以上傾けてお使いになると、故障や事故の原因となります。



- ① レンズ中心
- ② レンズ中心から天吊り固定部までの寸法



単位：mm

本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

AMX Device Discovery	AMX Device Discoveryとは、AMX社のコントロールシステムとその対象機器の構成を容易にする、AMX社の提唱する技術です。エプソンでは、その技術のプロトコルを導入して、そのプロトコル機能を有効(ON)にできる設定を用意しました。詳細に関しては、AMX社のWebサイトを参照してください。 URL http://www.amx.com/
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocolの略で、ネットワークに接続する機器に、 IPアドレス を自動的に割り当てるプロトコルのことです。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略でDVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。本機のHDMI入力端子はHDCPに対応しているためHDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 垂直解像度720p、1080i以上(pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査) • 画面のアスペクト比は16:9
IPアドレス	ネットワークに接続されたコンピューターを識別するための数字のことです。
S-ビデオ	映像信号を輝度信号(Y)や色信号(C)に分離して伝送する方式です。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、 HDTV の条件を満たさない標準テレビ放送のことです。
SNMP	Simple Network Management Protocolの略で、TCP/IPネットワークにおいてルーターやコンピューター、端末などネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコルです。
sRGB	各画像装置が表現する色をコンピューターのオペレーティングシステム(OS)やインターネットで簡単に扱うために規定された色空間に関する国際標準です。接続している機器にsRGBモードがある場合、本機と接続機器の両方ともsRGBに設定します。
SSID	SSIDは、無線LANの環境で相手と接続するための識別データです。SSIDが一致している機器どうしで無線通信できます。
SVGA	画面サイズの規格で、横800ドットx縦600ドットのもの呼びます。
SXGA	画面サイズの規格で、横1,280ドットx縦1,024ドットのもの呼びます。
VGA	画面サイズの規格で、横640ドットx縦480ドットのもの呼びます。
XGA	画面サイズの規格で、横1,024ドットx縦768ドットのもの呼びます。
アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。横：縦の比率が16：9の、HDTVなどの画面をワイド画面といいます。SDTVや、一般的なコンピューターのディスプレイのアスペクト比は4：3です。
インターレース	1つの画面を作り出す情報を上から下へ1つ飛ばしに伝送します。1フレームの表示が1ラインおきとなるため、ちらつき(フリッカー)が出やすくなります。
ゲートウェイアドレス	サブネットマスク によって分割したネットワーク(サブネット)を超えて通信するためのサーバー(ルーター)のことです。

コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がハッキリ見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といいます。
コンポーネントビデオ	映像信号を、輝度信号(Y)や青色差信号(CbまたはPb)と赤色差信号(CrまたはPr)に分離して伝送する方式です。
コンジットビデオ	映像信号の輝度信号や色信号を、1本のケーブルで伝送する方式です。
サブネットマスク	IPアドレスから、分割したネットワーク(サブネット)のネットワークアドレスに使用するビット数を定義する数値のことです。
同期	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないときれいな映像になりません。信号の位相(山のずれ)を合わせることを同期を合わせるといいます。同期が合っていないと映像にちらつき、ぼやけ、横方向のノイズが出ます。
トラッキング	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。その周波数に本機の周波数を合わせないときれいな映像になりません。信号の周波数(山の数)を合わせることをトラッキングを合わせるといいます。トラッキングが合っていないと映像に幅広の縦の縞模様が出ます。
トラップIPアドレス	SNMPで異常を通知する場合の、通知先のコンピューターのIPアドレス▶▶のことです。
プログレッシブ	1つの画面を作り出す情報を一度で映し出して1フレーム分の映像を表示します。そのため走査線の本数が同じでもインターレースと比べて時間あたりの情報量が2倍になるためちらつきが少ない映像になります。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(「お問い合わせ先」参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

電源ケーブルは販売国の電源仕様にに基づき同梱されています。本機を販売国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源ケーブルを現地にしてお求めください。

瞬低(瞬時電圧低下)基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

表記について

Microsoft® Windows® 98 operating system
 Microsoft® Windows® Me operating system
 Microsoft® Windows® 2000 operating system
 Microsoft® Windows® XP Professional operating system
 Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system
 Microsoft® Windows Vista® operating system
 Microsoft® Windows® 7 operating system

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Windows 98」、「Windows Me」、「Windows 2000」、「Windows XP」、「Windows Vista」、「Windows 7」と表記しています。また、Windows 98、Windows Me、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Windows 7を総称する場合はWindows、複数のWindowsを併記する場合はWindows 98/Me/2000/XP/Vistaのように、Windowsの表記を省略することがあります。

Mac OS X 10.3.x
 Mac OS X 10.4.x
 Mac OS X 10.5.x
 Mac OS X 10.6.x

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Mac OS X 10.3.9」、「Mac OS X 10.4.x」、「Mac OS X 10.5.x」、「Mac OS X 10.6.x」と表記しています。またこれらを総称する場合は「Mac OS」と表記します。

商標について

IBM、DOS/V、XGAは、International Business Machines Corp.の商標または登録商標です。

Macintosh、Mac、Mac OS、iMacは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Vista、Windows 7、PowerPoint、Windows ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

WPA™、WPA2™はWi-Fi Allianceの登録商標です。

HDMIとHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing LLCの商標、または登録商標です。



PJLinkは、日本、米国、その他の国や地域における商標または登録商標です。なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

©SEIKO EPSON CORPORATION 2010. All rights reserved.

GNU GPL 適用ソフトウェアについて

- (1) 当社は、GNU General Public License Version 2, June 1991 またはそれ以降のバージョン(以下「GPL」)の適用対象となる以下のオープンソースソフトウェアをGPLの条件に従い本製品に利用しています。

当社は、本製品に含まれるGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアについてGPLに基づきソースコードを開示しています。当該オープンソースソフトウェアの複製、改変、頒布を希望される方は、カリフォルニア州インフォメーションセンターにお問い合わせください。開示期間は、本製品の販売終了後5年間とさせていただきます。

なお、当該オープンソースソフトウェアを複製、改変、頒布する場合はGPLの条件に従ってください。

また、当該オープンソースソフトウェアは現状有姿のまま提供されるものとし、如何なる種類の保証も提供されません。ここでいう保証とは、商品化、商業可能性および使用目的についての適切性ならびに第三者の権利(特許権、著作権、営業秘密を含むがこれに限定されない)を侵害していないことに関する保証をいいますが、これに限定されるものではありません。

- (2) 上記(1)のとおり、本製品に含まれるGPLおよびLGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェア自体の保証はありませんが、本製品の不具合(当該オープンソースソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。
- (3) 本製品に含まれるGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアは下記のとおりであり、その著作権者は(1)にて開示されるソースコード内に記載してあります。

GPL適用ソフトウェアパッケージリスト

busybox-1.13.4
iptables-1.4.2
libgcc1(gcc-4.3.3)
linux-2.6.27
patches
udhcp 0.9.8
uvc rev.219
wireless_tools 29
EPSON original drivers

GPL 適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。また、以下のWeb サイトでもご覧いただけます。

<http://www.gnu.org/licenses/gpl.html>

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all. The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
 - a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
 - b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
 - c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.
6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.
7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.
8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.
10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

GNU LGPL 適用ソフトウェアについて

- (1) 当社は、GNU LESSER General Public License Version 2, June 1991 またはそれ以降のバージョン(以下「LGPL」)の適用対象となる以下のオープンソースソフトウェアをLGPLの条件に従い本製品に利用しています。
当社は、本製品に含まれるLGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアについてLGPLに基づきソースコードを開示しています。当該オープンソースソフトウェアの複製、改変、頒布を希望される方は、カラリオインフォメーションセンターにお問い合わせください。開示期間は、本製品の販売終了後5年間とさせていただきます。
なお、当該オープンソースソフトウェアを複製、改変、頒布する場合はLGPLの条件に従ってください。
また、当該オープンソースソフトウェアは現状有姿のまま提供されるものとし、如何なる種類の保証も提供されません。ここでいう保証とは、商品化、商業可能性および使用目的についての適切性ならびに第三者の権利(特許権、著作権、営業秘密を含むがこれに限定されない)を侵害していないことに関する保証をいいますが、これに限定されるものではありません。

- (2) 上記(1)のとおり、本製品に含まれるGPLおよびLGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェア自体の保証はありませんが、本製品の不具合(当該オープンソースソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。
- (3) 本製品に含まれるGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアは下記のとおりであり、その著作権者は(1)にて開示されるソースコード内に記載してあります。

LGPL適用ソフトウェアパッケージリスト

glibc-2.10

SDL-1.2.13

SDL-Image

LGPL 適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。また、以下のWeb サイトでもご覧いただけます。

LGPL : <http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html>

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.
You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.
2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
 - a) The modified work must itself be a software library.
 - b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
 - c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:
 - a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
 - b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.
8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.
11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.
16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990

Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

University of California, Berkeley(UCB)によるBSDライセンス適用ソフトウェアについて

当社は、University of California, BerkeleyによるBSDライセンス(以下「UCB BSDライセンス」)の適用対象となる以下のオープンソースソフトウェアを当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件に従い本製品に利用しています。

なお、当該オープンソースソフトウェアはその性格上、当該オープンソースソフトウェア自体の保証はありませんが、本製品の不具合(当該オープンソースソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

UCB BSDライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

busybox-1.13.4

UCB BSDライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright (c) The Regents of the University of California. All rights reserved.

This code is derived from software contributed to Berkeley by Kenneth Almquist.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

libjpegについて

当社はオープンソースソフトウェア「libjpeg」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件(以下「libjpegライセンス」)に従い本製品に利用しています。

「libjpeg」のライセンス条件は以下の通りです。

なお、「libjpeg」はオープンソースソフトウェアという性格上、「libjpeg」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「libjpeg」に起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

libjpegライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

libjpeg-6b

libjpegライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright (C) 1994-1997, Thomas G. Lane. This file is part of the Independent JPEG Group's software. For conditions of distribution and use, see the accompanying README file.

This distribution contains the sixth public release of the Independent JPEG Group's free JPEG software. You are welcome to redistribute this software and to use it for any purpose, subject to the conditions under LEGAL ISSUES, below.

LEGAL ISSUES

=====

In plain English:

1. We don't promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us know!)
2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.

3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG code.

In legalese:

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

This software is copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane. All Rights Reserved except as specified below.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:

- (1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.
- (2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".
- (3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

ansi2knr.c is included in this distribution by permission of L. Peter Deutsch, sole proprietor of its copyright holder, Aladdin Enterprises of Menlo Park, CA. ansi2knr.c is NOT covered by the above copyright and conditions, but instead by the usual distribution terms of the Free Software Foundation; principally, that you must include source code if you redistribute it. (See the file ansi2knr.c for full details.) However, since ansi2knr.c is not needed as part of any program generated from the IJG code, this does not limit you more than the foregoing paragraphs do.

The Unix configuration script "configure" was produced with GNU Autoconf. It is copyright by the Free Software Foundation but is freely distributable. The same holds for its supporting scripts (config.guess, config.sub, ltconfig, ltmain.sh). Another support script, install-sh, is copyright by M.I.T. but is also freely distributable.

It appears that the arithmetic coding option of the JPEG spec is covered by patents owned by IBM, AT&T, and Mitsubishi. Hence arithmetic coding cannot legally be used without obtaining one or more licenses. For this reason, support for arithmetic coding has been removed from the free JPEG software. (Since arithmetic coding provides only a marginal gain over the unpatented Huffman mode, it is unlikely that very many implementations will support it.) So far as we are aware, there are no patent restrictions on the remaining code.

The IJG distribution formerly included code to read and write GIF files. To avoid entanglement with the Unisys LZW patent, GIF reading support has been removed altogether, and the GIF writer has been simplified to produce "uncompressed GIFs". This technique does not use the LZW algorithm; the resulting GIF files are larger than usual, but are readable by all standard GIF decoders.

We are required to state that

"The Graphics Interchange Format(c) is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated."

libpngついて

当社はオープンソースソフトウェア「libpng」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件(以下「libpngライセンス」)に従い本製品に利用しています。

「libpng」のライセンス条件は以下の通りです。

なお、「libpng」はオープンソースソフトウェアという性格上、「libpng」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「libpng」に起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

libpngライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

libpng-1.2.7

libpngライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

For conditions of distribution and use, see copyright notice in png.h Copyright (c) 1998-2004 Glenn Randers-Pehrson (Version 0.96 Copyright (c) 1996, 1997 Andreas Dilger) (Version 0.88 Copyright (c) 1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.)

This copy of the libpng notices is provided for your convenience. In case of any discrepancy between this copy and the notices in the file png.h that is included in the libpng distribution, the latter shall prevail.

COPYRIGHT NOTICE, DISCLAIMER, and LICENSE:

If you modify libpng you may insert additional notices immediately following this sentence.

libpng version 1.2.6, September 12, 2004, is Copyright (c) 2004 Glenn Randers-Pehrson, and is distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.2.5 with the following individual added to the list of Contributing Authors

Cosmin Truta

libpng versions 1.0.7, July 1, 2000, through 1.2.5 - October 3, 2002, are Copyright (c) 2000-2002 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.0.6 with the following individuals added to the list of Contributing Authors

Simon-Pierre Cadieux

Eric S. Raymond

Gilles Vollant

and with the following additions to the disclaimer:

There is no warranty against interference with your enjoyment of the library or against infringement. There is no warranty that our efforts or the library will fulfill any of your particular purposes or needs. This library is provided with all faults, and the entire risk of satisfactory quality, performance, accuracy, and effort is with the user.

libpng versions 0.97, January 1998, through 1.0.6, March 20, 2000, are Copyright (c) 1998, 1999 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.96, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

Tom Lane

Glenn Randers-Pehrson

Willem van Schaik

libpng versions 0.89, June 1996, through 0.96, May 1997, are Copyright (c) 1996, 1997 Andreas Dilger Distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.88, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

John Bowler
Kevin Bracey
Sam Bushell
Magnus Holmgren
Greg Roelofs
Tom Tanner

libpng versions 0.5, May 1995, through 0.88, January 1996, are Copyright (c) 1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

For the purposes of this copyright and license, "Contributing Authors" is defined as the following set of individuals:

Andreas Dilger
Dave Martindale
Guy Eric Schalnat
Paul Schmidt
Tim Wegner

The PNG Reference Library is supplied "AS IS". The Contributing Authors and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied, including, without limitation, the warranties of merchantability and of fitness for any purpose. The Contributing Authors and Group 42, Inc. assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages, which may result from the use of the PNG Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this source code, or portions hereof, for any purpose, without fee, subject to the following restrictions:

1. The origin of this source code must not be misrepresented.
2. Altered versions must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source.
3. This Copyright notice may not be removed or altered from any source or altered source distribution.

The Contributing Authors and Group 42, Inc. specifically permit, without fee, and encourage the use of this source code as a component to supporting the PNG file format in commercial products. If you use this source code in a product, acknowledgment is not required but would be appreciated.

A "png_get_copyright" function is available, for convenient use in "about" boxes and the like:

```
printf("%s",png_get_copyright(NULL));
```

Also, the PNG logo (in PNG format, of course) is supplied in the files "pngbar.png" and "pngbar.jpg (88x31) and "pngnow.png" (98x31).

Libpng is OSI Certified Open Source Software. OSI Certified Open Source is a certification mark of the Open Source Initiative.

Glenn Randers-Pehrson
glennrp@users.sourceforge.net
September 12, 2004

zlibについて

当社はオープンソースソフトウェア「zlib」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件(以下「zlibライセンス」)に従い本製品に利用しています。

「zlib」のライセンス条件は以下の通りです。

なお、「zlib」はオープンソースソフトウェアという性格上、「zlib」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「zlib」に起因する不具合も含まれます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

zlibライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

zlib-1.1.4

zlibライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright notice:

(C) 1995-1998 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly
jloup@gzip.org

Mark Adler
madler@alumni.caltech.edu

If you use the zlib library in a product, we would appreciate *not* receiving lengthy legal documents to sign. The sources are provided for free but without warranty of any kind. The library has been entirely written by Jean-loup Gailly and Mark Adler; it does not include third-party code.

If you redistribute modified sources, we would appreciate that you include in the file ChangeLog history information documenting your changes.

libmd5-rfcについて

当社はオープンソースソフトウェア「libmd5-rfc」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件(以下「libmd5-rfcライセンス」)に従い本製品に利用しています。

「libmd5-rfc」のライセンス条件は以下の通りです。

なお、「libmd5-rfc」はオープンソースソフトウェアという性格上、「libmd5-rfc」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「libmd5-rfc」に起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

libmd5-rfcライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

libmd5-rfc

libmd5-rfcライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright (C) 1999, 2002 Aladdin Enterprises. All rights reserved.

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.

3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.
L. Peter Deutsch ghost@aladdin.com

Independent implementation of MD5 (RFC 1321).

This code implements the MD5 Algorithm defined in RFC 1321, whose text is available at

<http://www.ietf.org/rfc/rfc1321.txt>

The code is derived from the text of the RFC, including the test suite (section A.5) but excluding the rest of Appendix A. It does not include any code or documentation that is identified in the RFC as being copyrighted.

The original and principal author of md5.h is L. Peter Deutsch <ghost@aladdin.com>. Other authors are noted in the change history that follows (in reverse chronological order):

2002-04-13 lpd Removed support for non-ANSI compilers; removed

references to Ghostscript; clarified derivation from RFC 1321; now handles byte order either statically or dynamically.

1999-11-04 lpd Edited comments slightly for automatic TOC extraction.

1999-10-18 lpd Fixed typo in header comment (ansi2knr rather than md5);

added conditionalization for C++ compilation from Martin Purschke <purschke@bnl.gov>.

1999-05-03 lpd Original version.

mDNSResponderについて

当社はオープンソースソフトウェア「mDNSResponder」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者であるApple Computer, Inc.から提示された条件(以下「Apache-2.0ライセンス」)に従い本製品に利用しています。

なお、「mDNSResponder」はオープンソースソフトウェアという性格上、「mDNSResponder」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「mDNSResponder」に起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

Apache-2.0ライセンス適用ソフトウェアパッケージ

mDNSResponder-107.6 (mDNSResponderPosixのみ利用)

Apache-2.0ライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Apache License
Version 2.0, January 2004

<http://www.apache.org/licenses/>

TERMS AND CONDITIONS FOR USE, REPRODUCTION, AND DISTRIBUTION

1. Definitions.

"License" shall mean the terms and conditions for use, reproduction, and distribution as defined by Sections 1 through 9 of this document.

"Licensor" shall mean the copyright owner or entity authorized by the copyright owner that is granting the License.

"Legal Entity" shall mean the union of the acting entity and all other entities that control, are controlled by, or are under common control with that entity. For the purposes of this definition, "control" means (i) the power, direct or indirect, to cause the direction or management of such entity, whether by contract or otherwise, or (ii) ownership of fifty percent (50%) or more of the outstanding shares, or (iii) beneficial ownership of such entity.

"You" (or "Your") shall mean an individual or Legal Entity exercising permissions granted by this License.

"Source" form shall mean the preferred form for making modifications, including but not limited to software source code, documentation source, and configuration files.

"Object" form shall mean any form resulting from mechanical transformation or translation of a Source form, including but not limited to compiled object code, generated documentation, and conversions to other media types.

"Work" shall mean the work of authorship, whether in Source or Object form, made available under the License, as indicated by a copyright notice that is included in or attached to the work (an example is provided in the Appendix below).

"Derivative Works" shall mean any work, whether in Source or Object form, that is based on (or derived from) the Work and for which the editorial revisions, annotations, elaborations, or other modifications represent, as a whole, an original work of authorship. For the purposes of this License, Derivative Works shall not include works that remain separable from, or merely link (or bind by name) to the interfaces of, the Work and Derivative Works thereof.

"Contribution" shall mean any work of authorship, including the original version of the Work and any modifications or additions to that Work or Derivative Works thereof, that is intentionally submitted to Licensor for inclusion in the Work by the copyright owner or by an individual or Legal Entity authorized to submit on behalf of the copyright owner. For the purposes of this definition, "submitted" means any form of electronic, verbal, or written communication sent to the Licensor or its representatives, including but not limited to communication on electronic mailing lists, source code control systems, and issue tracking systems that are managed by, or on behalf of, the Licensor for the purpose of discussing and improving the Work, but excluding communication that is conspicuously marked or otherwise designated in writing by the copyright owner as "Not a Contribution."

"Contributor" shall mean Licensor and any individual or Legal Entity on behalf of whom a Contribution has been received by Licensor and subsequently incorporated within the Work.

2. Grant of Copyright License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable copyright license to reproduce, prepare Derivative Works of, publicly display, publicly perform, sublicense, and distribute the Work and such Derivative Works in Source or Object form.
3. Grant of Patent License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable (except as stated in this section) patent license to make, have made, use, offer to sell, sell, import, and otherwise transfer the Work, where such license applies only to those patent claims licensable by such Contributor that are necessarily infringed by their Contribution(s) alone or by combination of their Contribution(s) with the Work to which such Contribution(s) was submitted. If You institute patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Work or a Contribution incorporated within the Work constitutes direct or contributory patent infringement, then any patent licenses granted to You under this License for that Work shall terminate as of the date such litigation is filed.
4. Redistribution. You may reproduce and distribute copies of the Work or Derivative Works thereof in any medium, with or without modifications, and in Source or Object form, provided that You meet the following conditions:
 - (a) You must give any other recipients of the Work or Derivative Works a copy of this License; and

- (b) You must cause any modified files to carry prominent notices stating that You changed the files; and
- (c) You must retain, in the Source form of any Derivative Works that You distribute, all copyright, patent, trademark, and attribution notices from the Source form of the Work, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works; and
- (d) If the Work includes a "NOTICE" text file as part of its distribution, then any Derivative Works that You distribute must include a readable copy of the attribution notices contained within such NOTICE file, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works, in at least one of the following places: within a NOTICE text file distributed as part of the Derivative Works; within the Source form or documentation, if provided along with the Derivative Works; or, within a display generated by the Derivative Works, if and wherever such third-party notices normally appear. The contents of the NOTICE file are for informational purposes only and do not modify the License. You may add Your own attribution notices within Derivative Works that You distribute, alongside or as an addendum to the NOTICE text from the Work, provided that such additional attribution notices cannot be construed as modifying the License.

You may add Your own copyright statement to Your modifications and may provide additional or different license terms and conditions for use, reproduction, or distribution of Your modifications, or for any such Derivative Works as a whole, provided Your use, reproduction, and distribution of the Work otherwise complies with the conditions stated in this License.

- 5. Submission of Contributions. Unless You explicitly state otherwise, any Contribution intentionally submitted for inclusion in the Work by You to the Licensor shall be under the terms and conditions of this License, without any additional terms or conditions.

Notwithstanding the above, nothing herein shall supersede or modify the terms of any separate license agreement you may have executed with Licensor regarding such Contributions.

- 6. Trademarks. This License does not grant permission to use the trade names, trademarks, service marks, or product names of the Licensor, except as required for reasonable and customary use in describing the origin of the Work and reproducing the content of the NOTICE file.

- 7. Disclaimer of Warranty. Unless required by applicable law or agreed to in writing, Licensor provides the Work (and each Contributor provides its Contributions) on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied, including, without limitation, any warranties or conditions of TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. You are solely responsible for determining the appropriateness of using or redistributing the Work and assume any risks associated with Your exercise of permissions under this License.
- 8. Limitation of Liability. In no event and under no legal theory, whether in tort (including negligence), contract, or otherwise, unless required by applicable law (such as deliberate and grossly negligent acts) or agreed to in writing, shall any Contributor be liable to You for damages, including any direct, indirect, special, incidental, or consequential damages of any character arising as a result of this License or out of the use or inability to use the Work (including but not limited to damages for loss of goodwill, work stoppage, computer failure or malfunction, or any and all other commercial damages or losses), even if such Contributor has been advised of the possibility of such damages.
- 9. Accepting Warranty or Additional Liability. While redistributing the Work or Derivative Works thereof, You may choose to offer, and charge a fee for, acceptance of support, warranty, indemnity, or other liability obligations and/or rights consistent with this License. However, in accepting such obligations, You may act only on Your own behalf and on Your sole responsibility, not on behalf of any other Contributor, and only if You agree to indemnify, defend, and hold each Contributor harmless for any liability incurred by, or claims asserted against, such Contributor by reason of your accepting any such warranty or additional liability.

END OF TERMS AND CONDITIONS

APPENDIX: How to apply the Apache License to your work.

To apply the Apache License to your work, attach the following boilerplate notice, with the fields enclosed by brackets "[]" replaced with your own identifying information. (Don't include the brackets!) The text should be enclosed in the appropriate comment syntax for the file format. We also recommend that a file or class name and description of purpose be included on the same "printed page" as the copyright notice for easier identification within third-party archives.

Copyright [yyyy][name of copyright owner]

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
you may not use this file except in compliance with the License.

You may obtain a copy of the License at

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under
the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR
CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.

See the License for the specific language governing permissions and limitations
under the License.

数字・アルファベット

A/Vミュート	51
ESC/VP21	113
Eズーム	53
HDMI入力端子	11
HDMIビデオレベル	71
IPアドレス	82
Link 21L	113
PJLink	116
PJLinkパスワード	78
Quick Corner	73
SMTP サーバー	82
SNMP	113
sRGB	38
SSID	79
USB Type B	75
USB(TypeA)端子	11
USB(TypeB)端子	11
Web Remote	111
Web制御	110
Web制御パスワード	78
Webブラウザ	110

ア

明るさ	70
明るさ切替	73
アスペクト	40, 72
色合い	70
色の濃さ	70
インジケータ	88
エアフィルター・吸気口の掃除	101
エアフィルターの交換時期	105
エアフィルターの交換方法	105

映像メニュー	71
オートアイリス	39, 70
オーバーヒート	89
オプション品	109
温度インジケータ	88
音量	73

カ

解像度	120
拡張設定メニュー	74
各部の名称と働き	10
カスタム	39
画像を回転	47
画質調整メニュー	70
カラー調整	70
カラーモード	38, 70
環境設定メニュー	67
基本設定メニュー	78
繰り返し	51
ゲートウェイアドレス	79
言語	75
高地モード	75
黒板	38
故障かなと思ったら	88
コントラスト	70
コンピューター入力端子	11

サ

サブネットマスク	79
シアター	38
自動タテヨコ補正	73
自動調整	71
シャープネス	70

仕様一覧	122
情報メニュー	84
消耗品	109
書画カメラ	109
初期化メニュー	83, 84
ズームリング	10
スクリーンサイズ	117
スタートアップスクリーン	74
スポーツ	38
スライドショー	46, 49
スリープモード	75
静止	52
セキュリティーロット	12
セキュリティーメニュー	80
接続モード	79
絶対色温度	70
設置モード	74
設定メニュー	73
全初期化	85
全ロック	64
操作パネル	13
操作ボタンロック	64, 73
掃除	101
ソフトキーボード	77

タ

ターゲットスコープ	54
対応解像度	120
待機モード	75
台形補正	73
ダイナミック	38
ダイレクトパワーオン	75
テストパターン	74

電源端子	11
電源投入時	62
電池の交換方法	17
天吊り	19, 74
天吊り固定部	12
問い合わせコード	64
同期	71
同期情報	84
動作温度範囲	122
動作設定	75
投写距離	117
ドライブの選択	47
トラッキング	71

ナ

入力解像度	84
入力検出	13, 27
入力信号	84
入力信号方式	71
入力ソース	84
ネットワーク情報	76
ネットワーク設定画面	76
ネットワークメニュー	76
ノイズリダクション	71

ハ

排気口	10
背景表示	74
パスワードプロテクト	62
パスワードプロテクトシール	63
パワーインジケータ	88
ビデオ信号方式	71, 84
ビデオ入力端子	11

表示位置	71
表示時間設定	51
表示順序設定	51
表示設定	50, 74
フォーカスボタン	14
フォーカスリング	11
フォト	38
フットレバー	10
プレゼンテーション	38, 45
プログレッシブ変換	71
プロジェクターID	56, 75
プロジェクターキーワード	78
プロジェクターの設定	110
プロジェクター名	78
フロント	19, 74
フロントフット	10
ヘルプ機能	87
ポインター	52
ポインター形状	73
ポート番号	82
保存温度範囲	122
ホワイトボード	38
本機の掃除	101

マ

マウスポインター	54
マルチスクリーン	58, 75
無線LANインジケータ	10
無線LAN電源	79
無線LAN方式	79
無線LANユニットカバー	10
無線LANメニュー	79
メールアドレス	82

メール通知機能	82, 112
メール通知メニュー	82
メールの見方	112
メッセージ表示	74
メニュー	67

ヤ

ユーザーボタン	73
ユーザーロゴ	59
ユーザーロゴ保護	62

ラ

ランプインジケータ	88
ランプカバー	11
ランプ点灯時間	84
ランプ点灯時間の初期化	85, 105
ランプの交換時期	102
ランプの交換方法	103
リア	19, 74
リアスクリーン	19
リアフット	12
リフレッシュレート	84
リモコン	14
リモコンID	57
リモコン受光部	10, 12
レンズカバータイマー	75

ワ

ワイドサイズの映像	40
ワイヤレスマウス機能	54